

Ⅱ 地域福祉計画策定に関する調査

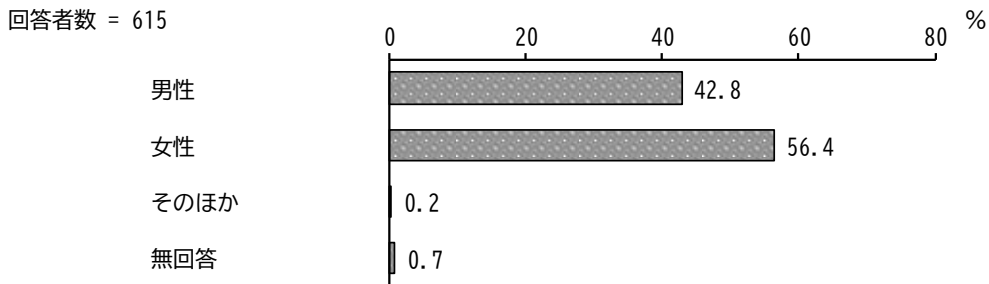
Ⅱ 地域福祉計画策定に関する調査

Ⅱ－1 一般市民調査

A. 回答者属性

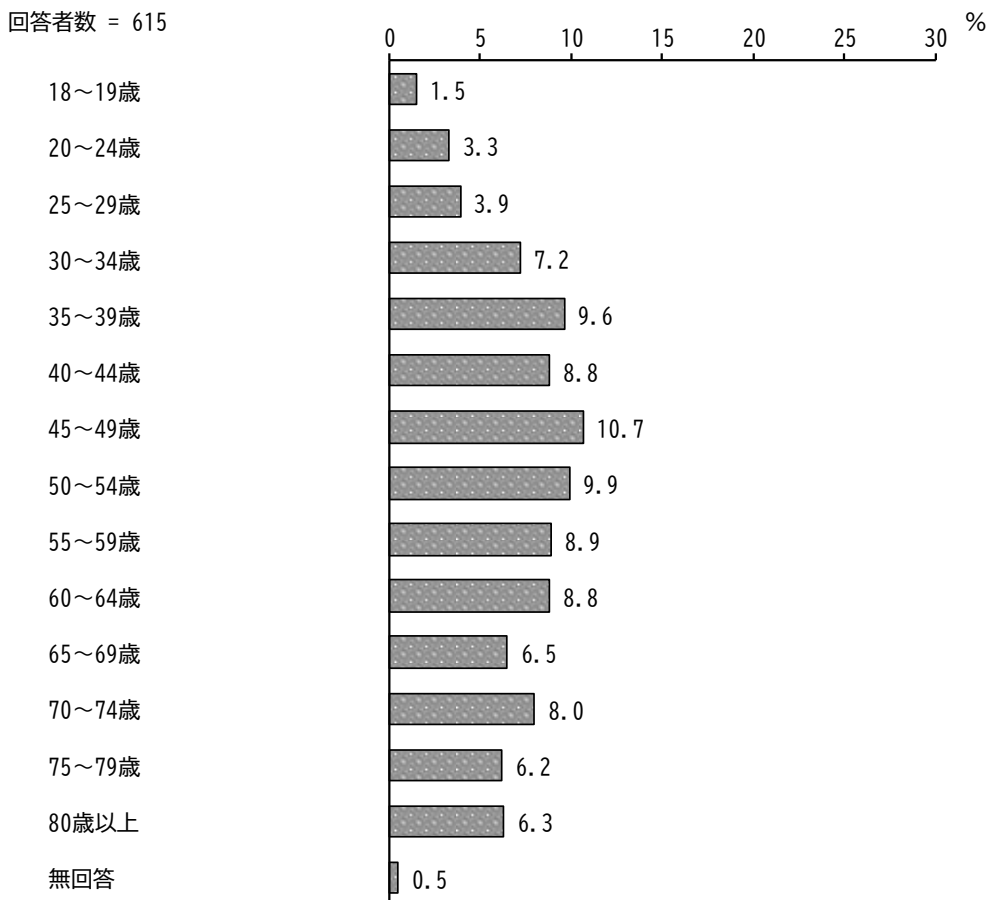
F1 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

「女性」の割合が56.4%と最も高く、次いで「男性」の割合が42.8%となっています。



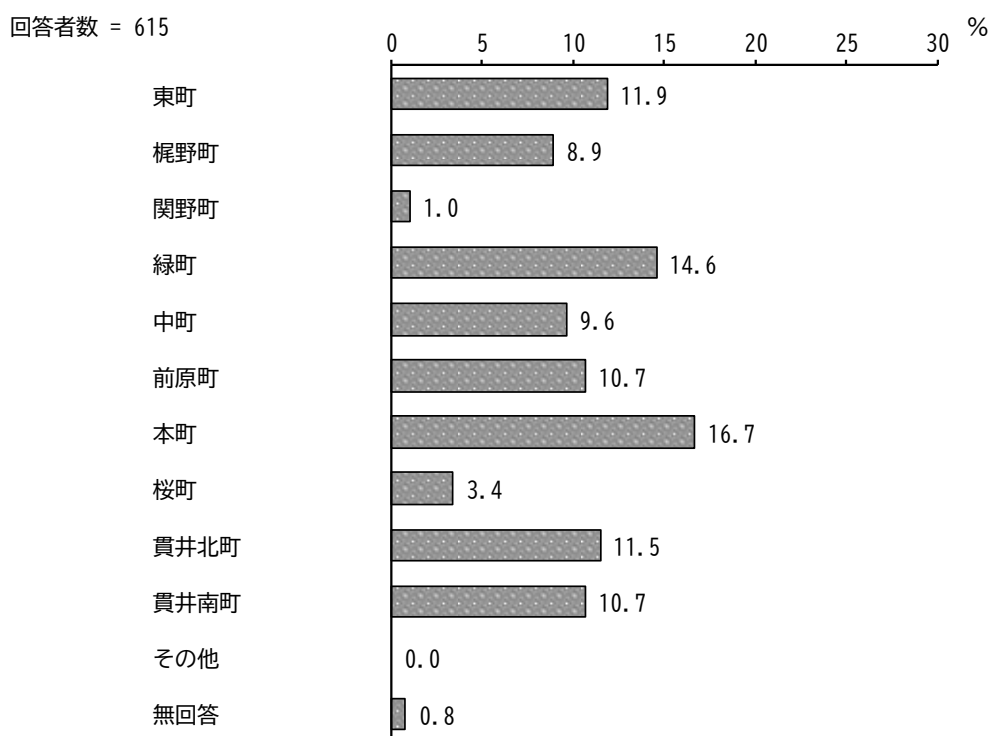
F2 あなたの年齢（令和4年12月1日現在）は次のどれですか。(1つに○)

「45～49歳」の割合が10.7%と最も高くなっています。



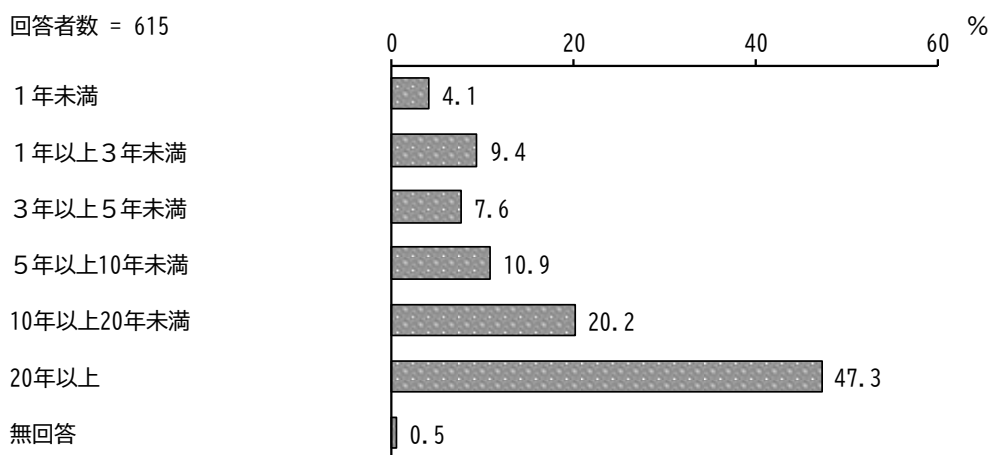
F3 あなたはどちらにお住まいですか。また、丁目を〔 〕内にご記入ください。(1つに○)

「本町」の割合が16.7%と最も高く、次いで「緑町」の割合が14.6%、「東町」の割合が11.9%となっています。



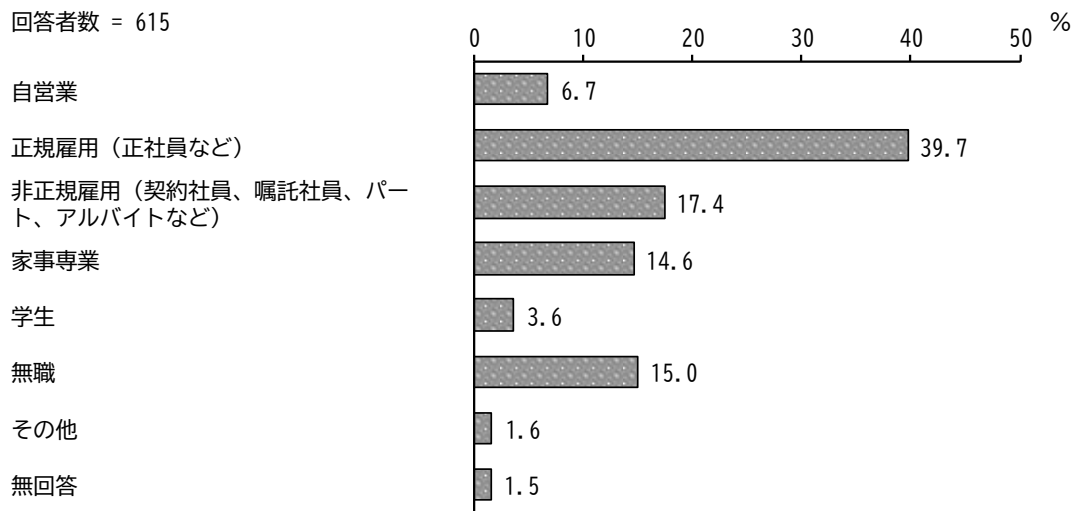
F4 あなたは小金井市に住んでどのくらいになりますか。(1つに○)

「20年以上」の割合が47.3%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が20.2%、「5年以上10年未満」の割合が10.9%となっています。



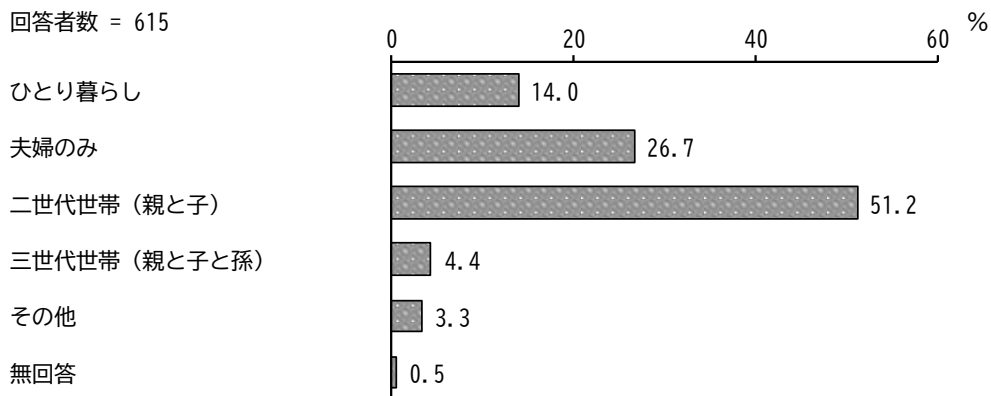
F 5 あなたの主な職業は何ですか。(1つに○)

「正規雇用（正社員など）」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「非正規雇用（契約社員、嘱託社員、パート、アルバイトなど）」の割合が 17.4%、「無職」の割合が 15.0%となっています。



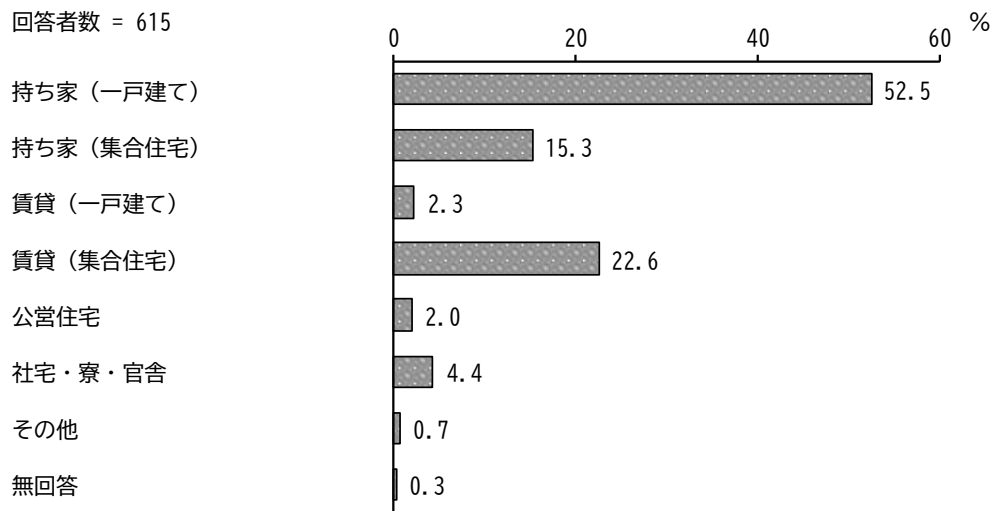
F 6 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(1つに○)

「二世世代世帯（親と子）」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が 26.7%、「ひとり暮らし」の割合が 14.0%となっています。



F7 あなたの住居形態はどれにあたりますか。(1つに○)

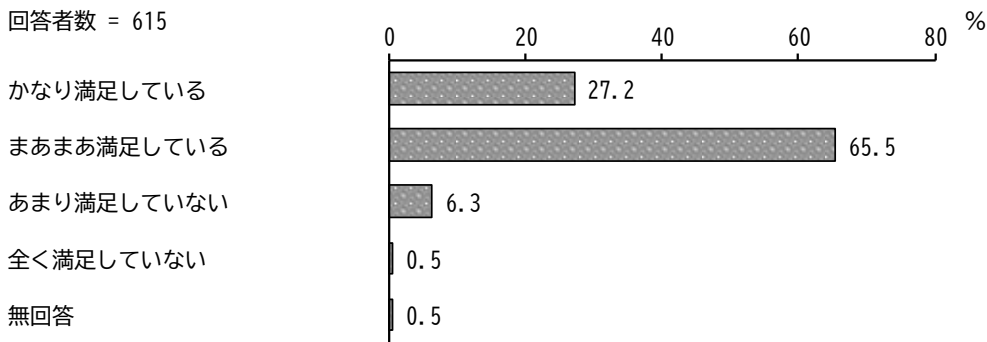
「持ち家(一戸建て)」の割合が52.5%と最も高く、次いで「賃貸(集合住宅)」の割合が22.6%、「持ち家(集合住宅)」の割合が15.3%となっています。



B. 「地域」との関わりについて

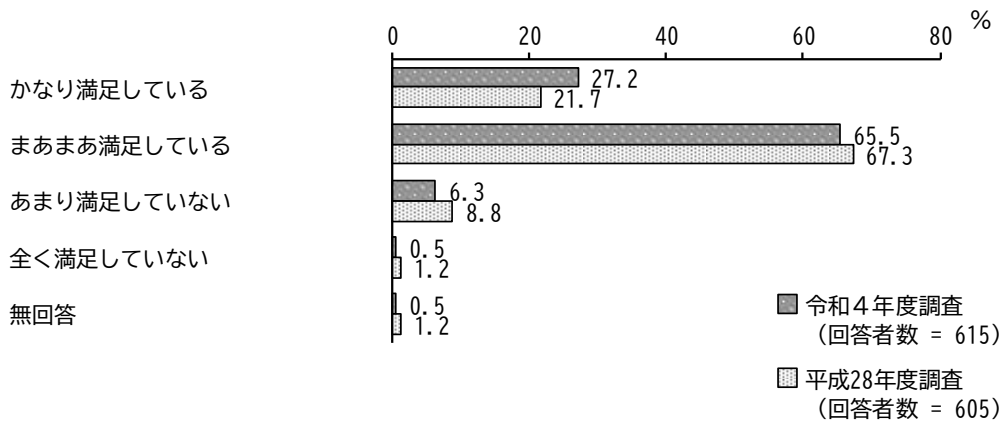
問1 あなたはご自分がお住まいになっている町内の住み心地に満足していますか。
(1つに○)

「まあまあ満足している」の割合が 65.5%と最も高く、次いで「かなり満足している」の割合が 27.2%となっています。



【経年比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「かなり満足している」の割合が増加しています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「かなり満足している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	かなり満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	全く満足していない	無回答
全体	615	27.2	65.5	6.3	0.5	0.5
18～29歳	53	39.6	56.6	3.8	—	—
30～49歳	223	23.3	67.7	7.6	0.9	0.4
50～64歳	170	25.3	68.2	5.3	0.6	0.6
65歳以上	166	30.7	62.0	6.6	—	0.6

【近所付き合いの程度別】

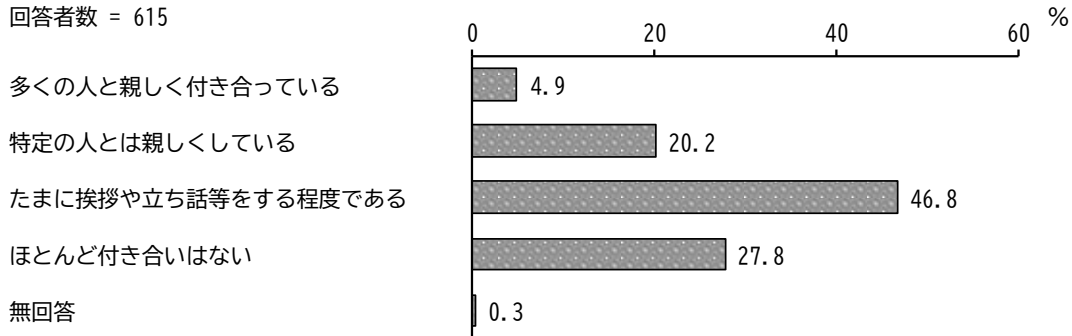
近所付き合いの程度別にみると、他に比べ、多くの人と親しく付き合っているで「かなり満足している」の割合が、ほとんど付き合いはないで「まあまあ満足している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	かなり満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	全く満足していない	無回答
全体	615	27.2	65.5	6.3	0.5	0.5
多くの人と親しく付き合っている	30	56.7	43.3	—	—	—
特定の人とは親しくしている	124	29.8	63.7	6.5	—	—
たまに挨拶や立ち話等をする程度である	288	28.1	64.9	6.3	0.3	0.3
ほとんど付き合いはない	171	18.7	71.3	7.6	1.2	1.2

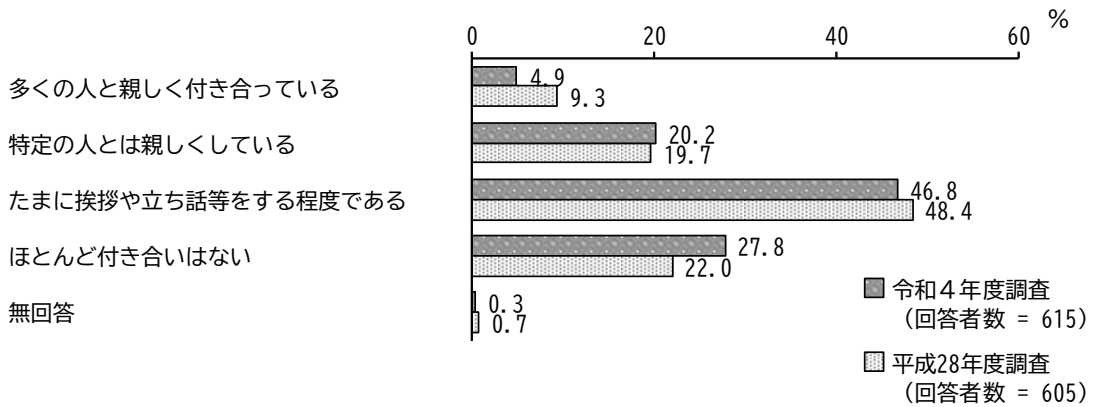
問2 あなたは隣近所の人とはどの程度お付き合いをしていますか。(1つに○)

「たまに挨拶や立ち話等をする程度である」の割合が46.8%と最も高く、次いで「ほとんど付き合いはない」の割合が27.8%、「特定の人とは親しくしている」の割合が20.2%となっています。



【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「ほとんど付き合いはない」の割合が増加しています。



【年代別】

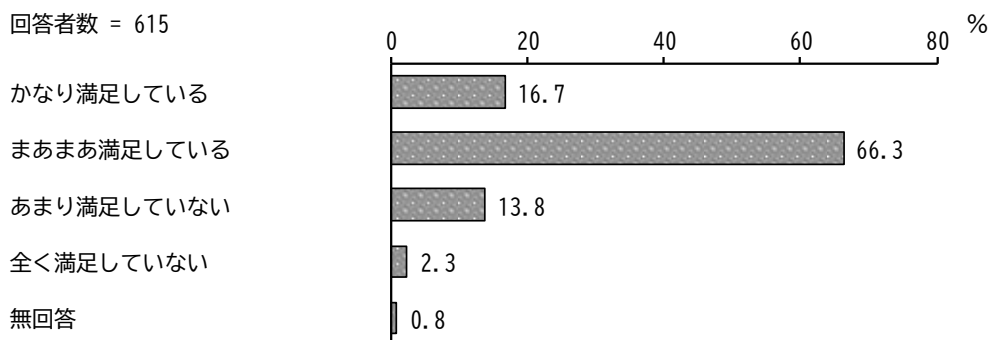
年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「ほとんど付き合いはない」の割合が、30～49歳で「ほとんど付き合いはない」の割合が、50～64歳で「たまに挨拶や立ち話等をする程度である」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	多くの人と親しく付き合っている	特定の人とは親しくしている	たまに挨拶や立ち話等をする程度である	ほとんど付き合いはない	無回答
全体	615	4.9	20.2	46.8	27.8	0.3
18～29歳	53	1.9	18.9	37.7	41.5	—
30～49歳	223	2.2	18.4	42.2	36.8	0.4
50～64歳	170	3.5	19.4	52.4	24.7	—
65歳以上	166	10.8	22.9	51.2	14.5	0.6

問3 今の近所づきあいには満足していますか。(1つに○)

「まあまあ満足している」の割合が66.3%と最も高く、次いで「かなり満足している」の割合が16.7%、「あまり満足していない」の割合が13.8%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「かなり満足している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	かなり満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	全く満足していない	無回答
全体	615	16.7	66.3	13.8	2.3	0.8
18～29歳	53	30.2	64.2	3.8	1.9	—
30～49歳	223	15.7	69.1	13.0	2.2	—
50～64歳	170	14.1	65.9	17.6	1.8	0.6
65歳以上	166	16.9	63.3	14.5	3.0	2.4

【近所付き合いの程度別】

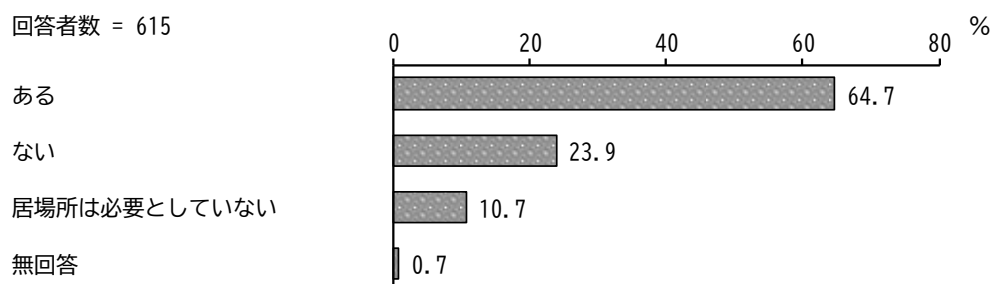
近所付き合いの程度別にみると、他に比べ、多くの人と親しく付き合っているで「かなり満足している」の割合が、たまに挨拶や立ち話等をする程度であるで「まあまあ満足している」の割合が、特定の人とは親しくしているで「かなり満足している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	かなり満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	全く満足していない	無回答
全体	615	16.7	66.3	13.8	2.3	0.8
多くの人と親しく付き合っている	30	70.0	26.7	—	3.3	—
特定の人とは親しくしている	124	22.6	70.2	6.5	—	0.8
たまに挨拶や立ち話等をする程度である	288	11.1	72.6	14.9	0.7	0.7
ほとんど付き合いはない	171	12.3	60.8	19.3	6.4	1.2

問4 あなたにとって、自宅以外に気軽に行ける「居場所」はありますか。(1つに○)

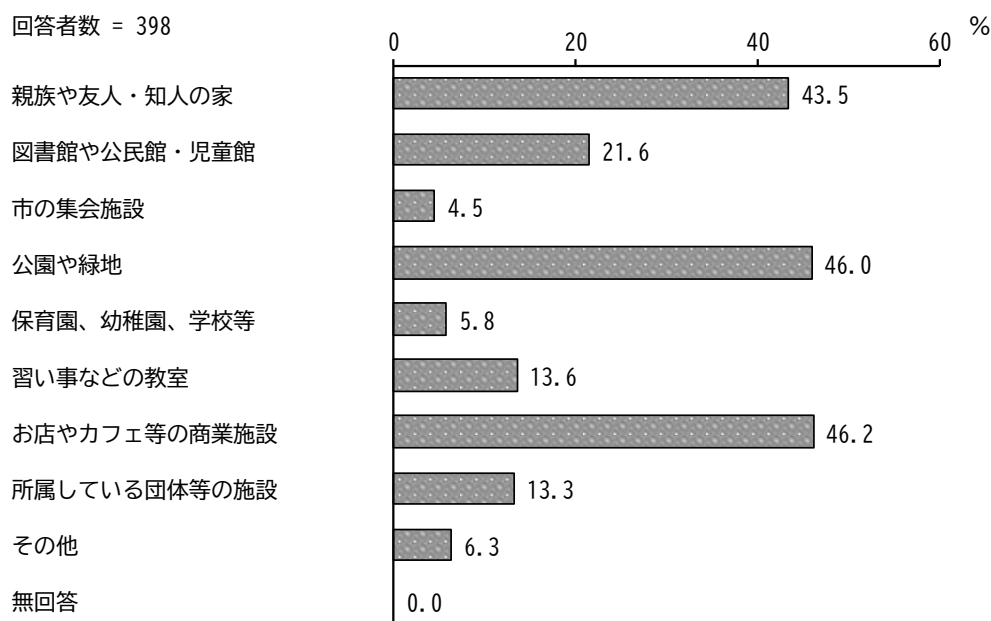
「ある」の割合が64.7%と最も高く、次いで「ない」の割合が23.9%、「居場所は必要としていない」の割合が10.7%となっています。



問4で「1. ある」を選んだ人におたずねします。

問4-1 それはどのような場所・施設ですか。(3つまで○)

「お店やカフェ等の商業施設」の割合が46.2%と最も高く、次いで「公園や緑地」の割合が46.0%、「親族や友人・知人の家」の割合が43.5%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、女性-18～29歳で「お店やカフェ等の商業施設」の割合が、女性-65歳以上で「習い事などの教室」の割合が、男性-18～29歳で「お店やカフェ等の商業施設」の割合が高くなっています。

単位：％

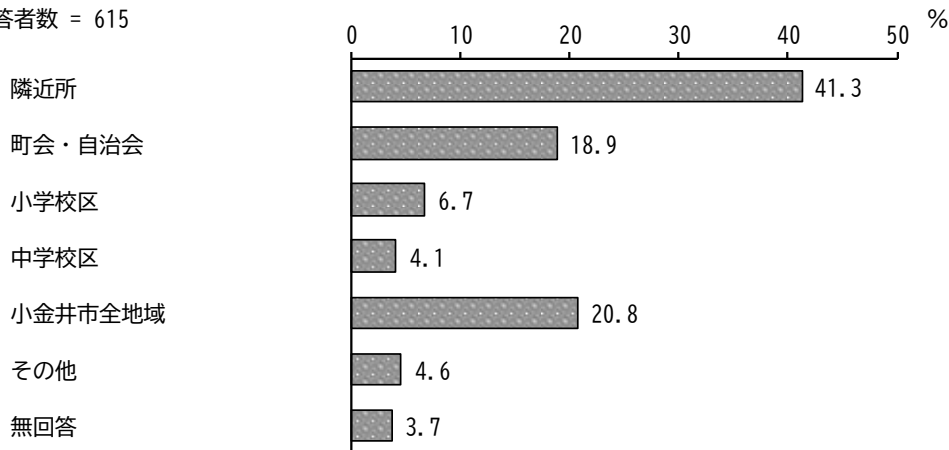
区分	回答者数(件)	家 親族や友人・知人の	童 図書館や公民館・児 館	市 の集会施設	公 園や緑地	校 等 保育園、幼稚園、学
全 体	398	43.5	21.6	4.5	46.0	5.8
男性-18～29歳	19	57.9	5.3	—	47.4	10.5
男性-30～49歳	52	32.7	13.5	—	53.8	7.7
男性-50～64歳	39	25.6	7.7	2.6	46.2	2.6
男性-65歳以上	51	25.5	37.3	9.8	52.9	3.9
女性-18～29歳	19	47.4	10.5	—	26.3	5.3
女性-30～49歳	90	57.8	25.6	2.2	55.6	13.3
女性-50～64歳	60	46.7	33.3	5.0	38.3	1.7
女性-65歳以上	65	50.8	16.9	9.2	32.3	—

区分	習 い 事 な ど の 教 室	商 業 施 設 お 店 や カ フ エ 等 の	所 属 し て い る 団 体 等 の 施 設	そ の 他	無 回 答
全 体	13.6	46.2	13.3	6.3	—
男性-18～29歳	10.5	68.4	10.5	5.3	—
男性-30～49歳	7.7	50.0	13.5	3.8	—
男性-50～64歳	5.1	53.8	10.3	20.5	—
男性-65歳以上	5.9	29.4	25.5	13.7	—
女性-18～29歳	5.3	78.9	—	—	—
女性-30～49歳	6.7	54.4	7.8	3.3	—
女性-50～64歳	13.3	45.0	15.0	3.3	—
女性-65歳以上	43.1	27.7	16.9	1.5	—

問5 あなたにとって助け合い、支え合える「地域」とは、こういった範囲ですか。(1つに○)

「隣近所」の割合が41.3%と最も高く、次いで「小金井市全地域」の割合が20.8%、「町会・自治会」の割合が18.9%となっています。

回答者数 = 615



【性・年代別】

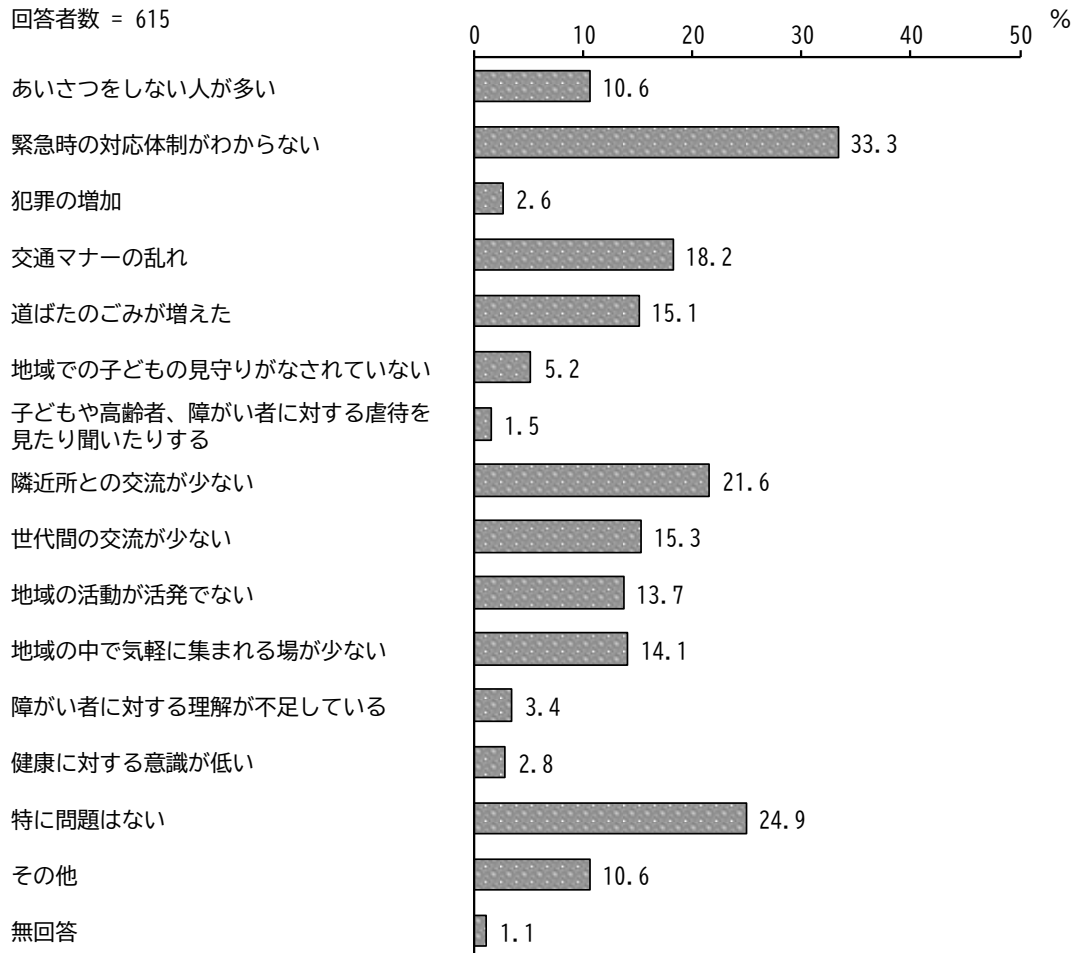
性・年代別にみると、他に比べ、男性-18～29歳で「小金井市全地域」の割合が、男性-65歳以上で「町会・自治会」の割合が、女性-18～29歳で「小金井市全地域」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	隣近所	町会・自治会	小学校区	中学校区	小金井市全地域	その他	無回答
全体	615	41.3	18.9	6.7	4.1	20.8	4.6	3.7
男性-18～29歳	25	32.0	4.0	—	12.0	44.0	8.0	—
男性-30～49歳	90	38.9	20.0	8.9	1.1	25.6	3.3	2.2
男性-50～64歳	70	42.9	18.6	7.1	7.1	15.7	7.1	1.4
男性-65歳以上	78	42.3	37.2	1.3	1.3	15.4	1.3	1.3
女性-18～29歳	28	39.3	10.7	—	10.7	35.7	—	3.6
女性-30～49歳	132	34.1	11.4	18.9	5.3	18.2	6.1	6.1
女性-50～64歳	99	45.5	20.2	1.0	4.0	24.2	2.0	3.0
女性-65歳以上	88	51.1	18.2	1.1	1.1	13.6	6.8	8.0

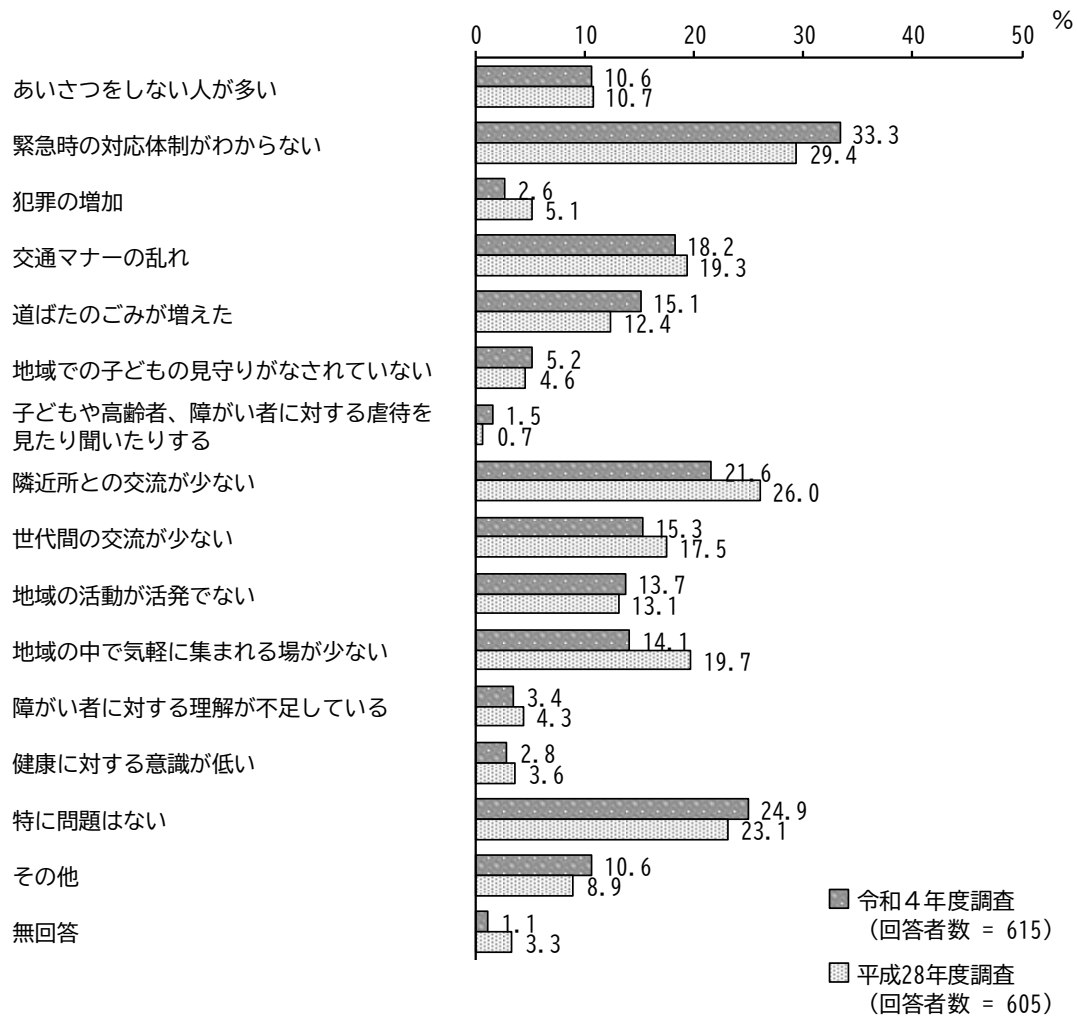
問6 現在、あなたの住んでいる地域の中での問題点・不足していると思うものは何ですか。(いくつでも○)

「緊急時の対応体制がわからない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「特に問題はない」の割合が24.9%、「隣近所との交流が少ない」の割合が21.6%となっています。



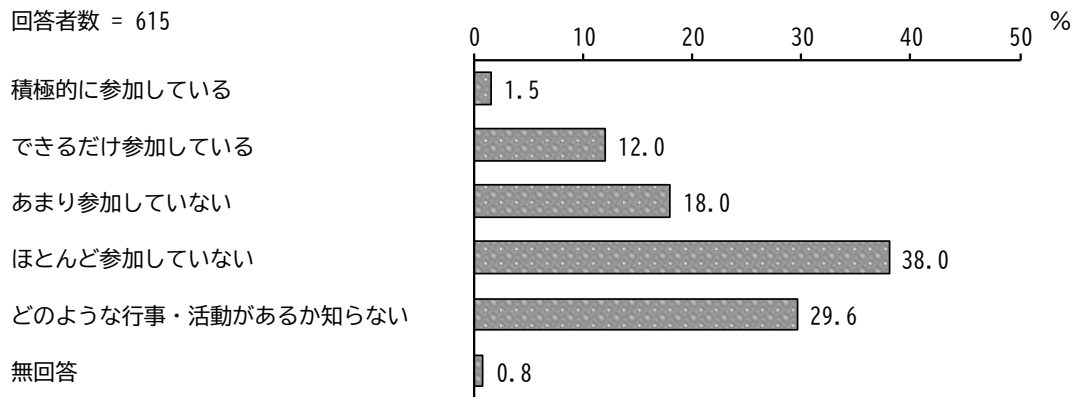
【経年比較】

平成28年度調査と比較すると、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」の割合が減少しています。



問7 あなたは、町内の行事や活動等に参加していますか。(1つに○)

「ほとんど参加していない」の割合が38.0%と最も高く、次いで「どのような行事・活動があるか知らない」の割合が29.6%、「あまり参加していない」の割合が18.0%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、女性-18～29歳で「どのような行事・活動があるか知らない」の割合が、男性-18～29歳で「どのような行事・活動があるか知らない」の割合が、男性-65歳以上で「ほとんど参加していない」の割合が高くなっています。

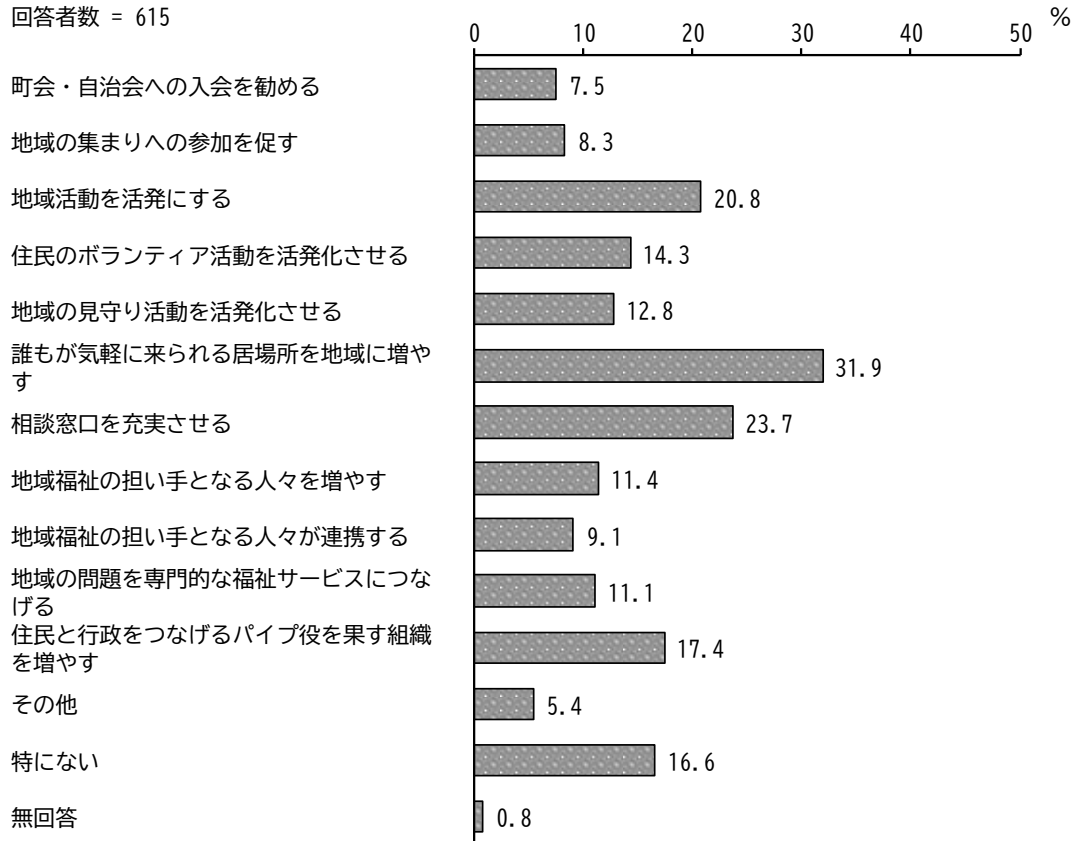
単位：%

区分	回答者数(件)	積極的に参加している	できるだけ参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない	どのような行事・活動があるか知らない	無回答
全体	615	1.5	12.0	18.0	38.0	29.6	0.8
男性-18～29歳	25	4.0	—	8.0	40.0	48.0	—
男性-30～49歳	90	—	12.2	14.4	36.7	36.7	—
男性-50～64歳	70	—	10.0	21.4	42.9	25.7	—
男性-65歳以上	78	—	14.1	19.2	53.8	10.3	2.6
女性-18～29歳	28	—	3.6	10.7	35.7	50.0	—
女性-30～49歳	132	0.8	10.6	18.9	29.5	40.2	—
女性-50～64歳	99	2.0	8.1	22.2	39.4	26.3	2.0
女性-65歳以上	88	4.5	23.9	17.0	34.1	19.3	1.1

問8 地域の課題を解決するために、どのような方策が必要だと思いますか。(3つまで
○)

「誰もが気軽に来られる居場所を地域に増やす」の割合が31.9%と最も高く、次いで「相談窓口を充実させる」の割合が23.7%、「地域活動を活発にする」の割合が20.8%となっています。

回答者数 = 615



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、女性-50～64歳で「相談窓口を充実させる」の割合が、男性-50～64歳で「住民のボランティア活動を活性化させる」の割合が、男性-18～29歳で「住民と行政をつなげるパイプ役を果す組織を増やす」の割合が高くなっています。

単位：％

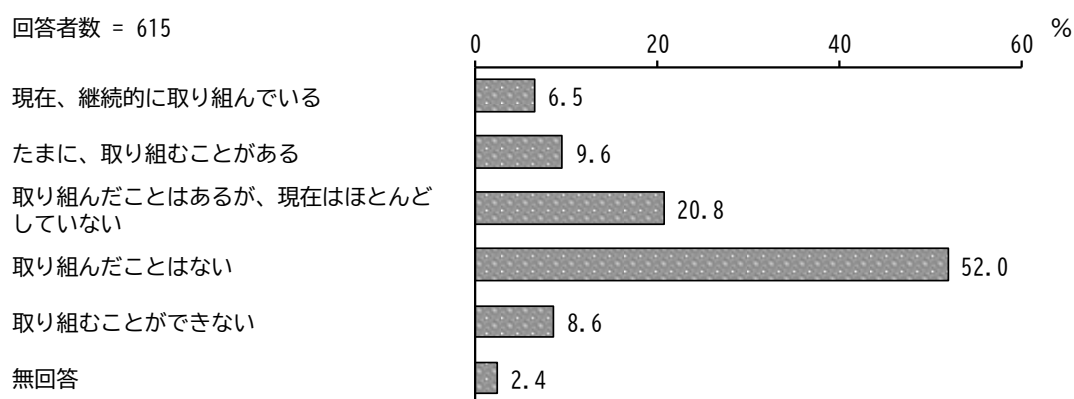
区分	回答者数(件)	町会・自治会への入会を勧める	地域の集まりへの参加を促す	地域活動を活発にする	住民のボランティア活動を活性化させる	地域の見守り活動を活性化させる	誰もが気軽に来られる居場所を地域に増やす	相談窓口を充実させる
全体	615	7.5	8.3	20.8	14.3	12.8	31.9	23.7
男性-18～29歳	25	8.0	12.0	20.0	8.0	12.0	24.0	20.0
男性-30～49歳	90	4.4	1.1	22.2	11.1	10.0	31.1	24.4
男性-50～64歳	70	8.6	7.1	24.3	21.4	10.0	31.4	17.1
男性-65歳以上	78	14.1	14.1	21.8	15.4	12.8	26.9	20.5
女性-18～29歳	28	—	3.6	17.9	3.6	7.1	32.1	25.0
女性-30～49歳	132	0.8	7.6	24.2	9.8	14.4	33.3	21.2
女性-50～64歳	99	3.0	8.1	16.2	20.2	16.2	37.4	32.3
女性-65歳以上	88	20.5	11.4	15.9	14.8	13.6	31.8	27.3

区分	地域福祉の担い手となる人々を増やす	地域福祉の担い手となる人々が連携する	地域の問題を専門的な福祉サービスにつなげる	住民と行政をつなげるパイプ役を果す組織を増やす	その他	特にない	無回答
全体	11.4	9.1	11.1	17.4	5.4	16.6	0.8
男性-18～29歳	—	4.0	8.0	24.0	—	24.0	—
男性-30～49歳	14.4	7.8	12.2	21.1	6.7	20.0	—
男性-50～64歳	10.0	8.6	5.7	17.1	2.9	17.1	—
男性-65歳以上	12.8	9.0	7.7	17.9	2.6	16.7	1.3
女性-18～29歳	3.6	10.7	10.7	10.7	14.3	21.4	—
女性-30～49歳	8.3	10.6	11.4	12.1	12.1	15.2	0.8
女性-50～64歳	13.1	12.1	13.1	19.2	2.0	15.2	1.0
女性-65歳以上	17.0	6.8	15.9	20.5	1.1	11.4	2.3

C. 地域活動やボランティア活動などについて

問9 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んだことはありますか。(1つに○)

「取り組んだことはない」の割合が52.0%と最も高く、次いで「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」の割合が20.8%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、男性-18～29歳で「取り組んだことはない」の割合が、男性-30～49歳で「取り組んだことはない」の割合が、女性-18～29歳で「取り組んだことはない」の割合が高くなっています。

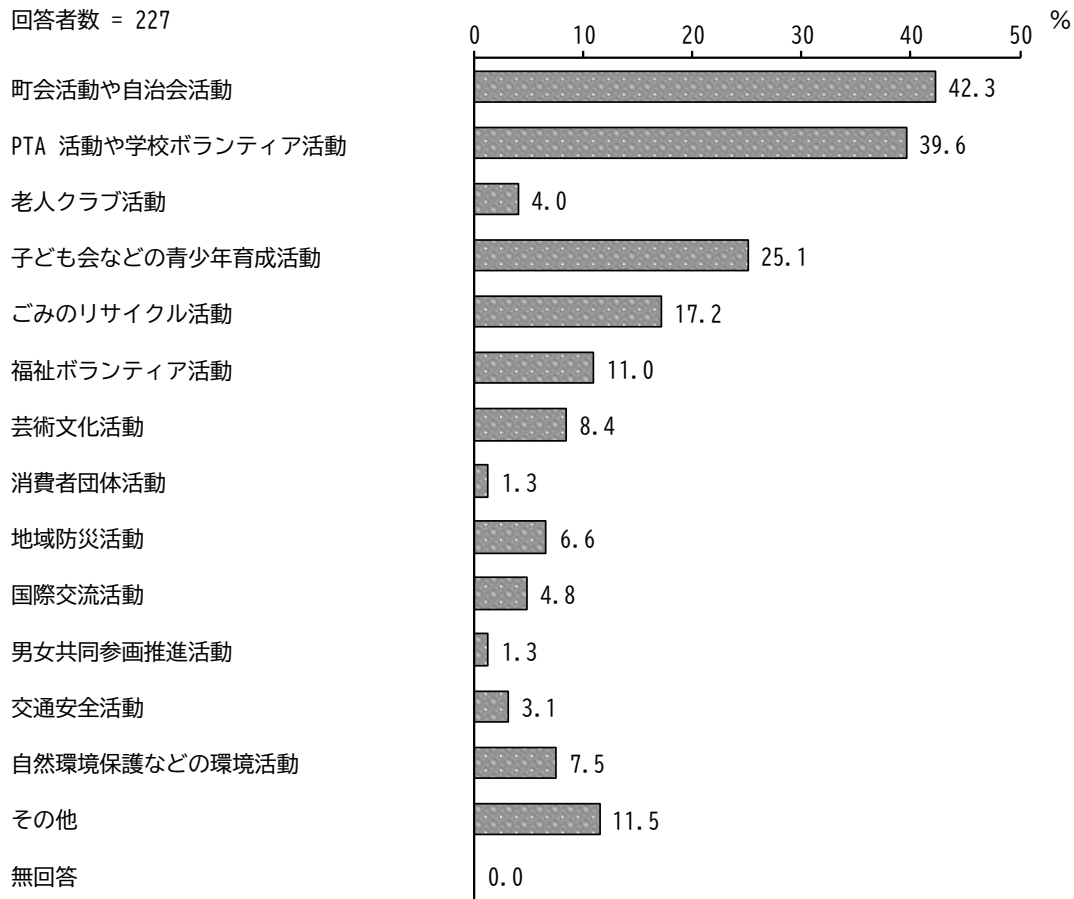
単位：%

区分	回答者数(件)	現在、継続的に取り組んでいる	たまたま、取り組むことがある	取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない	取り組んだことはない	取り組むことができない	無回答
全体	615	6.5	9.6	20.8	52.0	8.6	2.4
男性-18～29歳	25	4.0	4.0	16.0	68.0	8.0	—
男性-30～49歳	90	2.2	7.8	11.1	67.8	10.0	1.1
男性-50～64歳	70	2.9	8.6	15.7	62.9	10.0	—
男性-65歳以上	78	10.3	5.1	19.2	59.0	2.6	3.8
女性-18～29歳	28	—	3.6	17.9	64.3	14.3	—
女性-30～49歳	132	6.1	11.4	17.4	55.3	9.1	0.8
女性-50～64歳	99	5.1	18.2	31.3	35.4	8.1	2.0
女性-65歳以上	88	14.8	6.8	33.0	26.1	10.2	9.1

問9で「現在、継続的に取り組んでいる」「たまに、取り組むことがある」「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」を選んだ人におたずねします。

問9- 1 どのような活動に取り組んだことがありますか。(いくつでも○)

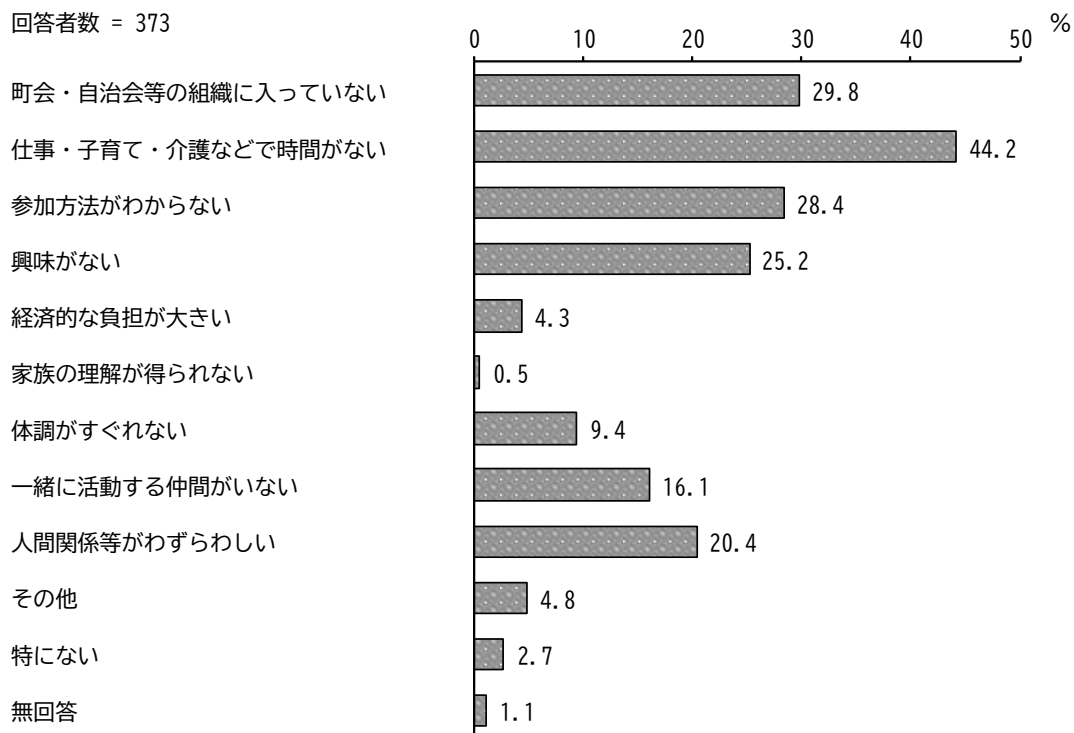
「町会活動や自治会活動」の割合が42.3%と最も高く、次いで「PTA活動や学校ボランティア活動」の割合が39.6%、「子ども会などの青少年育成活動」の割合が25.1%となっています。



問9で「取り組んだことはない」「取り組むことができない」を選んだ人におたずねします。

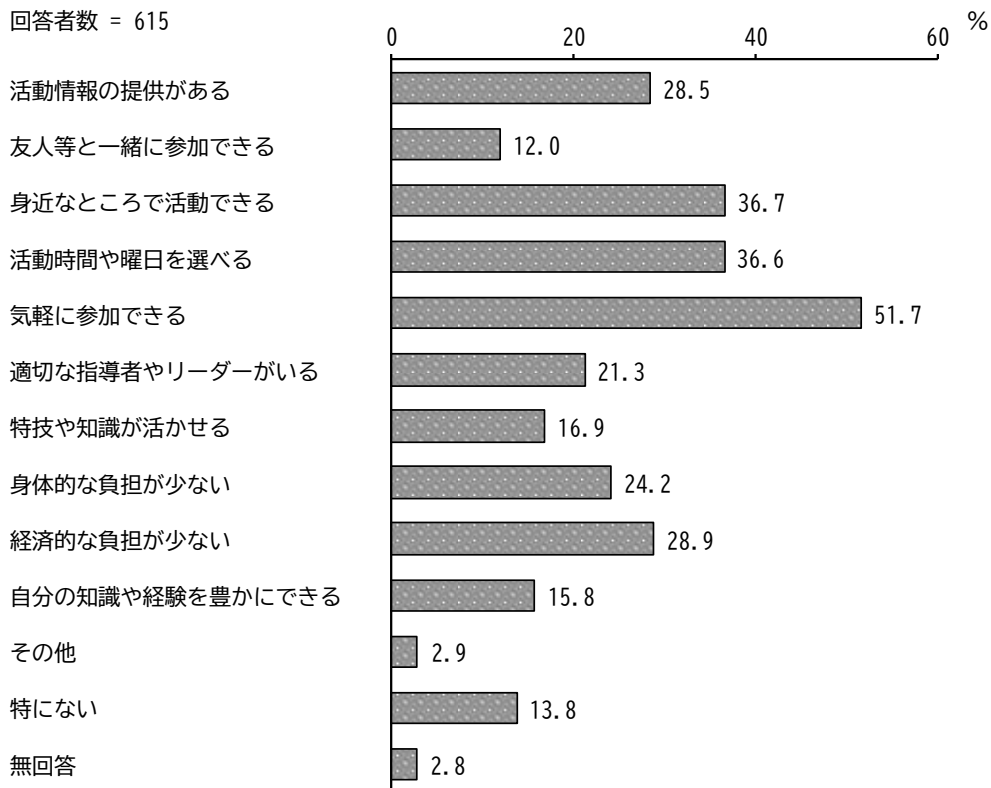
問9- 2 活動していない理由は何ですか。(いくつでも○)

「仕事・子育て・介護などで時間がない」の割合が44.2%と最も高く、次いで「町会・自治会等の組織に入っていない」の割合が29.8%、「参加方法がわからない」の割合が28.4%となっています。



問10 どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。(いくつでも○)

「気軽に参加できる」の割合が51.7%と最も高く、次いで「身近なところで活動できる」の割合が36.7%、「活動時間や曜日を選べる」の割合が36.6%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、男性-18～29歳で「友人等と一緒に参加できる」の割合が、女性-30～49歳で「活動時間や曜日を選べる」の割合が、女性-50～64歳で「活動時間や曜日を選べる」の割合が高くなっています。

単位：％

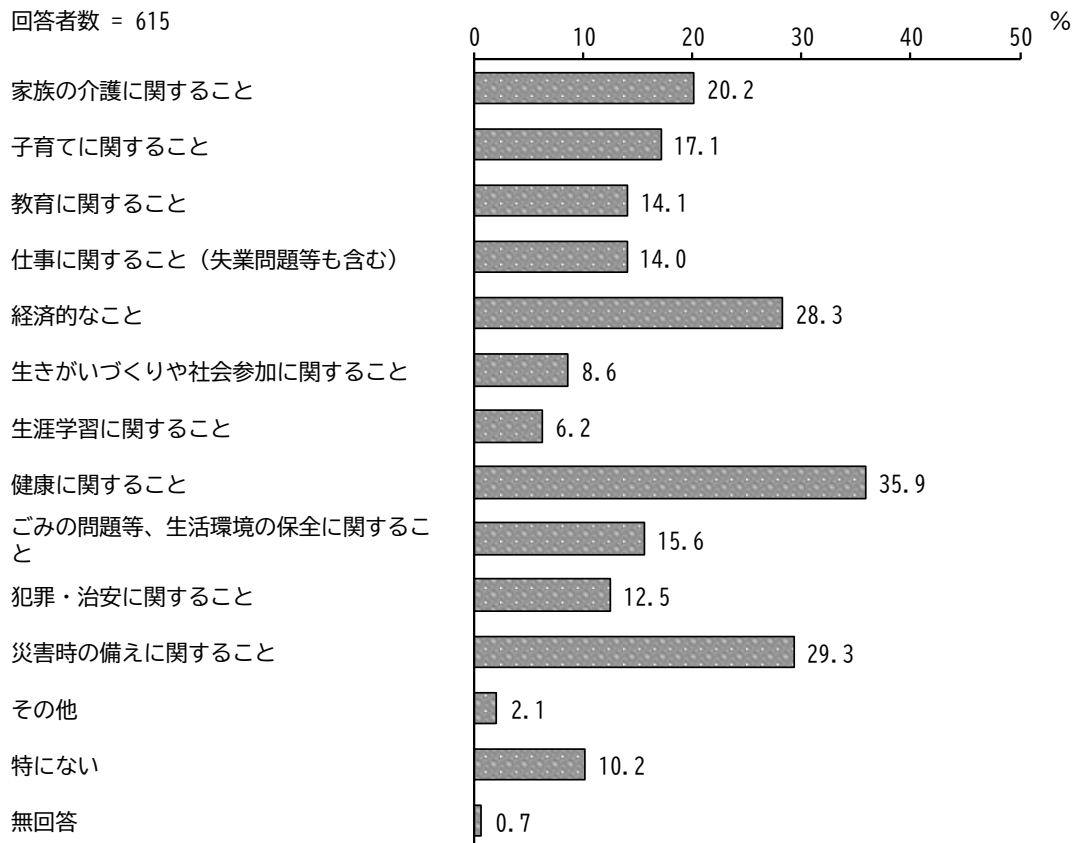
区分	回答者数(件)	活動情報の提供がある	友人等と一緒に参加できる	身近なところで活動できる	活動時間や曜日を選べる	気軽に参加できる	適切な指導者やリーダーがいる
全体	615	28.5	12.0	36.7	36.6	51.7	21.3
男性-18～29歳	25	16.0	32.0	24.0	28.0	56.0	12.0
男性-30～49歳	90	31.1	11.1	32.2	32.2	54.4	17.8
男性-50～64歳	70	31.4	2.9	35.7	37.1	42.9	17.1
男性-65歳以上	78	26.9	5.1	38.5	29.5	42.3	21.8
女性-18～29歳	28	21.4	17.9	21.4	21.4	42.9	14.3
女性-30～49歳	132	35.6	18.9	43.9	47.7	60.6	23.5
女性-50～64歳	99	29.3	9.1	40.4	47.5	59.6	27.3
女性-65歳以上	88	18.2	10.2	35.2	25.0	43.2	20.5

区分	特技や知識が活かせる	身体的な負担が少ない	経済的な負担が少ない	自分の知識や経験を豊かにできる	その他	特にない	無回答
全体	16.9	24.2	28.9	15.8	2.9	13.8	2.8
男性-18～29歳	20.0	16.0	32.0	20.0	4.0	12.0	—
男性-30～49歳	22.2	23.3	38.9	22.2	3.3	15.6	1.1
男性-50～64歳	17.1	14.3	18.6	18.6	—	20.0	2.9
男性-65歳以上	17.9	15.4	17.9	14.1	2.6	19.2	2.6
女性-18～29歳	14.3	28.6	32.1	17.9	3.6	21.4	—
女性-30～49歳	16.7	31.1	34.1	16.7	1.5	9.8	1.5
女性-50～64歳	18.2	26.3	34.3	9.1	4.0	7.1	2.0
女性-65歳以上	9.1	29.5	20.5	10.2	5.7	13.6	9.1

D. 日常生活について

問11 あなたが日常生活の中で不安や課題と感じていることはありますか。(3つまで○)

「健康に関すること」の割合が35.9%と最も高く、次いで「災害時の備えに関すること」の割合が29.3%、「経済的なこと」の割合が28.3%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、女性-65歳以上で「健康に関すること」の割合が、女性-30～49歳で「子育てに関すること」の割合が、女性-18～29歳で「仕事に関すること（失業問題等も含む）」の割合が高くなっています。

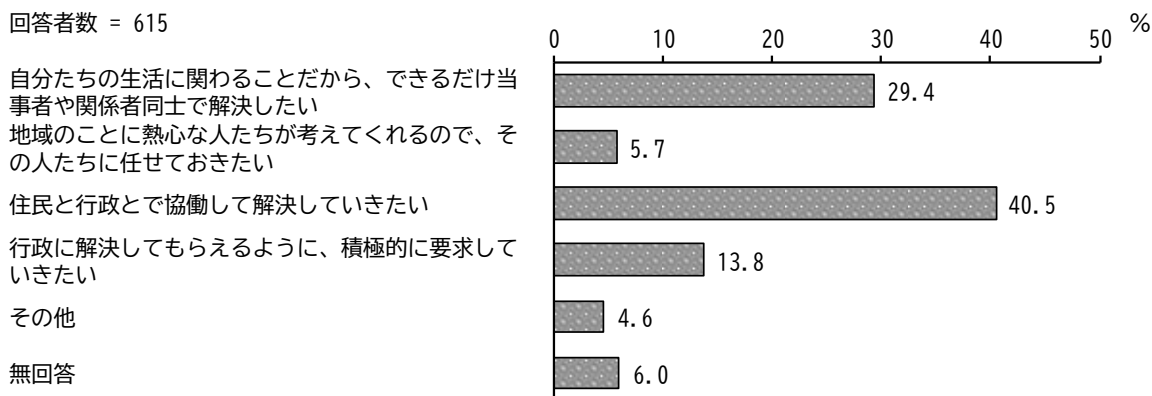
単位：％

区分	回答者数(件)	家族の介護に関すること	子育てに関すること	教育に関すること	仕事に関すること(失業問題等も含む)	経済的なこと	生きがいづくりや社会参加に関すること	生涯学習に関すること
全体	615	20.2	17.1	14.1	14.0	28.3	8.6	6.2
男性-18～29歳	25	12.0	8.0	16.0	20.0	28.0	—	8.0
男性-30～49歳	90	15.6	33.3	30.0	22.2	40.0	6.7	7.8
男性-50～64歳	70	25.7	5.7	7.1	17.1	20.0	14.3	2.9
男性-65歳以上	78	14.1	1.3	1.3	6.4	21.8	14.1	9.0
女性-18～29歳	28	3.6	17.9	14.3	32.1	28.6	7.1	7.1
女性-30～49歳	132	15.2	43.9	31.8	12.1	30.3	6.1	3.0
女性-50～64歳	99	37.4	5.1	4.0	14.1	32.3	11.1	10.1
女性-65歳以上	88	20.5	—	—	3.4	20.5	5.7	4.5

区分	健康に関すること	ごみの問題等、生活環境の保全に関すること	犯罪・治安に関すること	災害時の備えに関すること	その他	特にない	無回答
全体	35.9	15.6	12.5	29.3	2.1	10.2	0.7
男性-18～29歳	28.0	12.0	12.0	28.0	—	24.0	—
男性-30～49歳	22.2	12.2	12.2	10.0	1.1	12.2	1.1
男性-50～64歳	37.1	15.7	11.4	30.0	1.4	15.7	—
男性-65歳以上	50.0	19.2	16.7	26.9	2.6	10.3	1.3
女性-18～29歳	21.4	21.4	10.7	32.1	—	10.7	—
女性-30～49歳	20.5	14.4	11.4	28.0	1.5	9.1	—
女性-50～64歳	32.3	19.2	10.1	35.4	6.1	7.1	—
女性-65歳以上	69.3	12.5	15.9	44.3	1.1	5.7	2.3

問 12 日常生活の中で不安や課題と感じていることに対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。(1つに○)

「住民と行政とで協働して解決していきたい」の割合が40.5%と最も高く、次いで「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ当事者や関係者同士で解決したい」の割合が29.4%、「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」の割合が13.8%となっています。



【性・年代別】

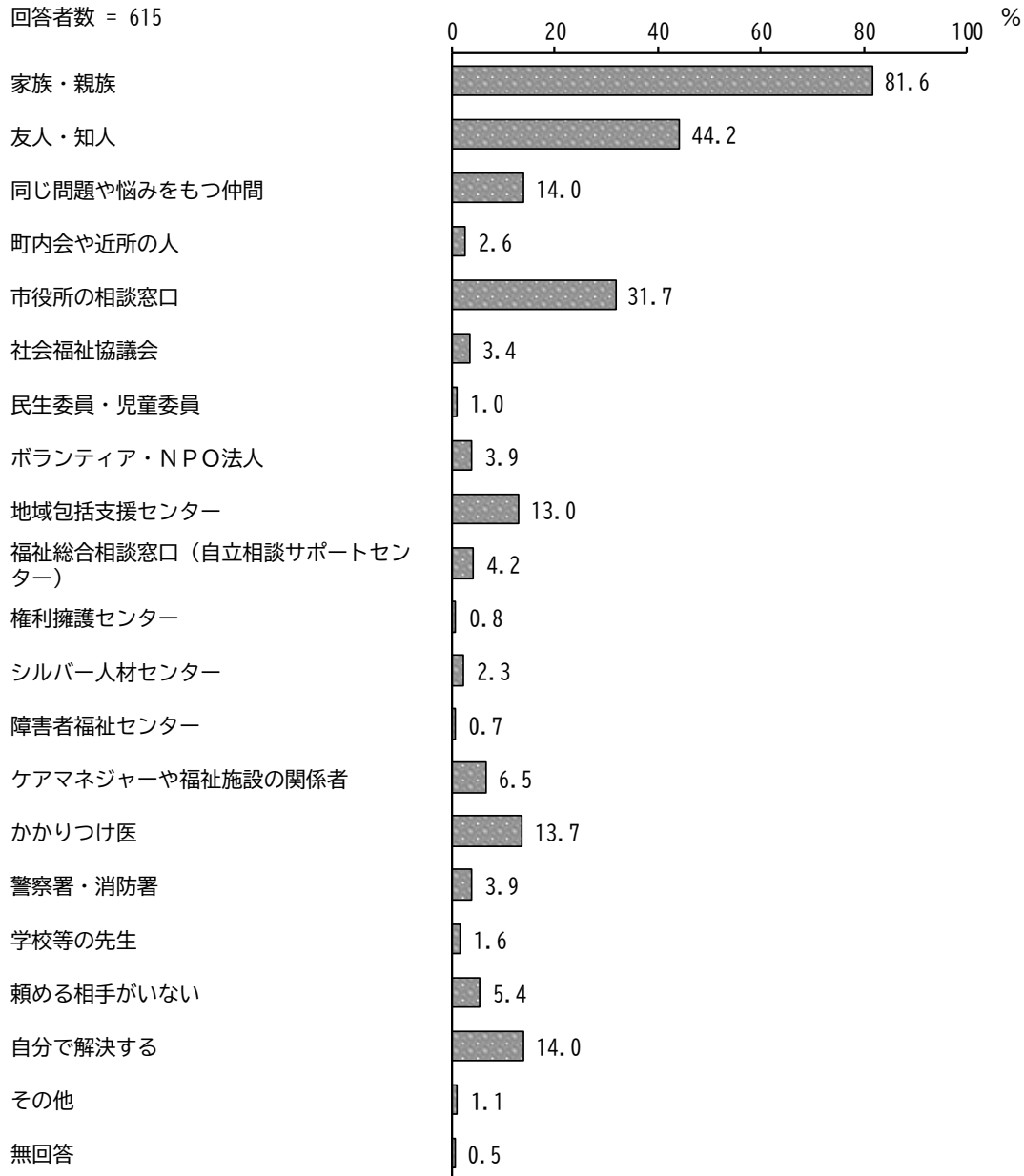
性・年代別にみると、他に比べ、男性-18～29歳で「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ当事者や関係者同士で解決したい」の割合が、女性-18～29歳で「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ当事者や関係者同士で解決したい」の割合が、男性-65歳以上で「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分たちの生活に関わることだから、できるだけ当事者や関係者同士で解決したい	地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい	住民と行政とで協働して解決していきたい	行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい	その他	無回答
全 体	615	29.4	5.7	40.5	13.8	4.6	6.0
男性-18～29歳	25	40.0	12.0	32.0	4.0	8.0	4.0
男性-30～49歳	90	25.6	7.8	46.7	13.3	2.2	4.4
男性-50～64歳	70	38.6	7.1	35.7	8.6	2.9	7.1
男性-65歳以上	78	24.4	3.8	39.7	23.1	3.8	5.1
女性-18～29歳	28	39.3	3.6	42.9	14.3	-	-
女性-30～49歳	132	26.5	6.1	36.4	18.2	6.1	6.8
女性-50～64歳	99	30.3	5.1	46.5	12.1	4.0	2.0
女性-65歳以上	88	28.4	3.4	38.6	9.1	6.8	13.6

問13 あなたが生活上の問題で相談や助けが必要なとき、だれに手助けを頼みたいですか。(3つまで〇)

「家族・親族」の割合が81.6%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が44.2%、「市役所の相談窓口」の割合が31.7%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、男性-18～29歳で「友人・知人」の割合が、女性-18～29歳で「友人・知人」の割合が、女性-65歳以上で「地域包括支援センター」の割合が高くなっています。

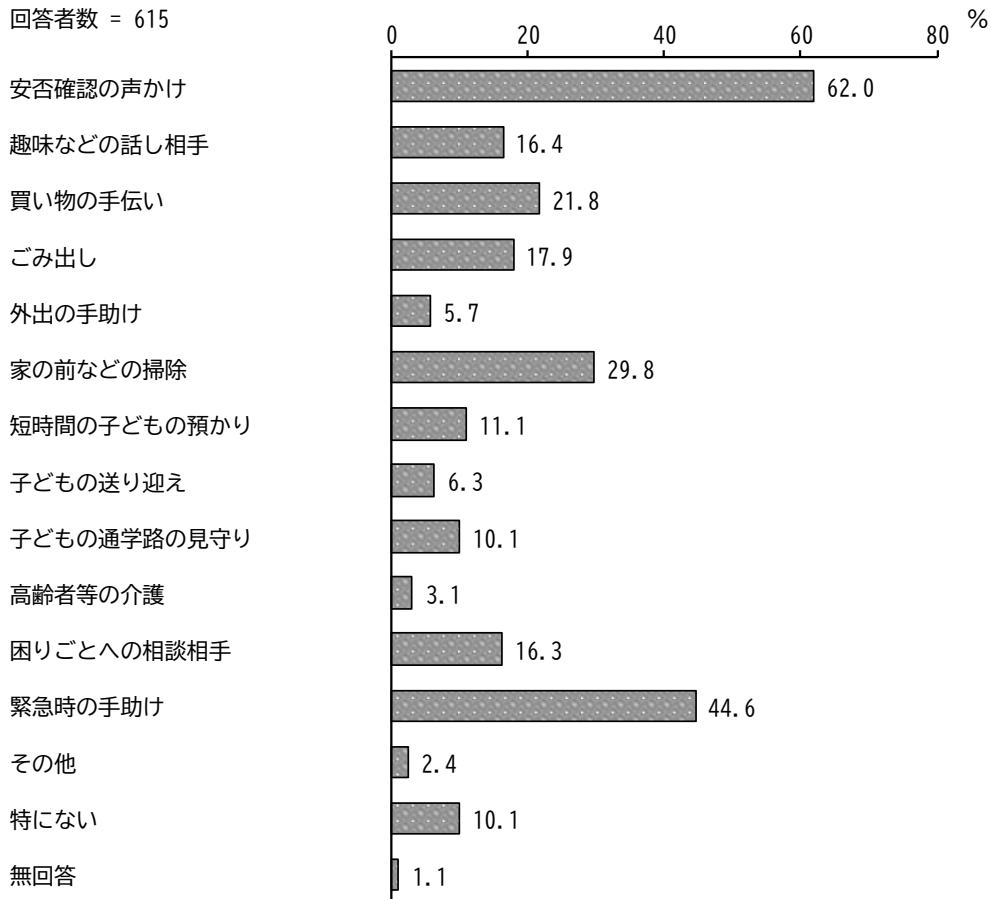
単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	同じ問題や悩みをもつ仲間	町内会や近所の人	市役所の相談窓口	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	ボランティア・NPO法人	地域包括支援センター	福祉総合相談窓口(自立相談サポーター)
全体	615	81.6	44.2	14.0	2.6	31.7	3.4	1.0	3.9	13.0	4.2
男性-18～29歳	25	92.0	84.0	28.0	—	16.0	—	—	4.0	—	—
男性-30～49歳	90	91.1	57.8	15.6	2.2	31.1	2.2	—	4.4	3.3	1.1
男性-50～64歳	70	67.1	31.4	11.4	—	41.4	4.3	1.4	2.9	8.6	7.1
男性-65歳以上	78	64.1	20.5	1.3	5.1	35.9	5.1	—	1.3	25.6	7.7
女性-18～29歳	28	92.9	67.9	32.1	3.6	25.0	—	—	3.6	—	—
女性-30～49歳	132	93.2	56.8	19.7	3.0	28.8	2.3	—	3.0	4.5	2.3
女性-50～64歳	99	74.7	41.4	17.2	4.0	31.3	7.1	2.0	7.1	14.1	7.1
女性-65歳以上	88	83.0	27.3	3.4	1.1	33.0	2.3	2.3	4.5	34.1	4.5

区分	権利擁護センター	シルバー人材センター	障害者福祉センター	ケアマネジャーや福祉施設の関係者	かかりつけ医	警察署・消防署	学校等の先生	頼める相手がいない	自分で解決する	その他	無回答
全体	0.8	2.3	0.7	6.5	13.7	3.9	1.6	5.4	14.0	1.1	0.5
男性-18～29歳	—	—	—	—	—	4.0	—	—	24.0	4.0	—
男性-30～49歳	—	—	—	1.1	6.7	5.6	4.4	6.7	17.8	1.1	—
男性-50～64歳	4.3	1.4	—	5.7	15.7	2.9	—	10.0	27.1	—	—
男性-65歳以上	1.3	6.4	—	7.7	26.9	3.8	—	5.1	12.8	3.8	1.3
女性-18～29歳	—	—	—	—	3.6	3.6	—	—	7.1	—	—
女性-30～49歳	—	—	0.8	0.8	9.8	6.1	3.8	7.6	11.4	1.5	—
女性-50～64歳	1.0	2.0	3.0	7.1	12.1	3.0	1.0	2.0	9.1	—	1.0
女性-65歳以上	—	6.8	—	22.7	22.7	1.1	—	3.4	9.1	—	1.1

問 14 隣近所で、高齢者や障がいのある方の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。(いくつでも○)

「安否確認の声かけ」の割合が 62.0%と最も高く、次いで「緊急時の手助け」の割合が 44.6%、「家の前などの掃除」の割合が 29.8%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、他に比べ、女性-65歳以上で「家の前などの掃除」の割合が、女性-18～29歳で「趣味などの話し相手」の割合が、女性-50～64歳で「ごみ出し」の割合が高くなっています。

単位：％

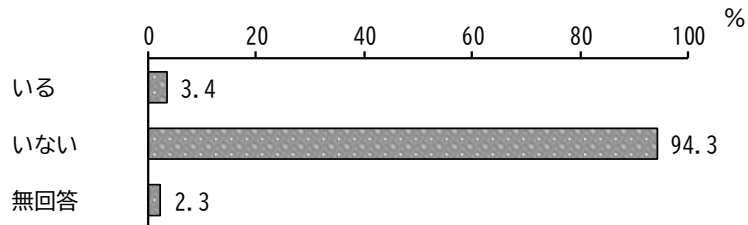
区分	回答者数(件)	安否確認の声かけ	手趣味などの話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	預かり短時間の子ども
全体	615	62.0	16.4	21.8	17.9	5.7	29.8	11.1
男性-18～29歳	25	44.0	4.0	16.0	8.0	—	16.0	8.0
男性-30～49歳	90	53.3	20.0	13.3	11.1	4.4	18.9	8.9
男性-50～64歳	70	68.6	20.0	17.1	15.7	5.7	35.7	4.3
男性-65歳以上	78	55.1	7.7	12.8	14.1	7.7	26.9	7.7
女性-18～29歳	28	71.4	28.6	25.0	17.9	3.6	25.0	10.7
女性-30～49歳	132	66.7	19.7	26.5	15.9	6.1	25.8	18.2
女性-50～64歳	99	66.7	18.2	31.3	29.3	7.1	34.3	15.2
女性-65歳以上	88	62.5	10.2	22.7	21.6	4.5	43.2	6.8

区分	子どもの送り迎え	子どもの通学路の見守り	高齢者等の介護	困りごとへの相談相手	緊急時の手助け	その他	特にない	無回答
全体	6.3	10.1	3.1	16.3	44.6	2.4	10.1	1.1
男性-18～29歳	8.0	20.0	4.0	20.0	44.0	4.0	12.0	—
男性-30～49歳	6.7	10.0	3.3	20.0	48.9	2.2	15.6	—
男性-50～64歳	2.9	2.9	1.4	15.7	55.7	—	4.3	—
男性-65歳以上	2.6	11.5	5.1	15.4	50.0	3.8	11.5	2.6
女性-18～29歳	10.7	—	3.6	14.3	42.9	—	10.7	—
女性-30～49歳	11.4	15.2	0.8	18.2	47.0	3.8	7.6	—
女性-50～64歳	5.1	11.1	6.1	13.1	44.4	3.0	8.1	1.0
女性-65歳以上	3.4	5.7	2.3	13.6	23.9	1.1	11.4	4.5

問 15 様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、長期にわたって家庭にとどまり続けている状態を「ひきこもり」と言われています。ご家族で、このようなひきこもり状態にある方はいらっしゃいますか。
（1つに○）

「いる」の割合が3.4%、「いない」の割合が94.3%となっています。

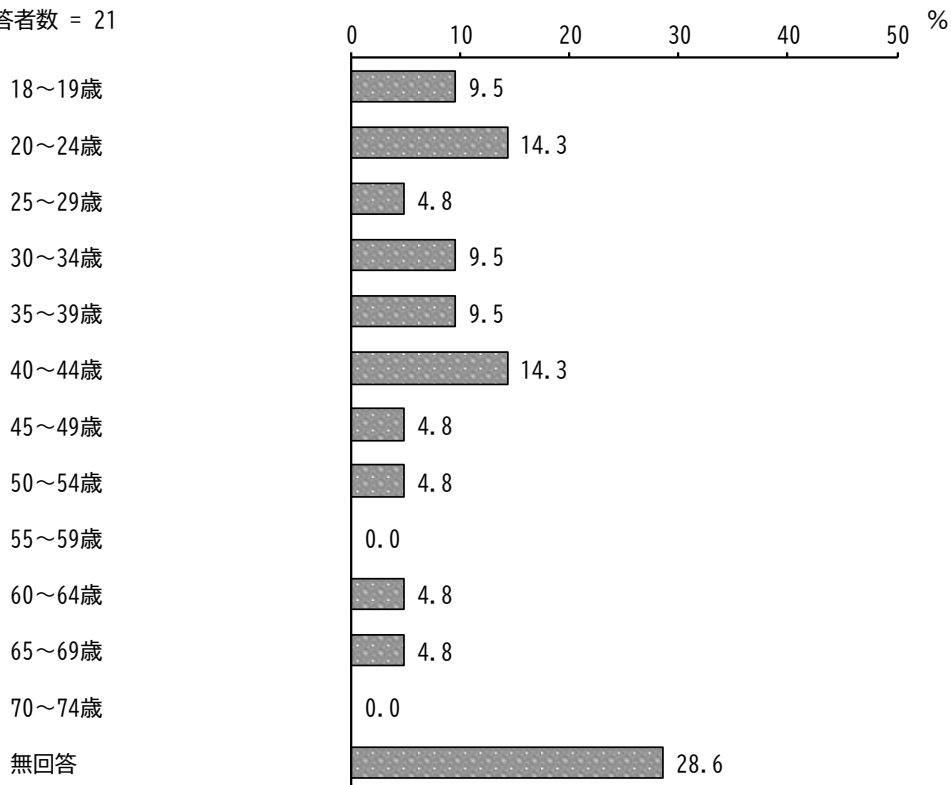
回答者数 = 615



ひきこもりの方の年齢

「20～24歳」、「40～44歳」の割合が14.3%と最も高くなっています。

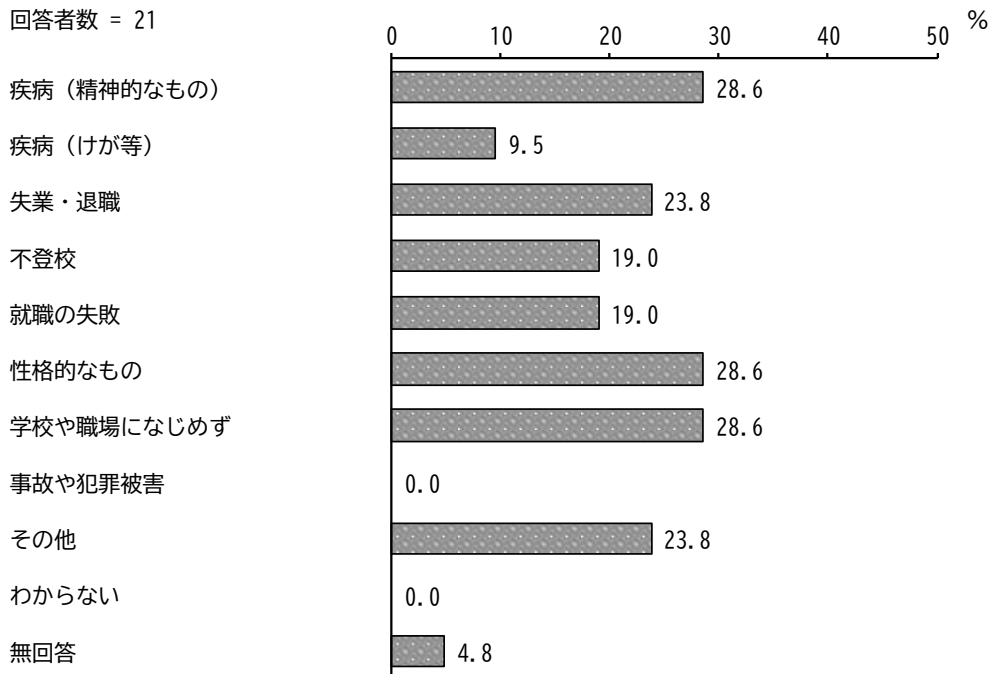
回答者数 = 21



問 15 で「いる」を選んだ人におたずねします。

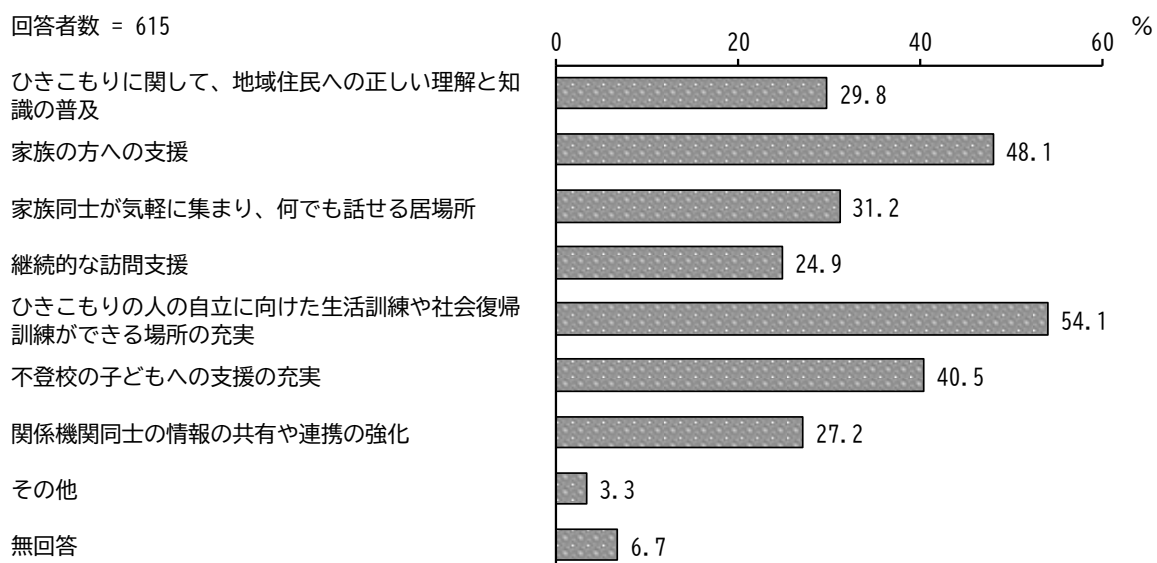
問 15-1 そのような状態になっている要因は何ですか。(いくつでも○)

「疾病（精神的なもの）」、「性格的なもの」、「学校や職場になじめず」の割合が 28.6%と最も高くなっています。



問 16 ひきこもりに関する支援策として必要と思われるものは何ですか。(いくつでも○)

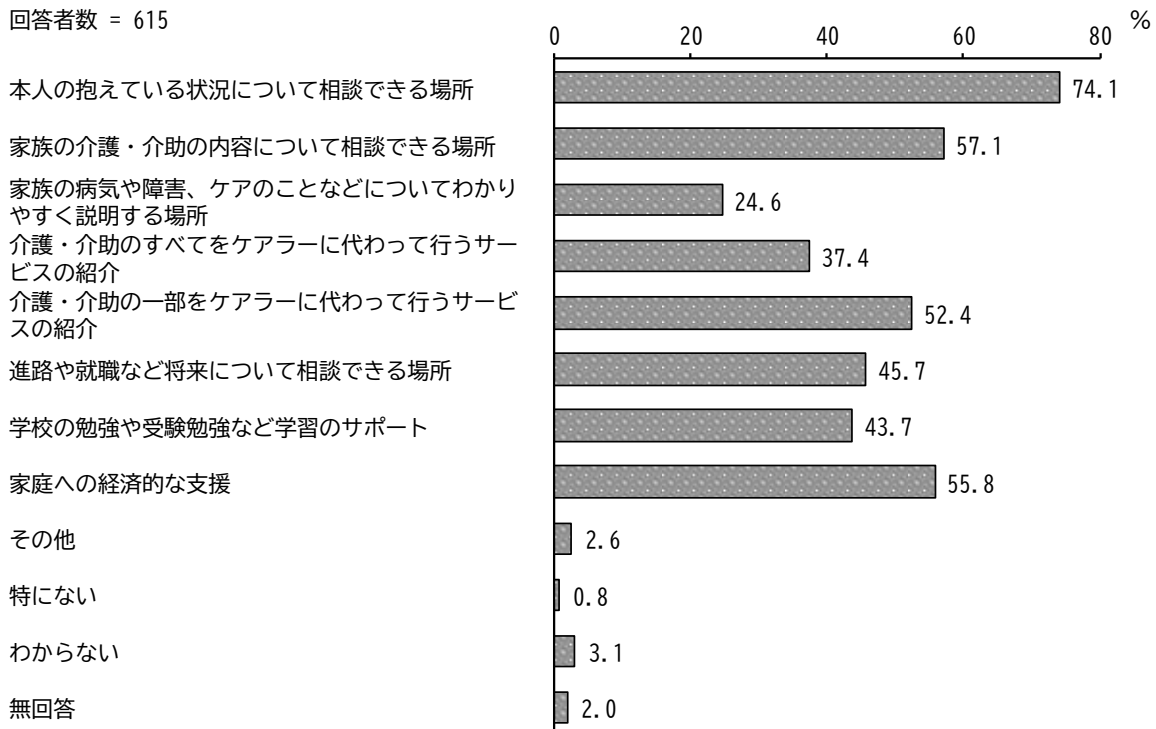
「ひきこもりの人の自立に向けた生活訓練や社会復帰訓練ができる場所の充実」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「家族の方への支援」の割合が 48.1%、「不登校の子どもへの支援の充実」の割合が 40.5%となっています。



問 17 家族にケアを要する人がおり、大人が担うようなケア（家事や家族の世話、介護等）の責任を引き受けている 18 歳未満の子どもを「ヤングケアラー」と言います。ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。（いくつでも○）

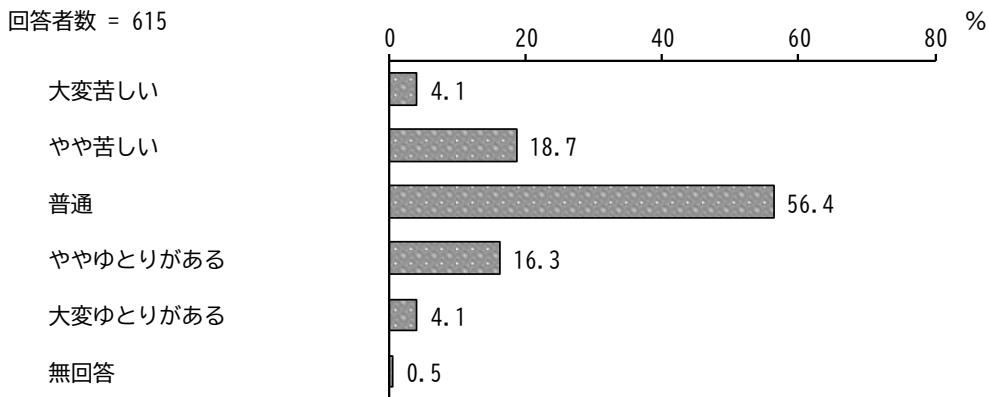
「本人の抱えている状況について相談できる場所」の割合が 74.1%と最も高く、次いで「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」の割合が 57.1%、「家庭への経済的な支援」の割合が 55.8%となっています。

回答者数 = 615



問 18 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○)

「普通」の割合が56.4%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が18.7%、「ややゆとりがある」の割合が16.3%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、65歳以上で「普通」の割合が、50～64歳で「ややゆとりがある」の割合が高くなっています。

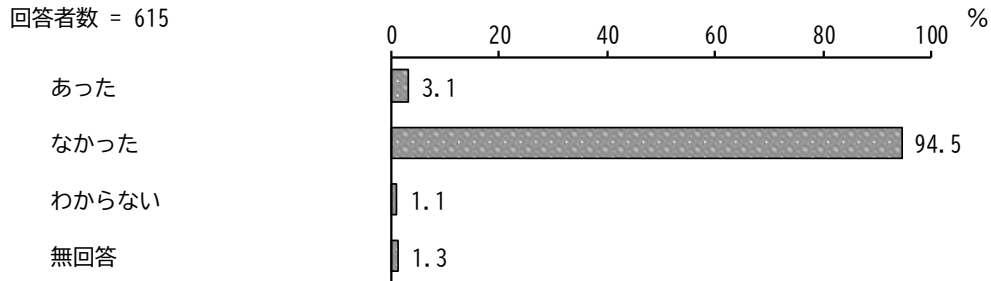
単位：%

区分	回答者数(件)	大変苦しい	やや苦しい	普通	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
全 体	615	4.1	18.7	56.4	16.3	4.1	0.5
18～29 歳	53	1.9	18.9	50.9	17.0	11.3	—
30～49 歳	223	6.3	21.5	54.3	13.0	4.9	—
50～64 歳	170	1.8	18.8	53.5	21.8	2.9	1.2
65 歳以上	166	4.2	14.5	63.9	15.1	1.8	0.6

問 19 あなたは過去1年間で、以下のような経験はありましたか。((1)～(7)についてそれぞれ1つに○)

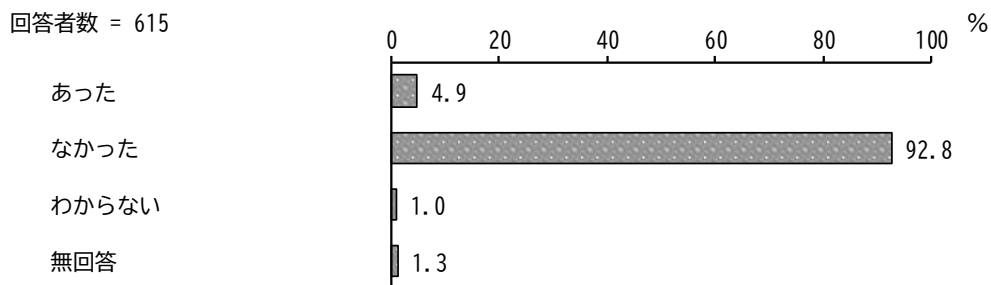
(1) あなたやご家族が必要とする食料が買えないことがあった(嗜好品を除く)

「なかった」の割合が94.5%と最も高くなっています。



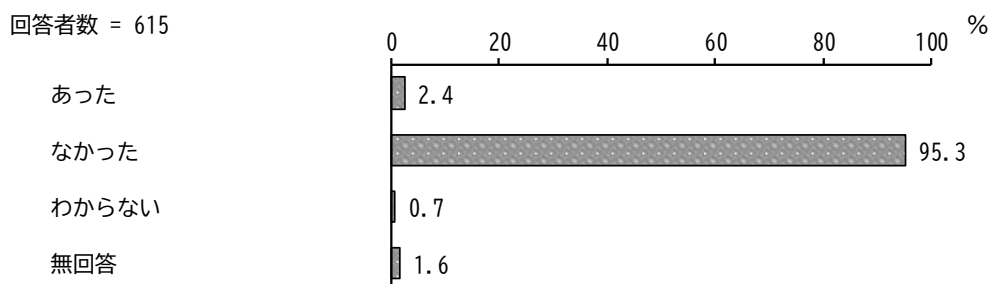
(2) あなたやご家族が必要とする衣料品が買えないことがあった(高価な衣服や貴金属を除く)

「なかった」の割合が92.8%と最も高くなっています。



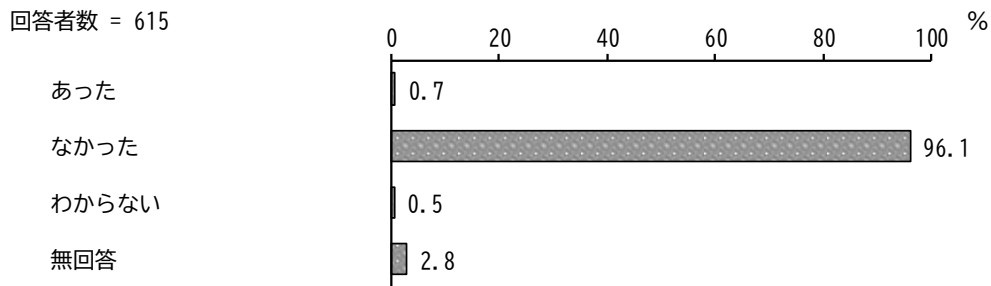
(3) 電気料金、ガス料金、電話代等の未払いがあった

「なかった」の割合が95.3%と最も高くなっています。



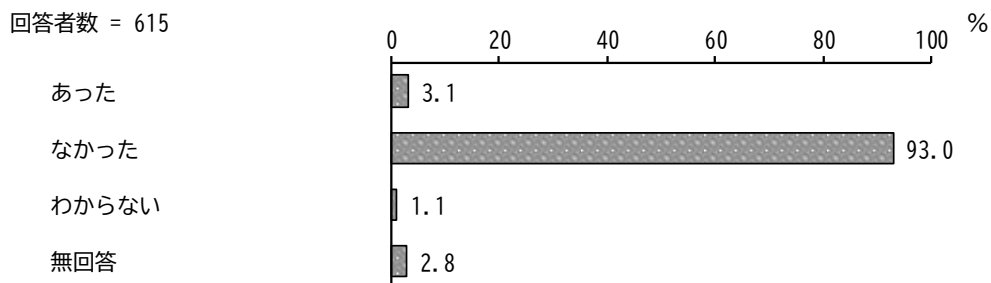
(4) 家賃を滞納したことがあった

「なかった」の割合が96.1%と最も高くなっています。



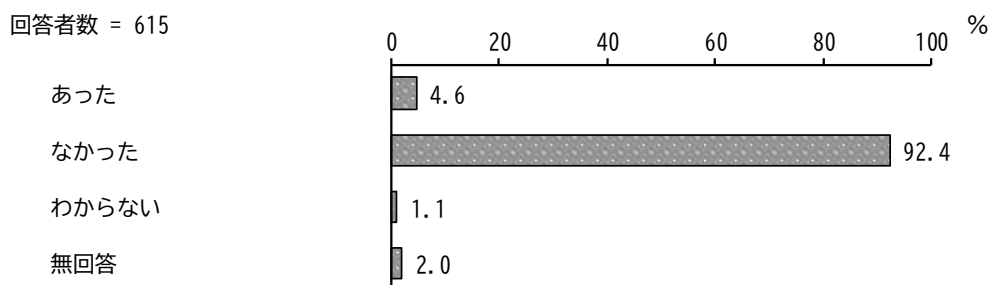
(5) 借金の返済を滞納したことがあった

「なかった」の割合が93.0%と最も高くなっています。

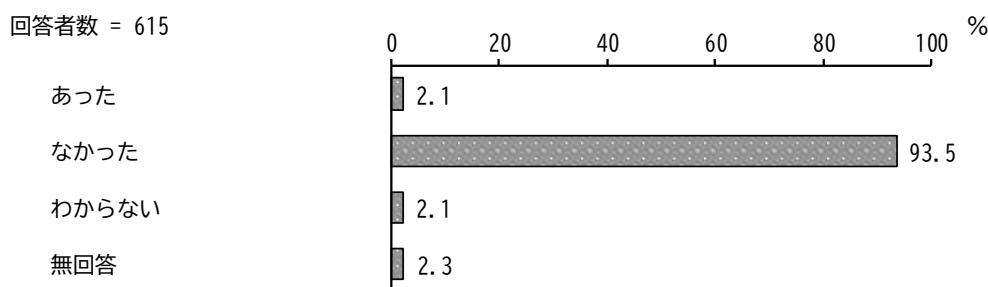


(6) あなたやご家族が病気やけがのために病院や診療所を受診したほうが良いと思っただが、実際にはできなかった

「なかった」の割合が92.4%と最も高くなっています。



(7) あなたやご家族が進学（高校・大学等）をあきらめたり、進学先を変更したりしたことがあった「なかった」の割合が 93.5%と最も高くなっています。



問 20 あなたはご自身の将来に関して、以下のことに不安を感じていますか。(1)～(4)についてそれぞれ1つに○

(1) 健康に過ごせるかどうか

「少し不安がある」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「不安がある」の割合が 24.2%、「あまり不安はない」の割合が 18.5%となっています。



【年代別】

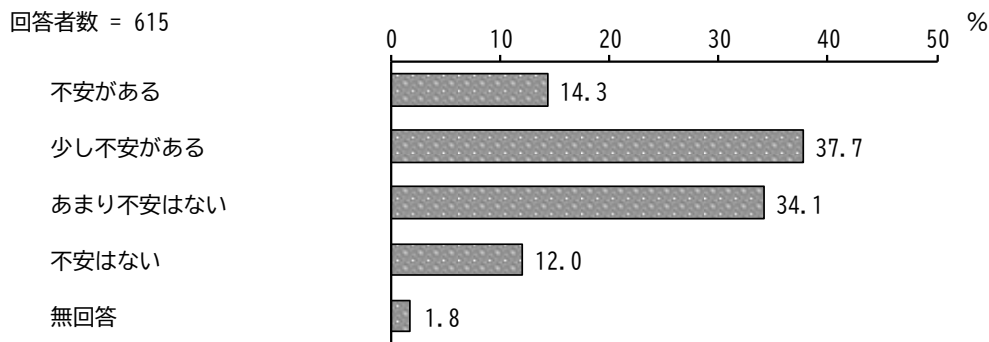
年代別にみると、他に比べ、65歳以上で「不安がある」の割合が、18～29歳で「あまり不安はない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	不安がある	少し不安がある	あまり不安はない	不安はない	無回答
全 体	615	24.2	51.1	18.5	5.7	0.5
18～29 歳	53	15.1	37.7	26.4	20.8	—
30～49 歳	223	20.2	49.8	23.3	6.7	—
50～64 歳	170	24.1	55.3	16.5	4.1	—
65 歳以上	166	32.5	53.0	12.0	1.2	1.2

(2) 生きがいを感じる生活ができるかどうか

「少し不安がある」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「あまり不安はない」の割合が 34.1%、「不安がある」の割合が 14.3%となっています。



【年代別】

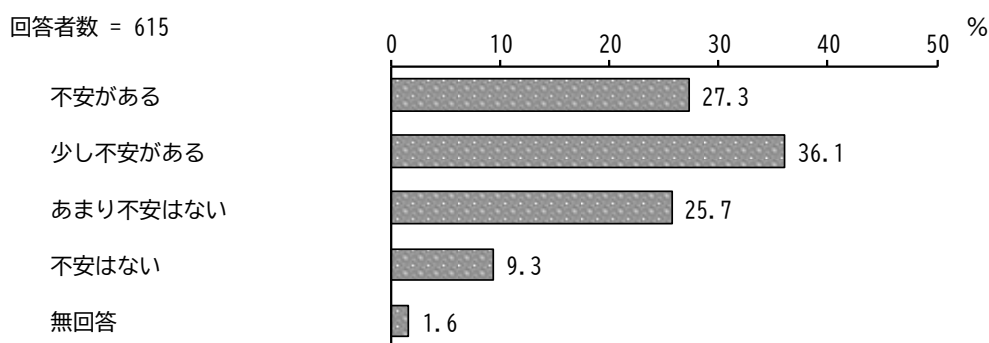
年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「不安はない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	不安がある	少し不安がある	あまり不安はない	不安はない	無回答
全 体	615	14.3	37.7	34.1	12.0	1.8
18～29歳	53	11.3	32.1	28.3	28.3	—
30～49歳	223	15.7	37.2	35.4	11.7	—
50～64歳	170	16.5	40.0	32.9	10.0	0.6
65歳以上	166	10.8	38.0	36.1	9.6	5.4

(3) 経済的に困らない生活ができるかどうか

「少し不安がある」の割合が36.1%と最も高く、次いで「不安がある」の割合が27.3%、「あまり不安はない」の割合が25.7%となっています。



【年代別】

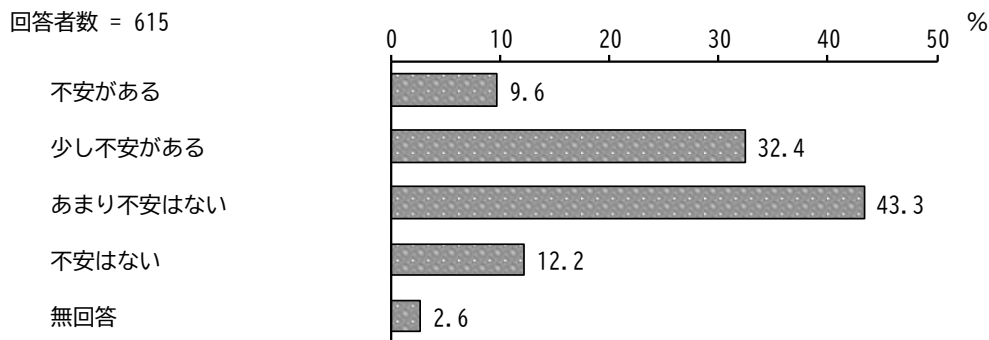
年代別にみると、他に比べ、30～49歳で「不安がある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	不安がある	少し不安がある	あまり不安はない	不安はない	無回答
全体	615	27.3	36.1	25.7	9.3	1.6
18～29歳	53	26.4	35.8	24.5	13.2	—
30～49歳	223	33.2	39.0	20.6	7.2	—
50～64歳	170	29.4	32.4	28.8	8.8	0.6
65歳以上	166	17.5	36.1	30.1	11.4	4.8

(4) 地域や社会から孤立しないかどうか

「あまり不安はない」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「少し不安がある」の割合が 32.4%、「不安はない」の割合が 12.2%となっています。



【年代別】

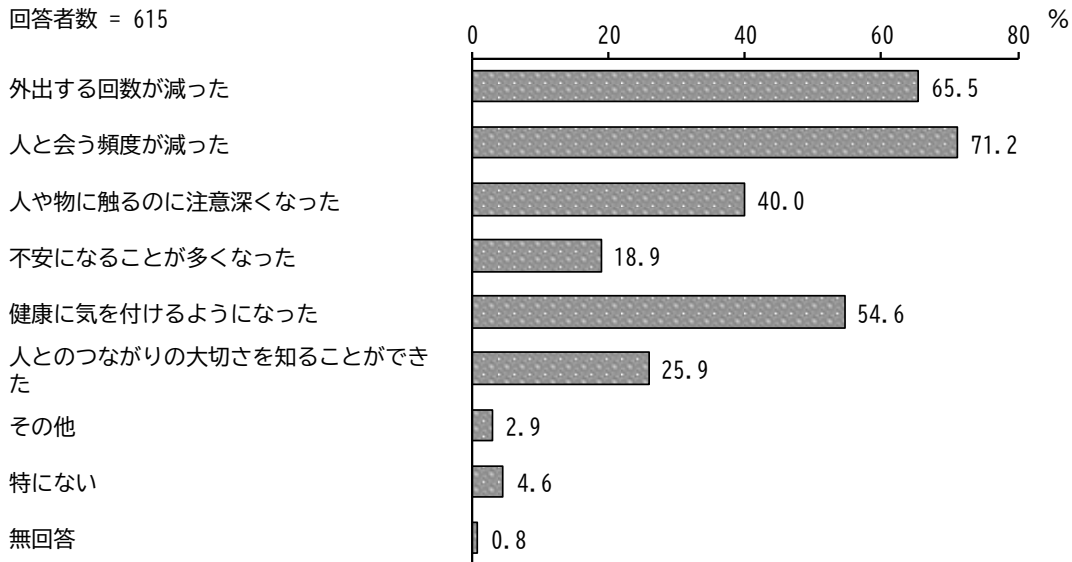
年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「不安はない」「あまり不安はない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	不安がある	少し不安がある	あまり不安はない	不安はない	無回答
全体	615	9.6	32.4	43.3	12.2	2.6
18～29歳	53	5.7	26.4	49.1	18.9	—
30～49歳	223	11.2	35.9	41.7	11.2	—
50～64歳	170	12.9	32.4	43.5	10.0	1.2
65歳以上	166	4.8	30.1	43.4	13.9	7.8

問 21 新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、あなたの行動や意識に変化はありましたか。(いくつでも○)

「人と会う頻度が減った」の割合が 71.2%と最も高く、次いで「外出する回数が減った」の割合が 65.5%、「健康に気を付けるようになった」の割合が 54.6%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、65 歳以上で「外出する回数が減った」「健康に気を付けるようになった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	外出する回数が減った	人と会う頻度が減った	人や物に触るのに注意深くなった	不安になることが多くなった	健康に気を付けるようになった	人とのつながりの大切さを知ることができた	その他	特にない	無回答
全 体	615	65.5	71.2	40.0	18.9	54.6	25.9	2.9	4.6	0.8
18～29 歳	53	41.5	50.9	39.6	20.8	49.1	28.3	—	15.1	—
30～49 歳	223	62.3	74.9	42.2	17.9	49.3	22.9	2.7	3.6	0.4
50～64 歳	170	66.5	75.3	37.1	16.5	55.3	24.7	2.9	5.3	—
65 歳以上	166	76.5	69.3	40.4	22.3	62.7	30.7	3.6	1.8	2.4

【家族構成別】

家族構成別にみると、他に比べ、三世帯世帯（親と子と孫）で「健康に気を付けるようになった」「外出する回数が減った」「人とのつながりの大切さを知ることができた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	外出する回数が減った	人と会う頻度が減った	人や物に触るのに注意 深くなった	不安になることが多 くなった	健康に気を付けるよ うになった	人とのつながりの大切 さを知ることができた	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	615	65.5	71.2	40.0	18.9	54.6	25.9	2.9	4.6	0.8
ひとり暮らし	86	67.4	65.1	36.0	18.6	47.7	26.7	5.8	4.7	1.2
夫婦のみ	164	74.4	71.3	42.7	22.6	61.6	28.7	1.8	4.3	—
二世帯世帯（親と 子）	315	59.0	73.7	40.0	17.8	52.1	23.2	2.9	4.8	0.6
三世帯世帯（親と 子と孫）	27	77.8	70.4	37.0	14.8	70.4	37.0	—	7.4	3.7
その他	20	70.0	65.0	40.0	15.0	45.0	30.0	—	—	5.0

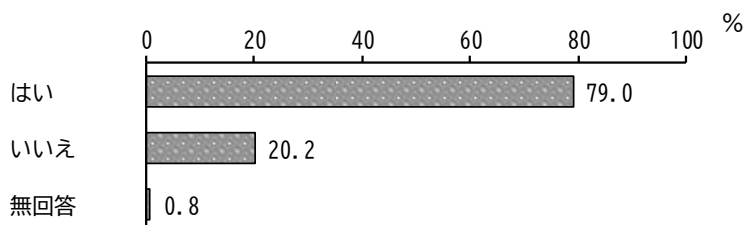
E. 防災や災害時の対応について

問 22 あなたは防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時の対応について、どのようにお考えですか。

(1) 災害時の避難場所を知っていますか

「はい」の割合が79.0%、「いいえ」の割合が20.2%となっています。

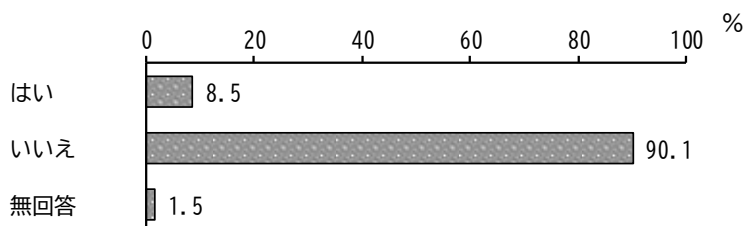
回答者数 = 615



(2) 日ごろから地域の防災訓練に参加していますか

「はい」の割合が8.5%、「いいえ」の割合が90.1%となっています。

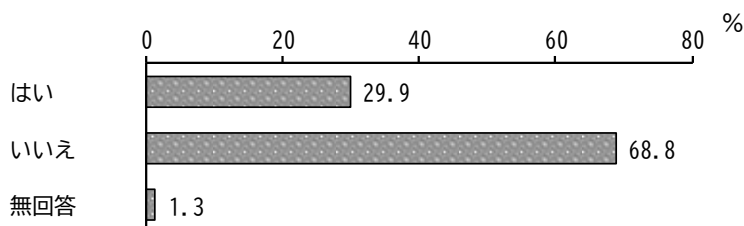
回答者数 = 615



(3) 市の「小金井市地域防災計画」を読んだことはありますか

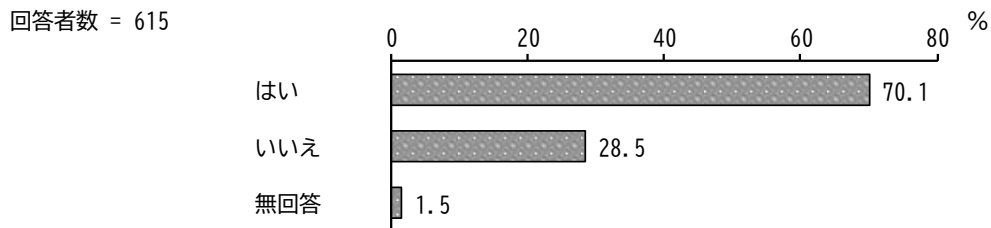
「はい」の割合が29.9%、「いいえ」の割合が68.8%となっています。

回答者数 = 615



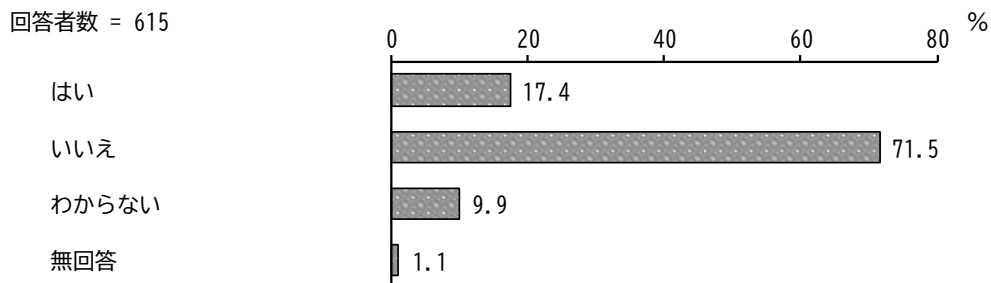
(4) 家庭に食料や日用品の備蓄をしていますか

「はい」の割合が70.1%、「いいえ」の割合が28.5%となっています。



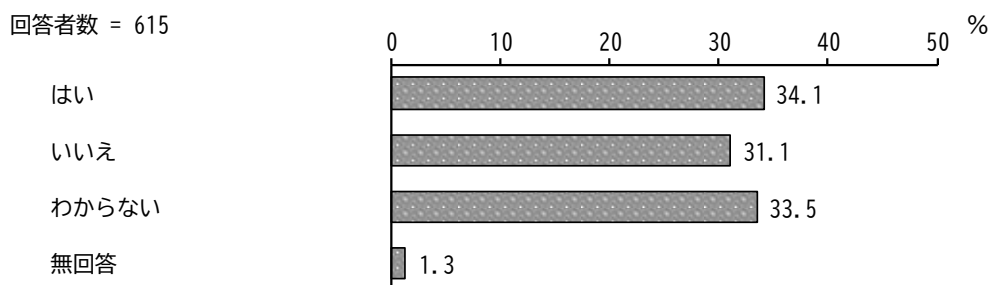
(5) 災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けが必要ですか

「いいえ」の割合が71.5%と最も高く、次いで「はい」の割合が17.4%となっています。



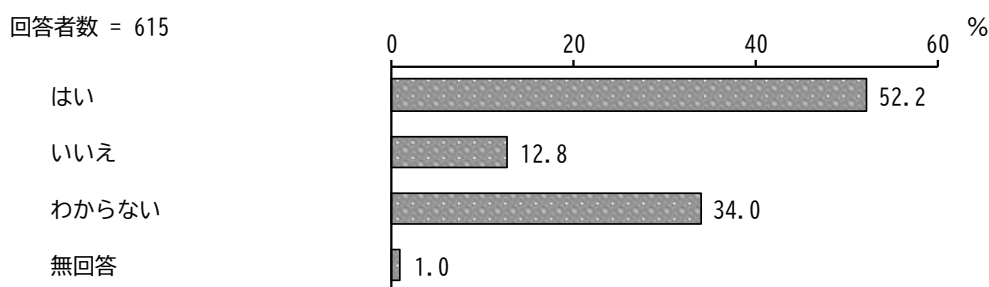
(6) 災害などの緊急時に、高齢者世帯や障がいのある方などの要支援者の避難等の手助けができますか

「はい」の割合が34.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が33.5%、「いいえ」の割合が31.1%となっています。



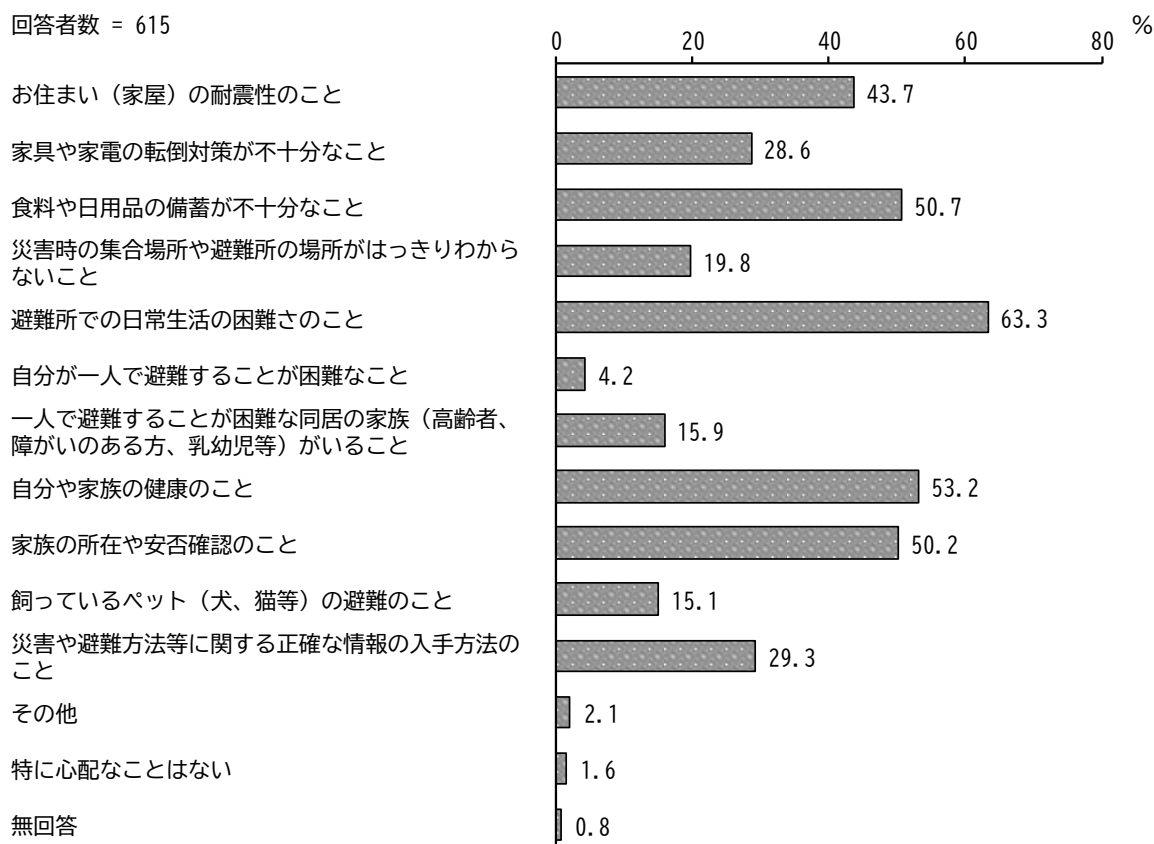
(7) 災害などの緊急時に、近所の人と互いに助け合えると思いますか

「はい」の割合が52.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が34.0%、「いいえ」の割合が12.8%となっています。



問 23 災害が発生して避難が必要になったときに、あなたはどのようなことが心配ですか。(いくつでも○)

「避難所での日常生活の困難さのこと」の割合が63.3%と最も高く、次いで「自分や家族の健康のこと」の割合が53.2%、「食料や日用品の備蓄が不十分なこと」の割合が50.7%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「お住まい（家屋）の耐震性のこと」「家具や家電の転倒対策が不十分なこと」「災害時の集合場所や避難所の場所がはっきりわからないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

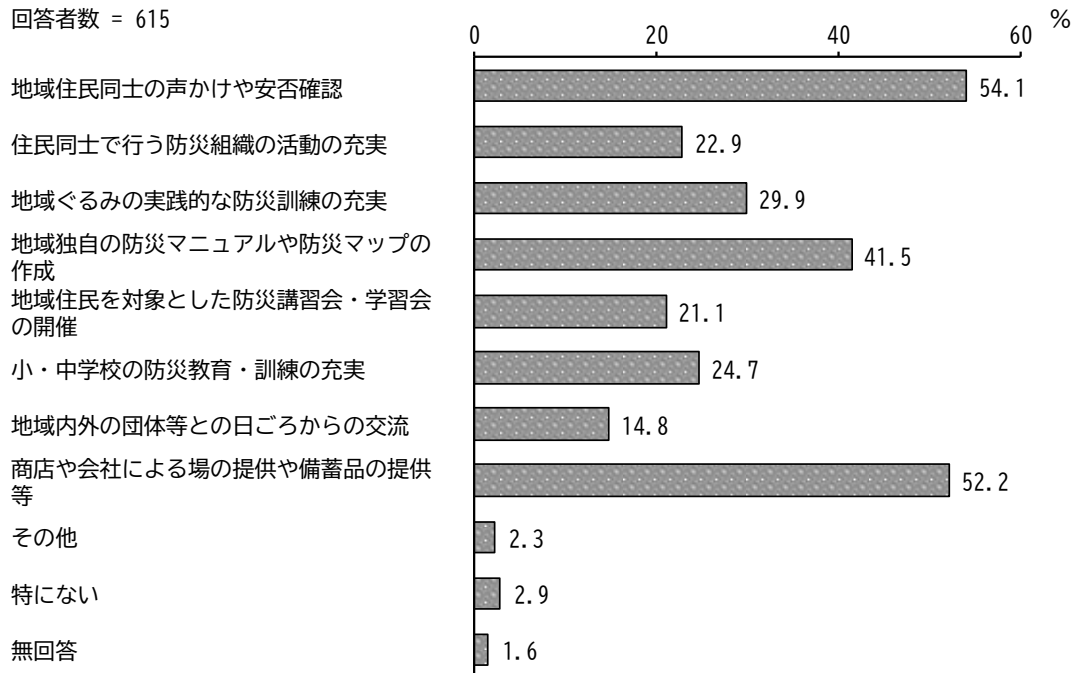
区分	回答者数（件）	お住まい（家屋）の耐震性のこと	家具や家電の転倒対策が不十分なこと	食料や日用品の備蓄が不十分なこと	災害時の集合場所や避難所の場所がはっきりわからないこと	避難所での日常生活の困難さのこと	自分が一人で避難することが困難なこと	一人で避難することが困難な同居の家族（高齢者、障がいのある方、乳幼児等）がいること
全 体	615	43.7	28.6	50.7	19.8	63.3	4.2	15.9
18～29歳	53	60.4	39.6	50.9	30.2	56.6	1.9	3.8
30～49歳	223	40.4	25.1	54.3	19.7	65.0	3.6	22.9
50～64歳	170	42.9	27.1	50.0	19.4	59.4	1.8	15.3
65歳以上	166	42.8	30.7	47.0	16.9	66.9	7.8	10.8

区分	自分や家族の健康のこと	家族の所在や安否確認のこと	飼っているペット（犬、猫等）の避難のこと	災害や避難方法等に関する正確な情報の入手方法のこと	その他	特に心配なことはない	無回答
全 体	53.2	50.2	15.1	29.3	2.1	1.6	0.8
18～29歳	54.7	56.6	18.9	35.8	3.8	1.9	1.9
30～49歳	53.8	50.2	16.1	25.1	1.8	1.8	—
50～64歳	53.5	51.8	16.5	31.8	1.8	1.2	—
65歳以上	51.2	47.0	11.4	30.1	2.4	1.8	2.4

問 24 災害に備えて、市民や企業等が行政と協働で取り組むと良いと思う事はどのようなことですか。(いくつでも○)

「地域住民同士の声かけや安否確認」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供等」の割合が 52.2%、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」の割合が 41.5%となっています。

回答者数 = 615

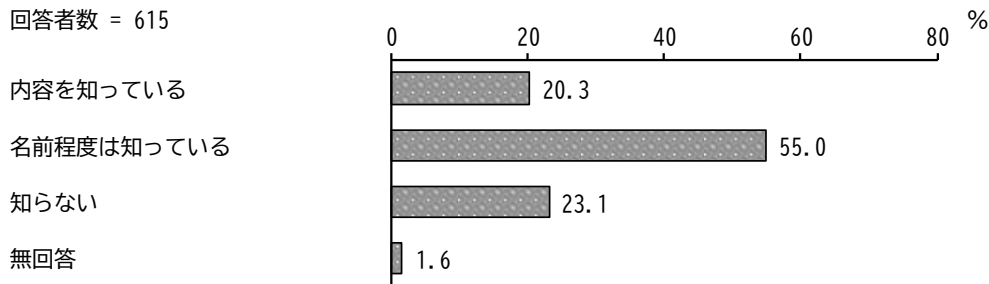


F. 福祉の制度・サービス等について

問 25 あなたは、次の福祉関係団体・制度について、どの程度ご存知ですか。((1)～(9)についてそれぞれ1つに○)

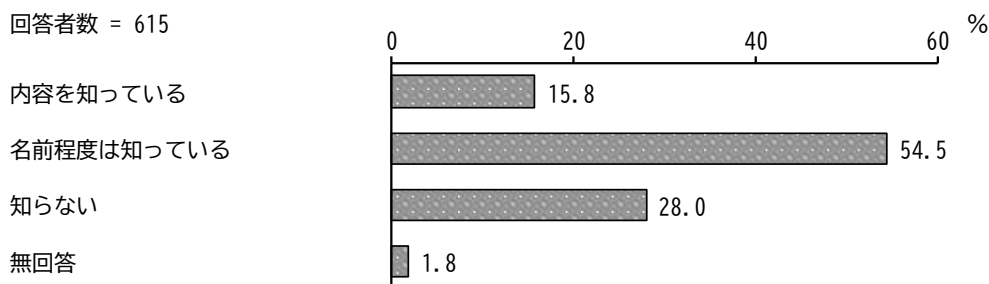
(1) 民生委員・児童委員

「名前程度は知っている」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 23.1%、「内容を知っている」の割合が 20.3%となっています。



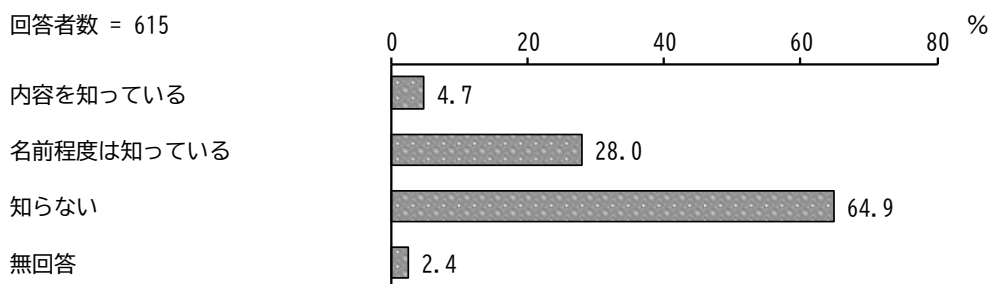
(2) 社会福祉協議会

「名前程度は知っている」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 28.0%、「内容を知っている」の割合が 15.8%となっています。



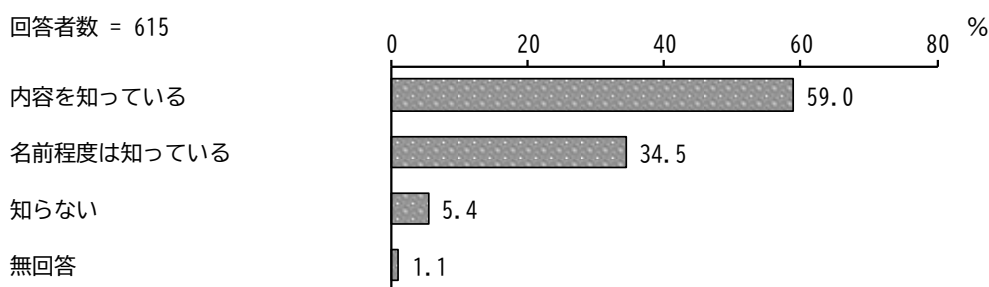
(3) 福祉サービス苦情調整委員（福祉オンブズマン）

「知らない」の割合が 64.9%と最も高く、次いで「名前程度は知っている」の割合が 28.0%となっています。



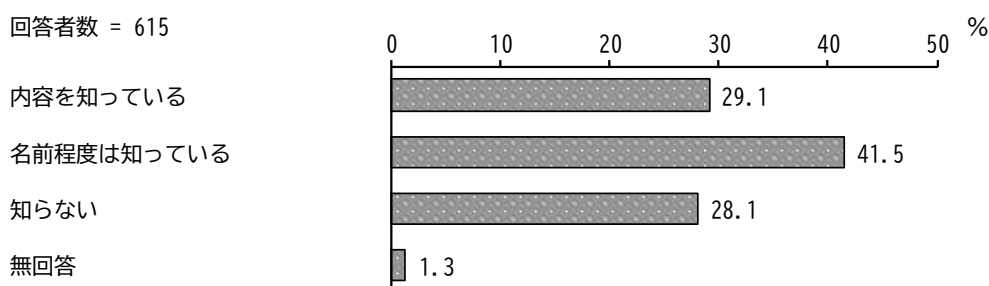
(4) シルバー人材センター

「内容を知っている」の割合が59.0%と最も高く、次いで「名前程度は知っている」の割合が34.5%となっています。



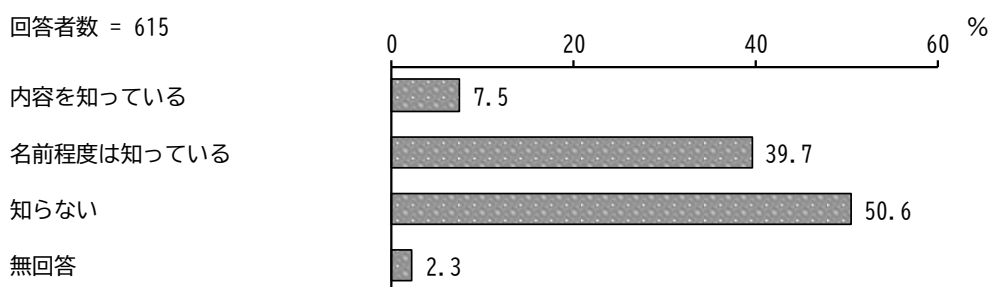
(5) 地域包括支援センター

「名前程度は知っている」の割合が41.5%と最も高く、次いで「内容を知っている」の割合が29.1%、「知らない」の割合が28.1%となっています。



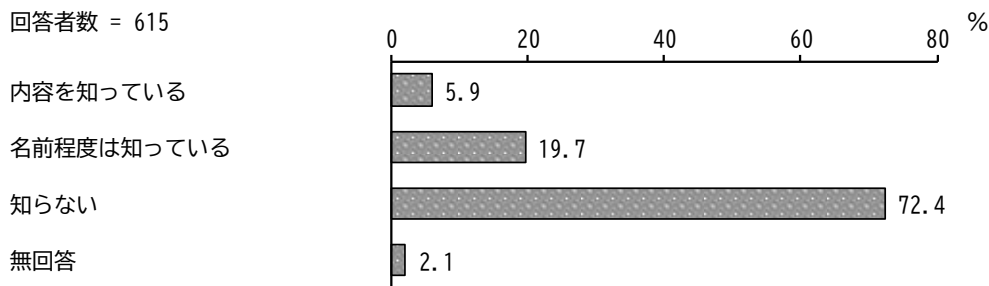
(6) 福祉総合相談窓口（自立相談サポートセンター）

「知らない」の割合が50.6%と最も高く、次いで「名前程度は知っている」の割合が39.7%となっています。



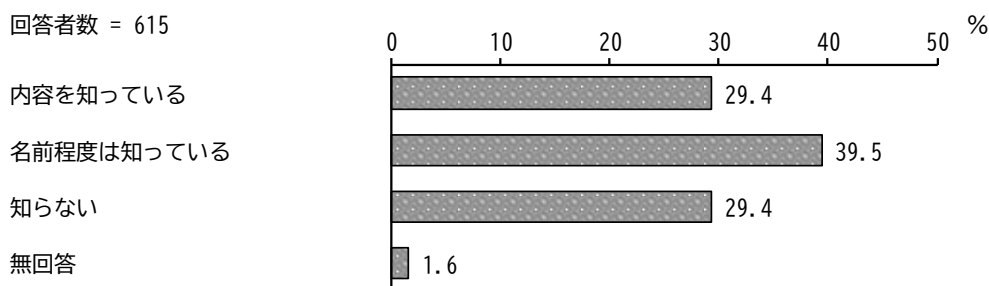
(7) 権利擁護センター

「知らない」の割合が72.4%と最も高く、次いで「名前程度は知っている」の割合が19.7%となっています。



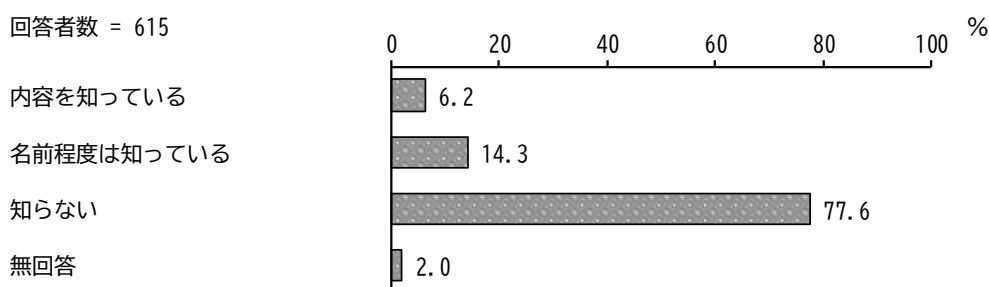
(8) 成年後見制度

「名前程度は知っている」の割合が39.5%と最も高く、次いで「内容を知っている」、「知らない」の割合が29.4%となっています。



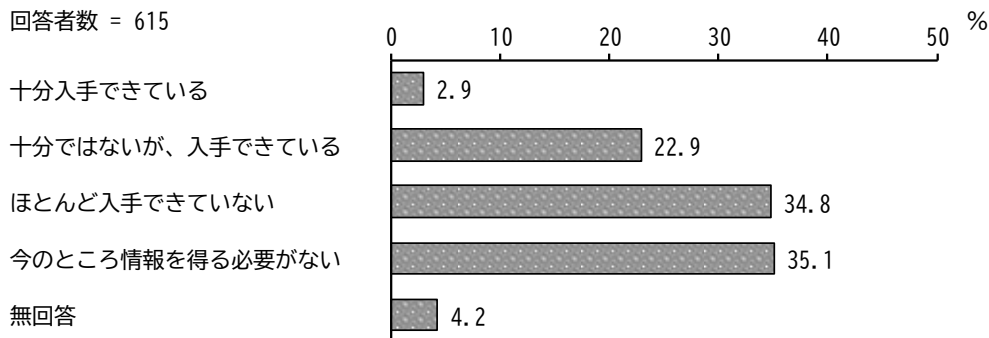
(9) 避難行動要支援者名簿

「知らない」の割合が77.6%と最も高く、次いで「名前程度は知っている」の割合が14.3%となっています。



問 26 あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。(1つに○)

「今のところ情報を得る必要がない」の割合が 35.1%と最も高く、次いで「ほとんど入手できていない」の割合が 34.8%、「十分ではないが、入手できている」の割合が 22.9%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「今のところ情報を得る必要がない」の割合が、50～64歳で「十分ではないが、入手できている」の割合が高くなっています。

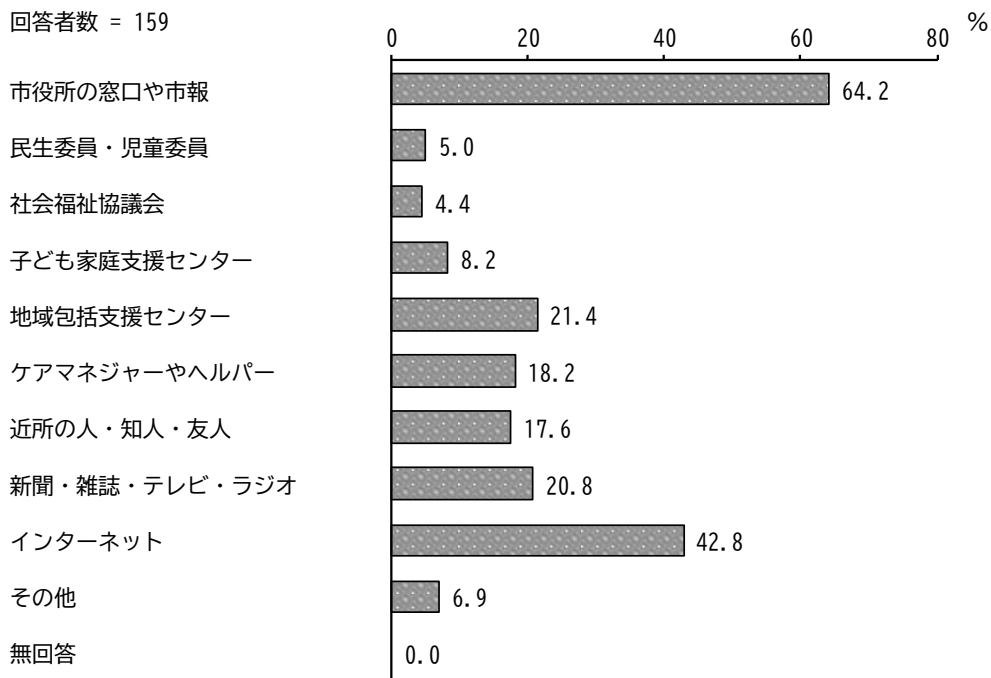
単位：%

区分	回答者数(件)	十分入手できている	十分ではないが、入手できている	ほとんど入手できていない	今のところ情報を得る必要がない	無回答
全体	615	2.9	22.9	34.8	35.1	4.2
18～29歳	53	5.7	9.4	30.2	54.7	—
30～49歳	223	4.0	18.4	35.4	39.5	2.7
50～64歳	170	1.8	28.8	34.7	32.9	1.8
65歳以上	166	1.8	27.1	35.5	25.3	10.2

問 26 で「十分入手できている」「十分ではないが、入手できている」を選んだ方におたずねします。

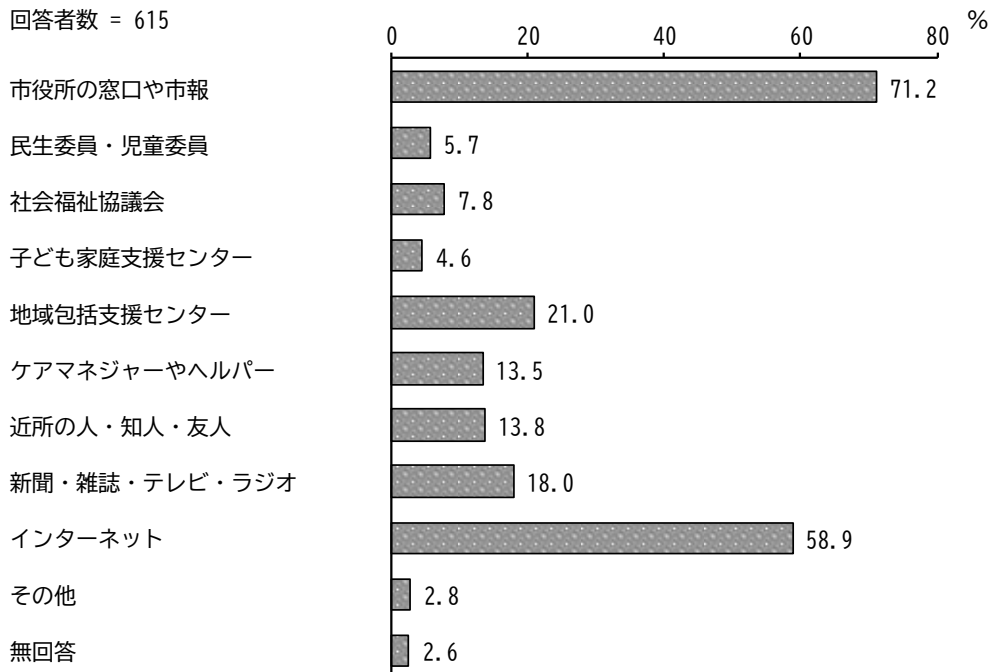
問 26-1 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。(いくつでも○)

「市役所の窓口や市報」の割合が 64.2%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が 42.8%、「地域包括支援センター」の割合が 21.4%となっています。



問 27 あなたは、今後、「福祉サービス」に関する情報をどこから入手したいですか。
(いくつでも○)

「市役所の窓口や市報」の割合が71.2%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が58.9%、「地域包括支援センター」の割合が21.0%となっています。



【年代別】

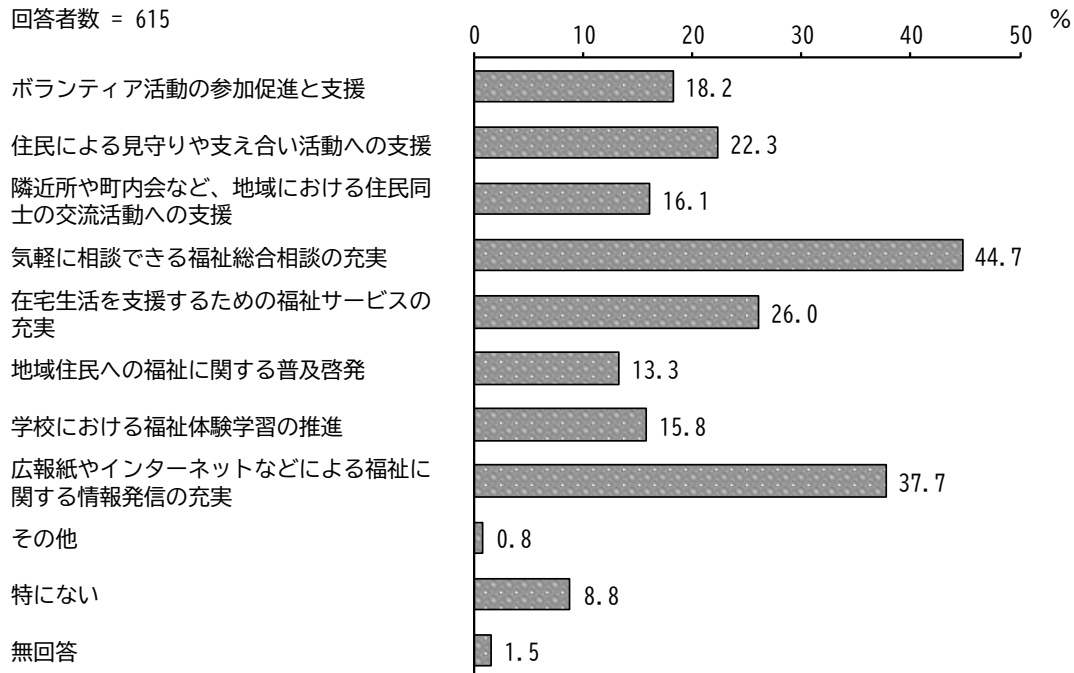
年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「インターネット」の割合が、65歳以上で「地域包括支援センター」の割合が、30～49歳で「インターネット」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	市役所の窓口や市報	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	子ども家庭支援センター	地域包括支援センター	ケアマネジャーやヘルパー	近所の人・知人・友人	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネット	その他	無回答
全体	615	71.2	5.7	7.8	4.6	21.0	13.5	13.8	18.0	58.9	2.8	2.6
18～29歳	53	49.1	1.9	5.7	3.8	9.4	5.7	11.3	13.2	79.2	1.9	—
30～49歳	223	66.4	3.6	3.6	9.0	9.4	5.8	16.6	17.5	75.3	3.6	1.8
50～64歳	170	79.4	5.9	8.2	2.4	21.2	14.7	11.8	15.9	58.8	1.8	2.9
65歳以上	166	75.9	9.0	13.9	1.2	39.8	24.1	12.7	21.7	31.3	3.0	4.2

問 28 小金井市社会福祉協議会は、様々な福祉問題の解決に向けて活動や支援を行っています。社会福祉協議会の行う活動・支援として、今後、支援してほしいものはどれですか。(3つまで〇)

「気軽に相談できる福祉総合相談の充実」の割合が44.7%と最も高く、次いで「広報紙やインターネットなどによる福祉に関する情報発信の充実」の割合が37.7%、「在宅生活を支援するための福祉サービスの充実」の割合が26.0%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、65歳以上で「気軽に相談できる福祉総合相談の充実」の割合が、30～49歳で「学校における福祉体験学習の推進」の割合が、18～29歳で「広報紙やインターネットなどによる福祉に関する情報発信の充実」の割合が高くなっています。

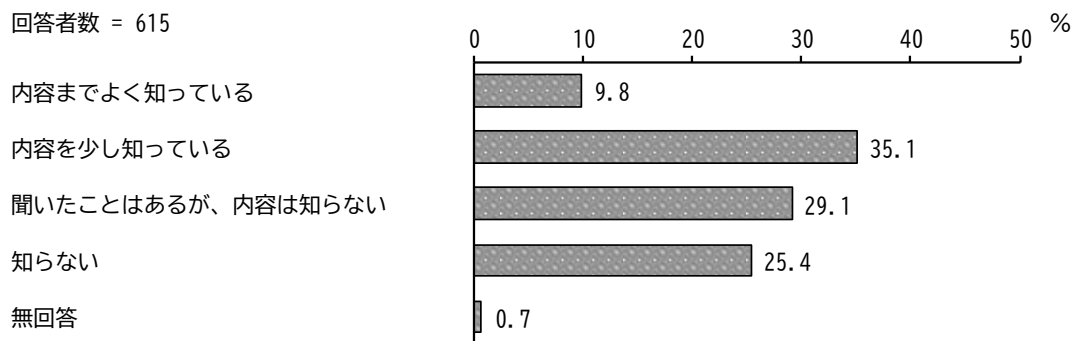
単位：％

区分	回答者数(件)	ボランティア活動の参加促進と支援	住民による見守りや支え合い活動への支援	隣近所や町内会など、地域における住民同士の交流活動への支援	気軽に相談できる福祉総合相談の充実	在宅生活を支援するための福祉サービスの充実
全体	615	18.2	22.3	16.1	44.7	26.0
18～29歳	53	15.1	20.8	11.3	30.2	20.8
30～49歳	223	17.5	21.1	14.3	35.4	25.1
50～64歳	170	18.8	22.4	16.5	48.8	25.3
65歳以上	166	19.3	24.1	18.7	57.8	28.9

区分	地域住民への福祉に関する普及啓発	学校における福祉体験学習の推進	広報紙やインターネットなどによる福祉に関する情報発信の充実	その他	特になし	無回答
全体	13.3	15.8	37.7	0.8	8.8	1.5
18～29歳	1.9	22.6	45.3	—	18.9	—
30～49歳	14.3	25.6	35.4	1.8	12.1	0.9
50～64歳	13.5	8.8	43.5	—	5.9	0.6
65歳以上	15.7	7.8	33.1	0.6	4.2	3.6

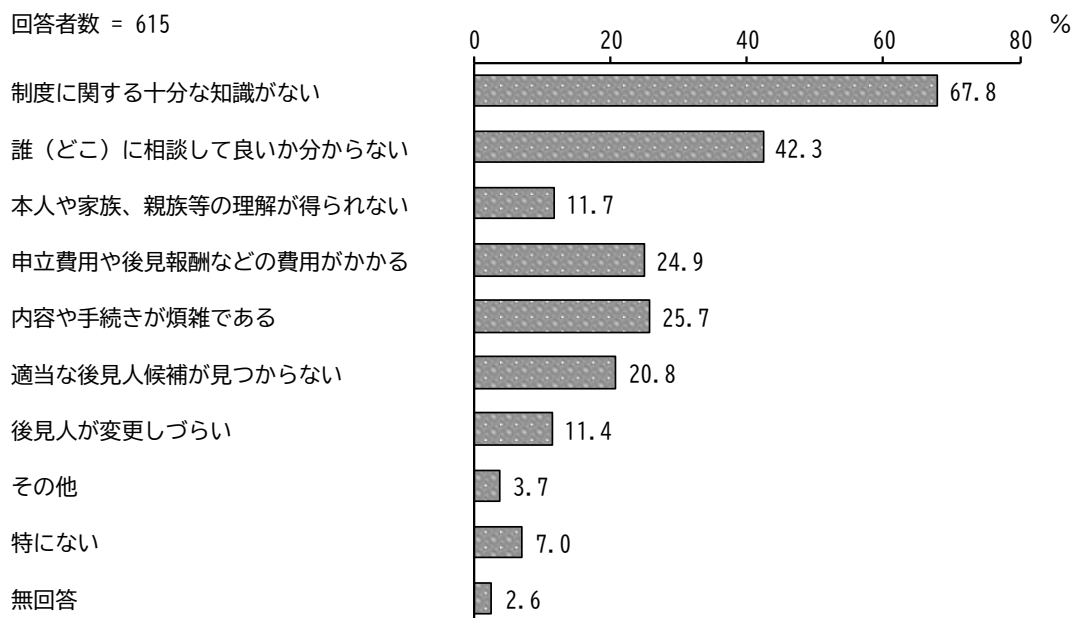
問 29 あなたは、「成年後見制度（認知症や障がいのある方等が地域で自立した生活を送れるように福祉サービスの利用手続きや生活費の管理及び財産管理等を行なう制度）」をご存知ですか。（1つに○）

「内容を少し知っている」の割合が 35.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 29.1%、「知らない」の割合が 25.4%となっています。



問 30 成年後見制度の利用促進に向けての課題は何だと思えますか。（いくつでも○）

「制度に関する十分な知識がない」の割合が 67.8%と最も高く、次いで「誰（どこ）に相談して良いか分からない」の割合が 42.3%、「内容や手続きが煩雑である」の割合が 25.7%となっています。



【成年後見制度の認知度別】

成年後見制度の認知度別にみると、他に比べ、内容までよく知っているで「内容や手続きが煩雑である」「申立費用や後見報酬などの費用がかかる」「後見人が変更しづらい」の割合が高くなっています。

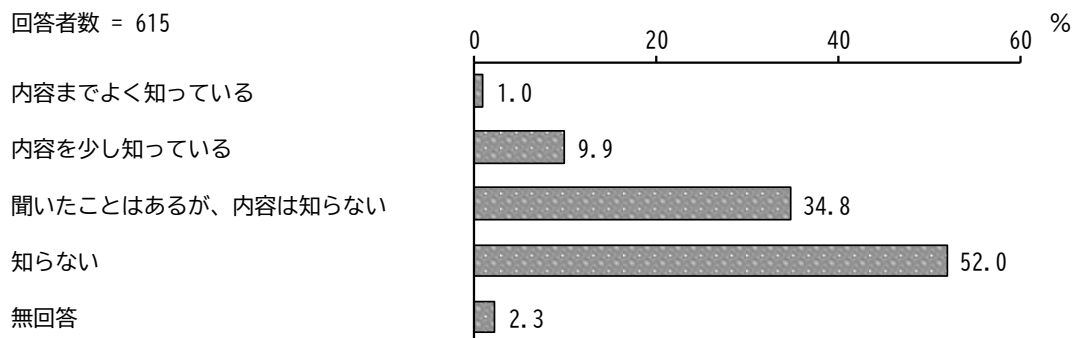
単位：％

区分	回答者数(件)	制度に関する十分な知識がない	誰(どこ)に相談して良いか分からない	本人や家族、親族等の理解が得られない	申立費用や後見報酬などの費用がかかる	内容や手続きが煩雑である	適切な後見人候補が見つからない	後見人が変更しづらい	その他	特にない	無回答
全 体	615	67.8	42.3	11.7	24.9	25.7	20.8	11.4	3.7	7.0	2.6
内容までよく知っている	60	45.0	26.7	25.0	48.3	50.0	38.3	31.7	11.7	5.0	—
内容を少し知っている	216	60.2	46.8	16.7	36.1	36.6	31.9	15.3	4.6	3.2	0.5
聞いたことはあるが、内容は知らない	179	81.0	50.8	7.8	15.6	17.9	13.4	7.3	2.2	3.4	3.9
知らない	156	73.1	32.7	4.5	11.5	10.9	7.7	3.2	1.3	17.3	3.2

G. 再犯防止支援について

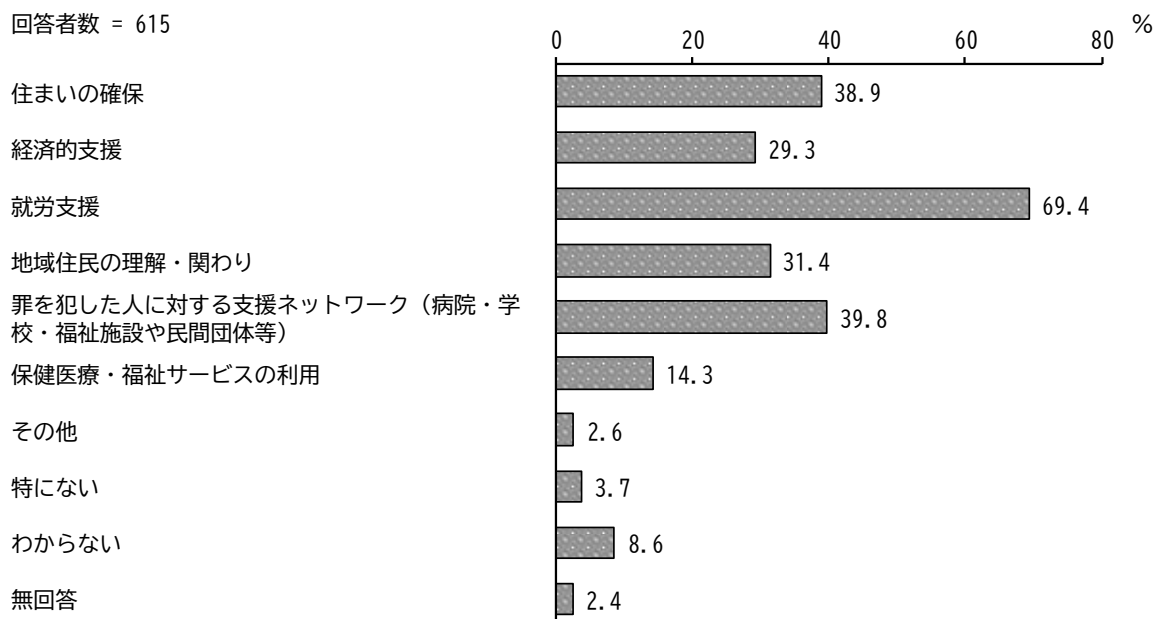
問 31 犯罪をした人が孤立することなく社会に復帰し、犯罪や非行を繰り返すことを防ぐため、平成 28 年に再犯の防止等の推進に関する法律（再犯防止推進法）が施行されました。あなたは、このことを知っていますか。（1つに○）

「知らない」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 34.8%となっています。



問 32 罪を犯した人が地域に戻る場合、その人に対してどのような支援が必要だと思いますか。（いくつでも○）

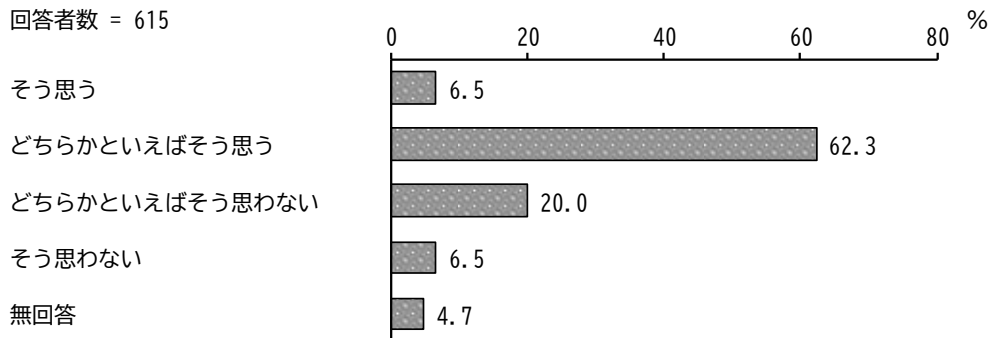
「就労支援」の割合が 69.4%と最も高く、次いで「罪を犯した人に対する支援ネットワーク（病院・学校・福祉施設や民間団体等）」の割合が 39.8%、「住まいの確保」の割合が 38.9%となっています。



H. 保健福祉施策等について

問 33 小金井市では、「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」の実現をめざしています。あなたは、小金井市は「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」だと思えますか。(1つに○)

「どちらかといえばそう思う」の割合が62.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」の割合が20.0%となっています。



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。

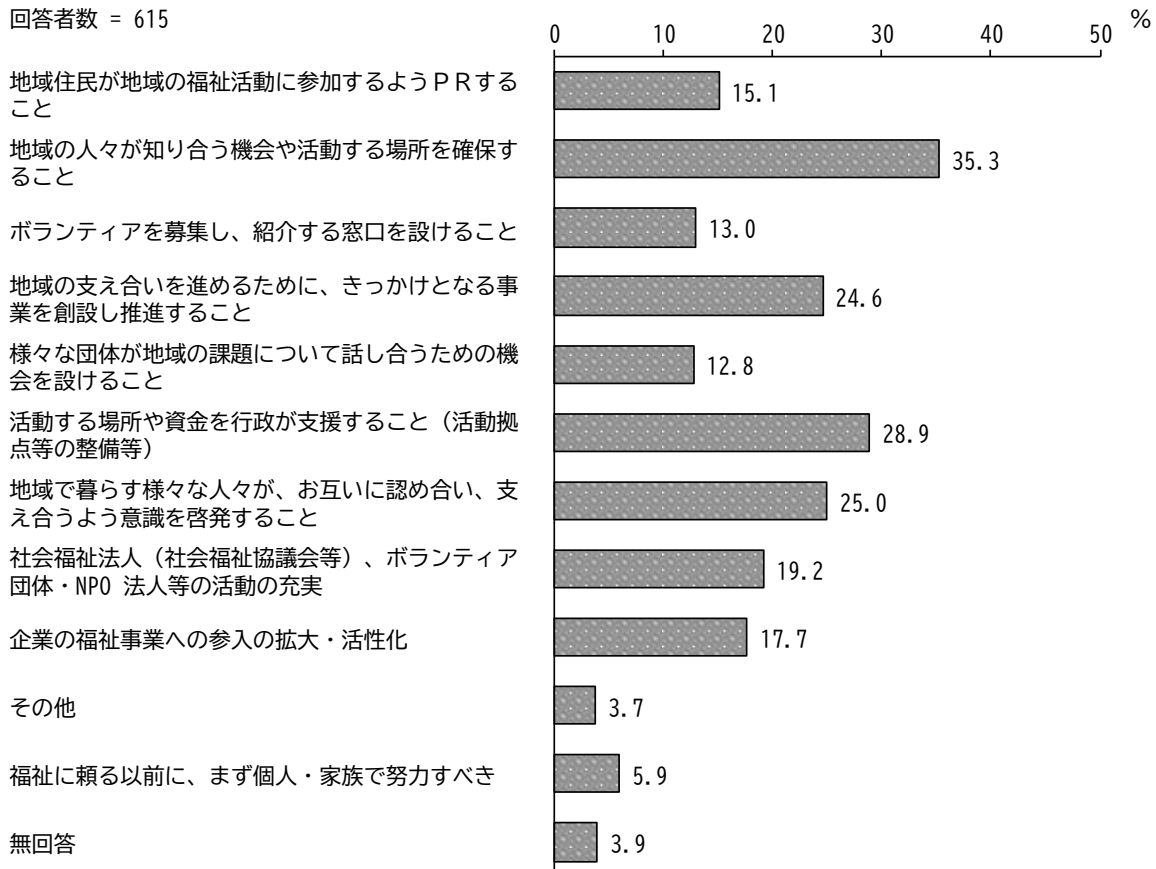
単位：%

区分	回答者数(件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
全 体	615	6.5	62.3	20.0	6.5	4.7
18～29歳	53	11.3	75.5	9.4	3.8	—
30～49歳	223	7.6	62.8	19.3	9.0	1.3
50～64歳	170	5.3	62.4	24.1	5.3	2.9
65歳以上	166	4.8	57.2	20.5	4.8	12.7

問 34 地域の支え合いの仕組みづくりで、あなたが特に必要であると思うことは何ですか。(3つまで〇)

「地域の人々が知り合う機会や活動する場所を確保すること」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「活動する場所や資金を行政が支援すること（活動拠点等の整備等）」の割合が 28.9%、「地域で暮らす様々な人々が、お互いに認め合い、支え合うよう意識を啓発すること」の割合が 25.0%となっています。

回答者数 = 615



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「企業の福祉事業への参入の拡大・活性化」の割合が、65歳以上で「地域住民が地域の福祉活動に参加するようPRすること」の割合が高くなっています。

単位：%

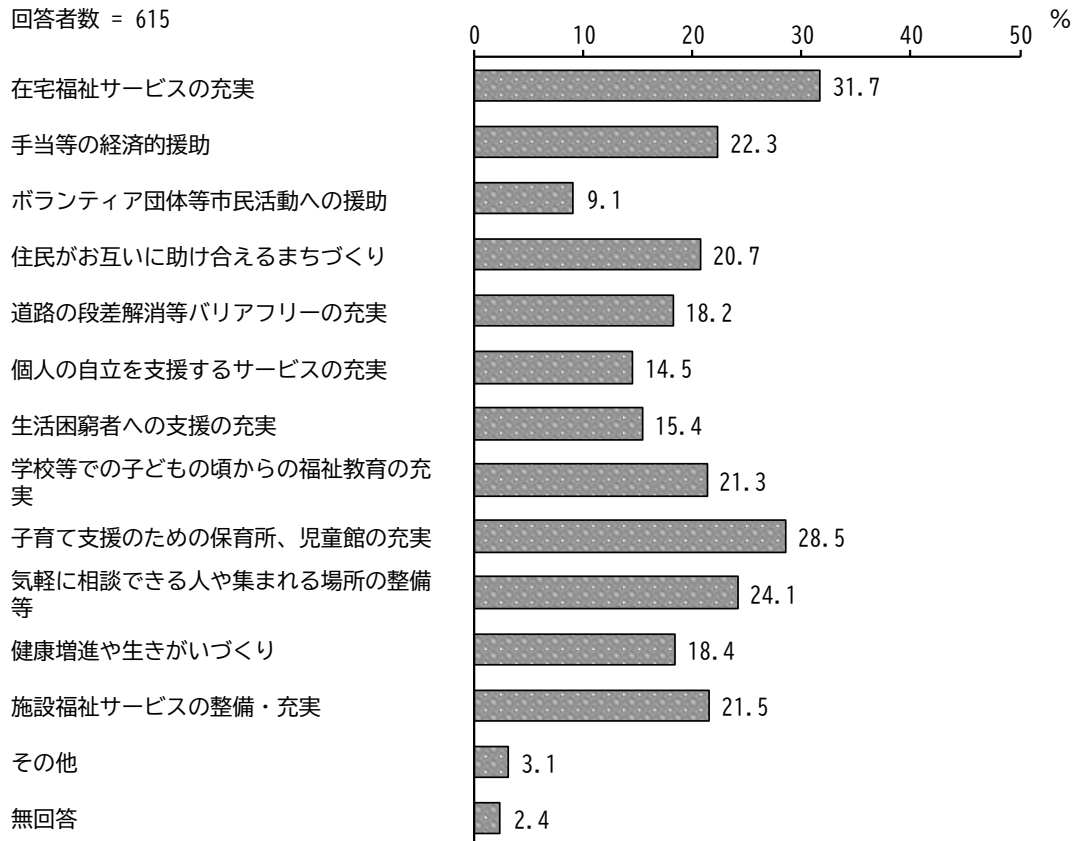
区分	回答者数(件)	地域住民が地域の福祉活動に参加するようPRすること	地域の人々が知り合う機会や活動する場所を確保すること	ボランティアを募集し、紹介する窓口を設けること	地域の支え合いを進めるために、きっかけとなる事業を創設し推進すること	様々な団体が地域の課題について話し合うための機会を設けること	活動する場所や資金を行政が支援すること(活動拠点等の整備等)
全 体	615	15.1	35.3	13.0	24.6	12.8	28.9
18～29歳	53	9.4	34.0	11.3	15.1	11.3	32.1
30～49歳	223	9.9	34.1	13.9	23.8	13.9	28.7
50～64歳	170	15.9	36.5	14.7	28.2	11.2	28.8
65歳以上	166	22.9	35.5	10.2	24.7	13.9	27.7

区分	地域で暮らす様々な人々が、お互いに認め合い、支え合うよう意識を啓発すること	社会福祉法人(社会福祉協議会等)、ボランティア団体・NPO法人等の活動の充実	企業の福祉事業への参入の拡大・活性化	その他	福祉に頼る以前に、まず個人・家族で努力すべき	無回答
全 体	25.0	19.2	17.7	3.7	5.9	3.9
18～29歳	26.4	11.3	34.0	1.9	3.8	—
30～49歳	26.0	18.8	20.6	5.8	5.4	2.2
50～64歳	26.5	21.2	15.9	4.7	7.1	2.9
65歳以上	21.7	20.5	10.8	0.6	6.0	8.4

問 35 あなたは、これからの小金井市の福祉は何を重点にすべきだと思いますか。(3つまで○)

「在宅福祉サービスの充実」の割合が 31.7%と最も高く、次いで「子育て支援のための保育所、児童館の充実」の割合が 28.5%、「気軽に相談できる人や集まれる場所の整備等」の割合が 24.1%となっています。

回答者数 = 615



【年代別】

年代別にみると、他に比べ、18～29歳で「手当等の経済的援助」「子育て支援のための保育所、児童館の充実」の割合が、30～49歳で「子育て支援のための保育所、児童館の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	在宅福祉サービスの充実	手当等の経済的援助	ボランティア団体等市民活動への援助	住民がお互いに助け合えるまちづくり	道路の段差解消等バリアフリーの充実	個人の自立を支援するサービスの充実	生活困窮者への支援の充実
全 体	615	31.7	22.3	9.1	20.7	18.2	14.5	15.4
18～29歳	53	20.8	43.4	3.8	17.0	28.3	7.5	18.9
30～49歳	223	22.4	27.8	6.3	15.2	18.8	15.7	12.6
50～64歳	170	38.8	15.9	10.0	24.1	14.7	17.6	15.9
65歳以上	166	39.2	14.5	13.9	24.7	17.5	12.0	18.1

区分	学校等での子どもの頃からの福祉教育の充実	子育て支援のための保育所、児童館の充実	気軽に相談できる人や集まれる場所の整備等	健康増進や生きがいづくり	施設福祉サービスの整備・充実	その他	無回答
全 体	21.3	28.5	24.1	18.4	21.5	3.1	2.4
18～29歳	15.1	39.6	24.5	15.1	13.2	3.8	—
30～49歳	30.5	39.5	19.7	15.2	17.9	3.6	2.7
50～64歳	15.9	15.9	28.2	19.4	28.8	4.1	2.4
65歳以上	16.9	23.5	25.9	22.3	21.1	1.2	3.0

問 36 みんなで助け合い・支え合える地域をつくるために、あなたができること、地域で取り組むべきことなど、何かご意見などがあれば教えてください。(自由意見)

全部で 113 件のご回答をいただきました。以下に主なものを抜粋します。

地域住民のつながり：13 件

- ・私はコロナ（対策）禍になってから引っ越してきたので隣人の顔を知りません。隣には小学生の女の子が住んでいるようですが子供ですら顔をかくしており、誰の顔もわかりません。みんなで助け合いといいますが道で会っても誰が誰だかわからない人たちだらけでどうやって助け合いをするのか疑問です。あなた方は保身とクレーム対策の「マスク着用のお願い」を永遠に続けて人々（特に子供）から正常なコミュニケーションを奪い続けるのでしょうか。（女性、30～34 歳）
- ・コロナの拡大もあり、地域活動も活発化せず、近所の方との交流が少なくなっているのが不安ですね。異年代（若い方、老人の方）の交流をもつには、何が出来るのか？各町会も高齢化が進み行事は（コロナ）開催できない状態が続いています。何かやるべき事があるのでしょうかが具体的には思い浮かびません。残念です。（男性、70～74 歳）

行政の活動：17 件

- ・市民に意見をきいて、行政のプラスになるのでしょうか。疑問に思いました。少数意見が通ってしまうのはこわいです。安易に思いつきを実行しないで下さい。（女性、80 歳以上）
- ・小金井市のためにしっかりととはたらいして下さい。また、教育に力を入れるなら、公立小学校中学校に教育費を入れて、質がよくなるようにしてほしいと思います。（女性、35～39 歳）
- ・少子化なのは結婚しないから。結婚した市民にお金をあげれば良い。婚活をもっと市をあげてやってみては？（男性、40～44 歳）

市内の設備：10 件

- ・高齢者のみの住宅が多くなっているのので、防犯カメラの設置を増やし、犯罪防止、火災事故防止などの対策を充実してほしい。（男性、70～74 歳）
- ・幅広い層が利用する施設、スポーツセンターや図書館等福祉サービスの改築含めたサービスの充実化を切に願います。今まで都内の 5 区・市町に住居しましたが、ここまでクオリティが低いところは初めてです。このような施設を通じてコミュニティの輪が広がっていくものではないか、と思います。頑張ってくださいたいです。（女性、45～49 歳）
- ・①（貫井）小金井市坂下地区に小児科、耳鼻科、内科、皮膚科を営む診療所、クリニックが坂上地区に比べて圧倒的に少ない。②東京自治会館に図書館（図書室）を設置してほしい。もしくはその近隣に設置してほしい。坂下地区の住民も貫井北センター（1F 図書館とカフェあり）と同等の公共サービスを楽しみたい。（女性、40～44 歳）
- ・市と大学や企業と連携して、新しい福祉会館に誰でも利用できる食堂やカフェなどを作ってほしい。そこに行けば、まだ福祉が必要でなくても情報を得られ、今後役に立つかもしれない。周知になると思います。（女性、45～49 歳）

情報の発信：13件

- ・どこに、誰に？入口がわからない。市役所の積極的な広報が必要と感じられる。（女性、80歳以上）
- ・人それぞれ、生活に対する満足度に差があり、どれだけ支援すべきかわからない。それよりもまずは声かけが必要なのではないかと思う。ただ、その声かけも、どのような方法でするのかはわからない。それともう1つ。これは、福祉に該当するかわからないが、自転車の交通マナーが悪すぎる。老若男女全て。特に、お年寄りに関しては講習が必要なのでは…！？（女性、60～64歳）
- ・まだ福祉の制度を必要とするケースがなく、イメージがわからないが、世の中をみて感じることは、施設、役所などのつながり、情報の共有、連携がうまくとれていないと、たらい回しとなったり、援助がブツブツ切れたりするのではないかと思う。自分のこの状況はどこに助けを求めたらよいのかということもわからないケースもあると思うので、イメージがわかる情報伝達も必要かと思う（男性、50～54歳）

福祉サービスの充実：11件

- ・障害児（者）の自立や課題解決のため、適切なサービス利用に向けてのケアマネジメントをより細かく支援する障害児童支援事業所数がまだ不足しています。良質な事業所の新設をお願いします。（女性、45～49歳）
- ・点字や手話を誰もが習得できて障害の壁をなくすことを夢にみえています。義務教育の責務は高学歴の習得ではありません。識字教育のレベルアップをして、点字を導入する共生社会を夢見ています。（女性、80歳以上）
- ・ヤングケアラーや生活困窮者（特にシングルマザー又は一人暮らしの学生など）の記事を読むたびに心を痛めます。小金井にも多数いるかもしれませんが、本人は助けを求める声を上げられないのではないのでしょうか。援助の受けやすいしくみを作ってあげてほしいです。小金井全世帯のうちどれくらいの%の人たちが支援をうける（受けなければならない）状態なのか実態を教えてください。身近なところの情報があれば、周りが気軽に声かけできないのではないのでしょうか。皆で支えあっていく社会が理想だとは思いますが、情報がなければ進まないような気がします。うまくまとめられませんが、何かやれることがあれば協力したいとは思いますが…。（女性、65～69歳）

地域活動・ボランティア：19件

- ・小金井市に居住し1年未満ですが、幅広い年代、バックグラウンドの方々が住んでいる自治体だと感じています。それぞれ、得意なことや経験をお持ちの方もいると思うので、どのようなニーズがあり、どのような技能や経験が活かせるかを知ることができたり、マッチングできるような仕組みがあると、住民の活力をいかした活動ができるのではないかと思います。（男性、35～39歳）

- ・剣道を家族で始めた事により、沢山の年代、地域のつながりを感じる事が出来ています。地域でスポーツや武道を体験するイベントなどをして（無料）さまざまな年代の方と交流があったら子供から年配の方まで知り合う事が出来、そこから助け合いが（ボランティア etc）出来ていたら良いのではと思いました。（女性、40～44歳）
- ・元気と余力のある高齢者が、助けを必要とする高齢者を支えるシステムやコミュニティをつくってほしい。現役世代の負担ばかり増えている感じがする。現役世代には、自分の仕事・育児・家庭に専念させてほしい。現役世代は疲弊しています。特にロスジェネレーション世代は、人にかまっている余裕はありません。この世代がそのまま高齢者になっていくのです。現役世代にこれ以上期待しないでほしい。（女性、45～49歳）

世代間交流：5件

- ・子どもは社会や地域の宝。商業施設やマンションを建てる以前に、子どもたちがのびのびと外あそびできる場を作ってほしい。そこから子から子へ、親どうしの交流も深まり福祉へとつながっていくと思います。（女性、45～49歳）
- ・地域での皆が参加できる行事をふやす。お互いの顔などを知りあうことが第一歩かと思います。（女性、70～74歳）

子育て：15件

- ・保育所や施設での問題ごと（虐待など）を相談できる場所が必要。また相談ごとによっては役所の課にではなく市で協力し合える環境にしてほしい。（男性、30～34歳）
- ・母子（父子）家庭の貧困問題について、気になる。実態を調べたり、市民のできることの発信、団体の紹介等を行ってほしい。自分ができたいことを考えたい。（女性、60～64歳）

その他：10件

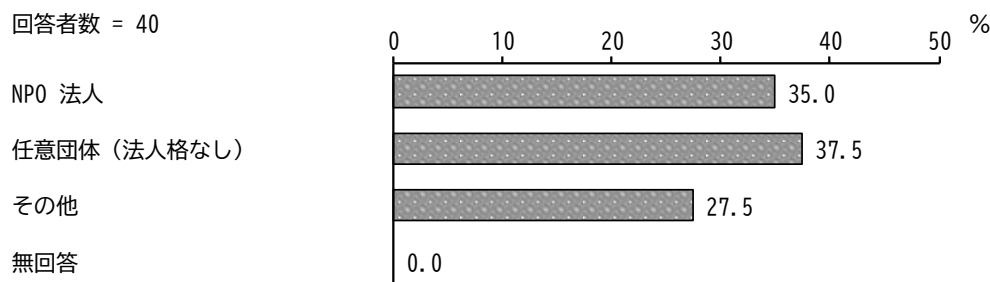
- ・急激に人口が増大することにより、世の中の常識が通用しなくなり、時々、見直しが必要になってくる。見直しをしないと、幸福な世の中にはならない。（男性、80歳以上）
- ・今のままでいいと思います（男性、60～64歳）
- ・今まで子どもが小さかったので子ども家庭支援センターにお世話になっていました。今は、経済的に苦しいのでお手伝いできません。年を取って健康的にも不安です。何ができるか、わかりません。（女性、50～54歳）
- ・助け合い、支え合える地域について、望まれていることが具体的にわかりません。（女性、55～59歳）
- ・わからない。行政が抱えている課題と住民が抱えている課題がわからないので、自分がお役に立てることは不明。（男性、55～59歳）

Ⅱ－２ 担い手調査

A. 貴団体についておたずねします。

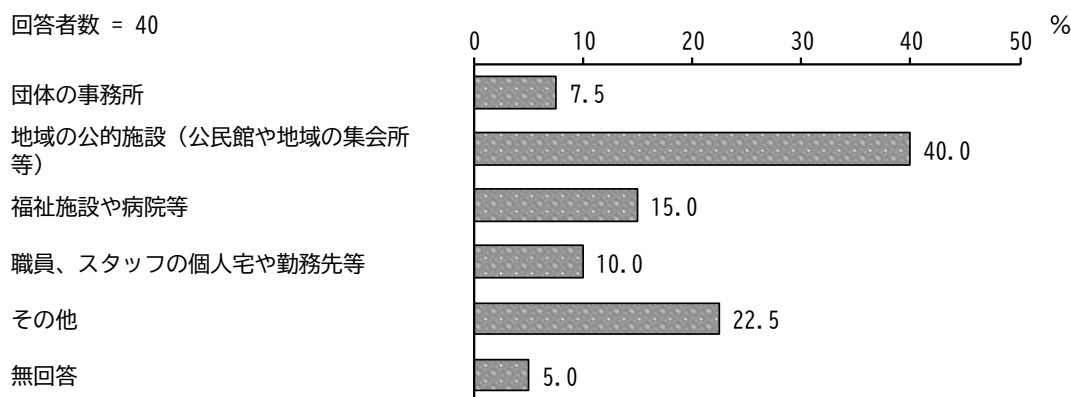
F 1 貴団体はどのような活動団体ですか。(1つに○)

「NPO 法人」の割合が 35.0%、「任意団体（法人格なし）」の割合が 37.5%となっています。



F 3 貴団体の主な活動場所は次のうちどれですか。(1つに○)

「地域の公的施設（公民館や地域の集会所等）」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「福祉施設や病院等」の割合が 15.0%、「職員、スタッフの個人宅や勤務先等」の割合が 10.0%となっています。



【団体種別】

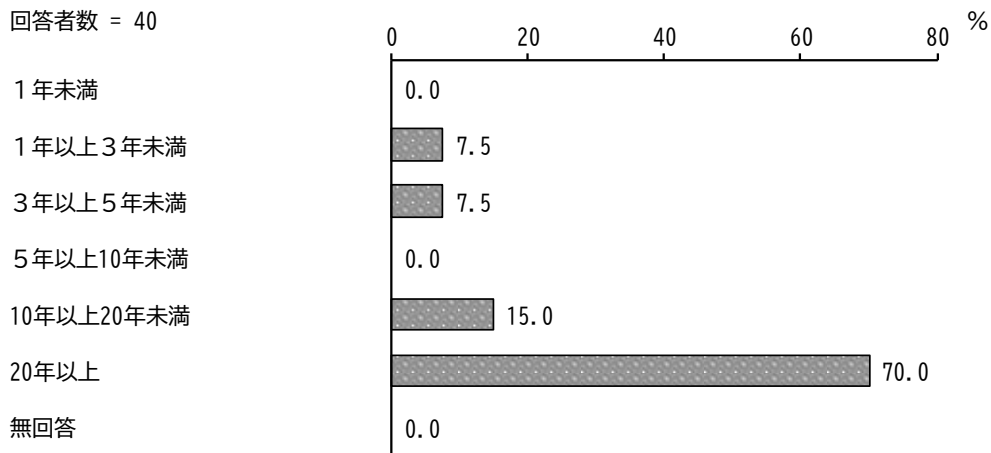
団体種別にみると、他に比べ、任意団体（法人格なし）で「地域の公的施設（公民館や地域の集会所等）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	団体の事務所	地域の公的施設 (公民館や地域の集会所等)	福祉施設や病院等	職員、スタッフの個人宅や勤務先等	その他	無回答
全体	40	7.5	40.0	15.0	10.0	22.5	5.0
NPO 法人	14	14.3	14.3	7.1	7.1	50.0	7.1
任意団体 (法人格なし)	15	—	80.0	—	13.3	—	6.7
その他	11	9.1	18.2	45.5	9.1	18.2	—

F 4 貴団体は、活動をはじめてからどのくらいになりますか。(1つに○)

「20年以上」の割合が70.0%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が15.0%となっています。



【団体種別】

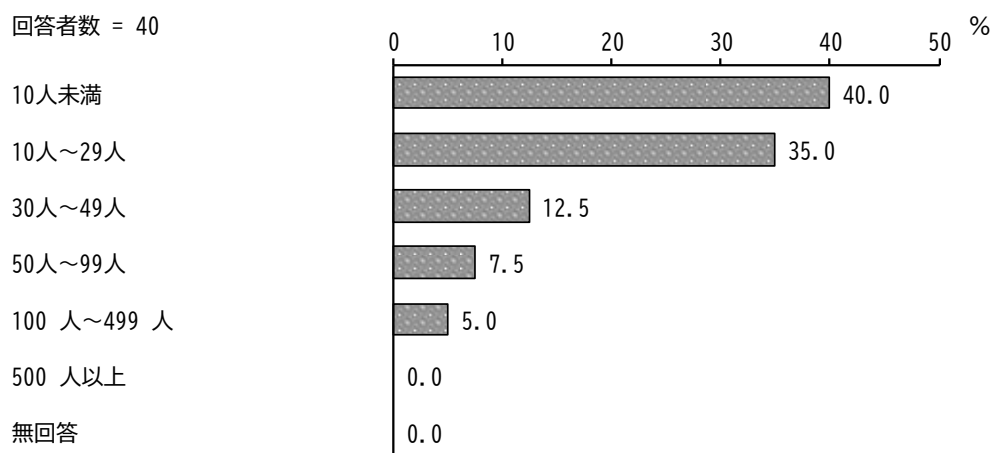
団体種別にみると、他に比べ、NPO法人で「10年以上20年未満」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体	40	—	7.5	7.5	—	15.0	70.0	—
NPO法人	14	—	—	—	—	28.6	71.4	—
任意団体(法人格なし)	15	—	—	13.3	—	13.3	73.3	—
その他	11	—	27.3	9.1	—	—	63.6	—

F 5 活動している職員、スタッフの数は何人ですか。(1つに○)

「10人未満」の割合が40.0%と最も高く、次いで「10人～29人」の割合が35.0%、「30人～49人」の割合が12.5%となっています。



【団体種別】

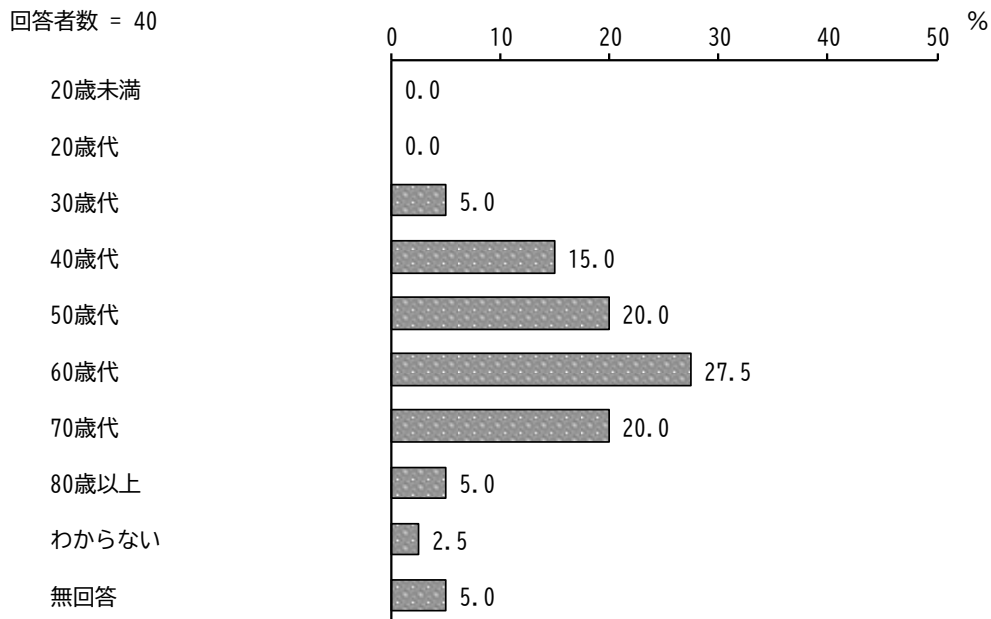
団体種別にみると、他に比べ、任意団体（法人格なし）で「10人未満」の割合が、NPO法人で「30人～49人」「10人～29人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	10人未満	10人～29人	30人～49人	50人～99人	100人～499人	500人以上	無回答
全体	40	40.0	35.0	12.5	7.5	5.0	—	—
NPO法人	14	28.6	42.9	21.4	7.1	—	—	—
任意団体(法人格なし)	15	60.0	26.7	13.3	—	—	—	—
その他	11	27.3	36.4	—	18.2	18.2	—	—

F 6 活動している中心職員、スタッフの年齢層はどれですか。(1つに○)

「60歳代」の割合が27.5%と最も高く、次いで「50歳代」、「70歳代」の割合が20.0%となっています。



【団体種別】

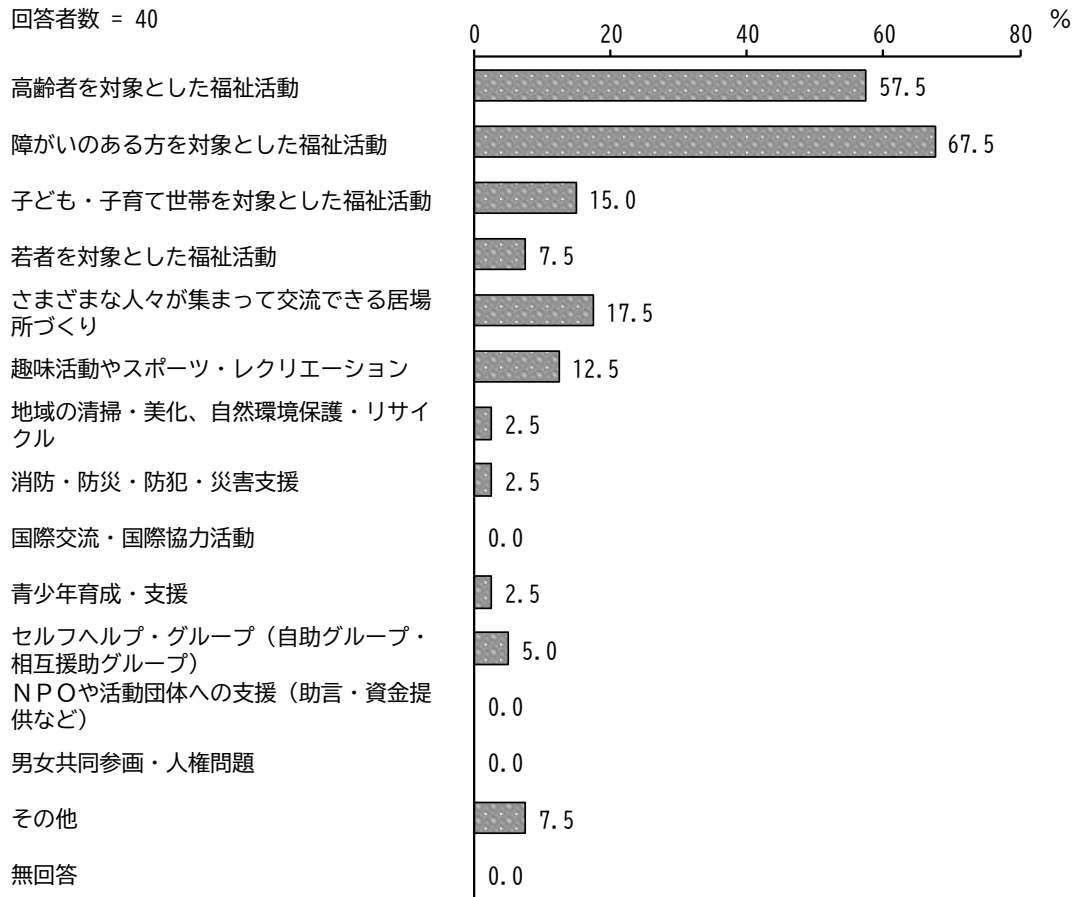
団体種別にみると、他に比べ、任意団体（法人格なし）で「70歳代」の割合が、NPO法人で「50歳代」「60歳代」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	わからない	無回答
全体	40	—	—	5.0	15.0	20.0	27.5	20.0	5.0	2.5	5.0
NPO法人	14	—	—	7.1	14.3	28.6	35.7	7.1	—	7.1	—
任意団体 (法人格なし)	15	—	—	—	—	13.3	33.3	40.0	6.7	—	6.7
その他	11	—	—	9.1	36.4	18.2	9.1	9.1	9.1	—	9.1

F 7 活動している分野は、次のどれにあてはまりますか。(いくつでも○)

「障がいのある方を対象とした福祉活動」の割合が 67.5%と最も高く、次いで「高齢者を対象とした福祉活動」の割合が 57.5%、「さまざまな人々が集まって交流できる居場所づくり」の割合が 17.5%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「障がいのある方を対象とした福祉活動」「子ども・子育て世帯を対象とした福祉活動」の割合が高くなっています。

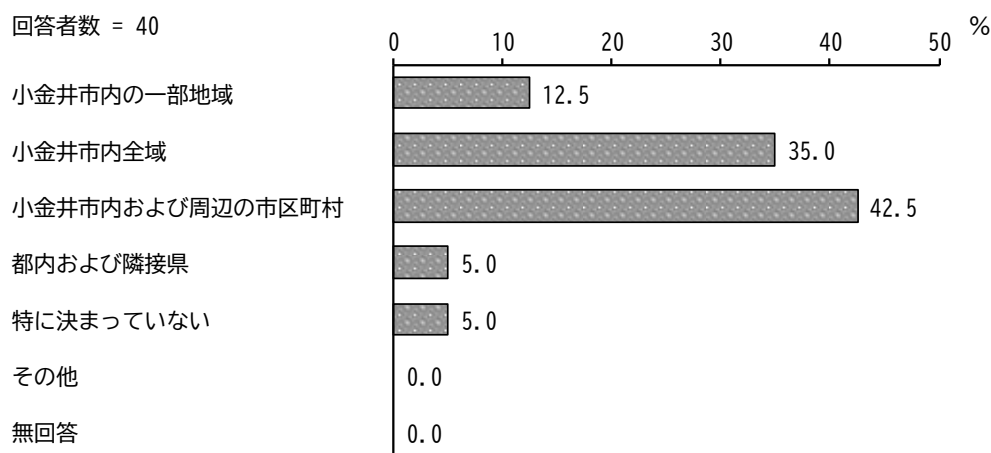
単位：％

区分	回答者数(件)	高齢者を対象とした福祉活動	障がいのある方を対象とした福祉活動	子ども・子育て世帯を対象とした福祉活動	若者を対象とした福祉活動	さまざまな人々が集まって交流できる居場所づくり	趣味活動やスポーツ・レクリエーション	地域の清掃・美化、自然環境保護・リサイクル
全体	40	57.5	67.5	15.0	7.5	17.5	12.5	2.5
NPO 法人	14	57.1	85.7	28.6	7.1	21.4	14.3	7.1
任意団体(法人格なし)	15	53.3	66.7	—	6.7	13.3	13.3	—
その他	11	63.6	45.5	18.2	9.1	18.2	9.1	—

区分	消防・防災・防犯・災害支援	国際交流・国際協力活動	青少年育成・支援	セルフヘルプ・グループ(自助グループ・相互援助グループ)	NPO や活動団体への支援(助言・資金提供など)	男女共同参画・人権問題	その他	無回答
全体	2.5	—	2.5	5.0	—	—	7.5	—
NPO 法人	7.1	—	7.1	—	—	—	7.1	—
任意団体(法人格なし)	—	—	—	6.7	—	—	13.3	—
その他	—	—	—	9.1	—	—	—	—

F 8 活動されているエリアは次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

「小金井市内および周辺の市区町村」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「小金井市内全域」の割合が 35.0%、「小金井市内の一部地域」の割合が 12.5%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「小金井市内および周辺の市区町村」の割合が、任意団体（法人格なし）で「小金井市内全域」の割合が高くなっています。

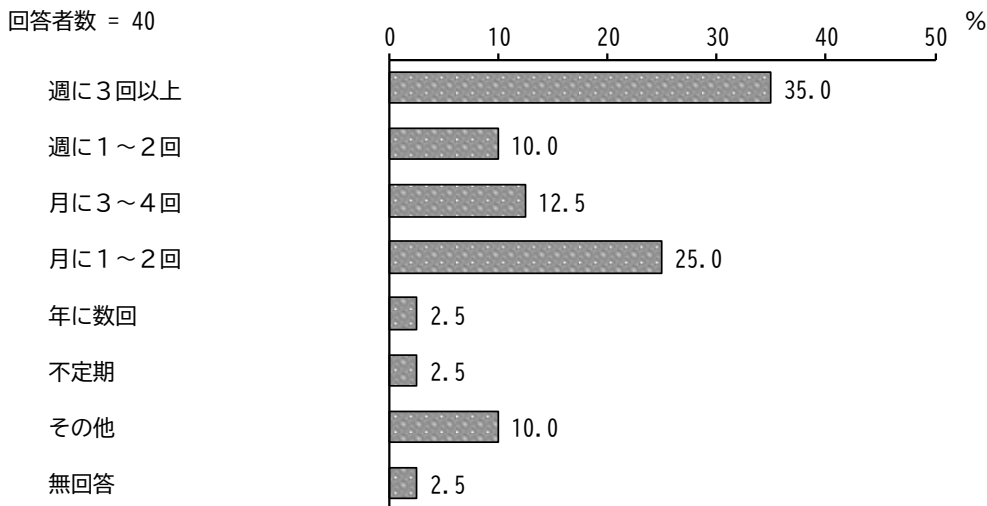
単位：%

区分	回答者数 (件)	小金井市内の一部地域	小金井市内全域	小金井市内および周辺の市区町村	都内および隣接県	特に決まっていない	その他	無回答
全体	40	12.5	35.0	42.5	5.0	5.0	—	—
NPO 法人	14	14.3	14.3	64.3	—	7.1	—	—
任意団体 (法人格なし)	15	6.7	53.3	33.3	6.7	—	—	—
その他	11	18.2	36.4	27.3	9.1	9.1	—	—

B. 団体の活動状況と課題についておたずねします。

問1 貴団体の事業（活動）はどれくらいの頻度で行っていますか。（1つに○）

「週に3回以上」の割合が35.0%と最も高く、次いで「月に1～2回」の割合が25.0%、「月に3～4回」の割合が12.5%となっています。



【団体種別】

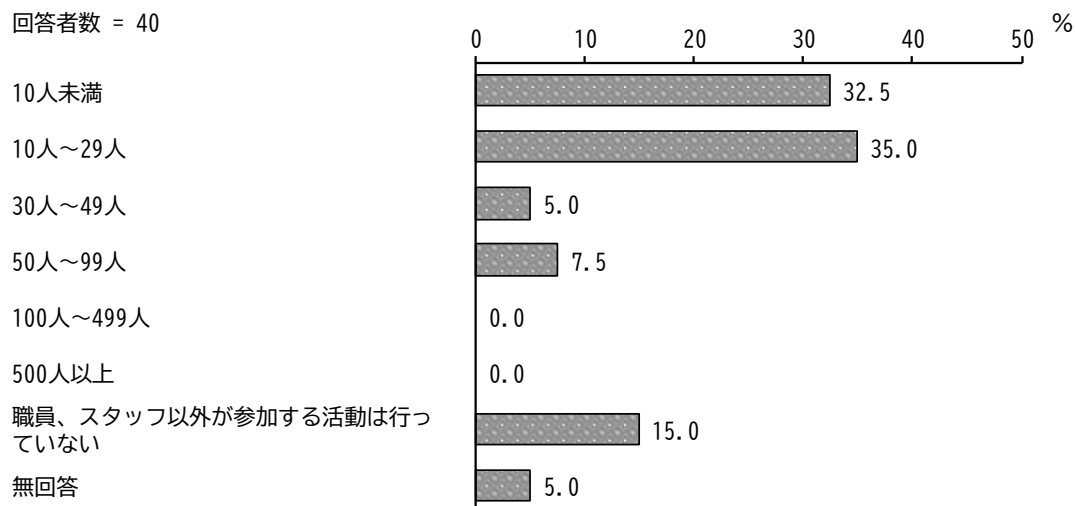
団体種別にみると、他に比べ、NPO法人で「週に3回以上」の割合が、任意団体（法人格なし）で「週に1～2回」「月に3～4回」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	週に3回以上	週に1～2回	月に3～4回	月に1～2回	年に数回	不定期	その他	無回答
全体	40	35.0	10.0	12.5	25.0	2.5	2.5	10.0	2.5
NPO法人	14	64.3	—	—	21.4	—	—	7.1	7.1
任意団体 (法人格なし)	15	—	26.7	26.7	33.3	6.7	—	6.7	—
その他	11	45.5	—	9.1	18.2	—	9.1	18.2	—

問2 貴団体の活動の際、職員、スタッフ以外の人ほどのくらい参加しますか。
(1つに○)

「10人～29人」の割合が35.0%と最も高く、次いで「10人未満」の割合が32.5%、「職員、スタッフ以外が参加する活動は行っていない」の割合が15.0%となっています。



【団体種別】

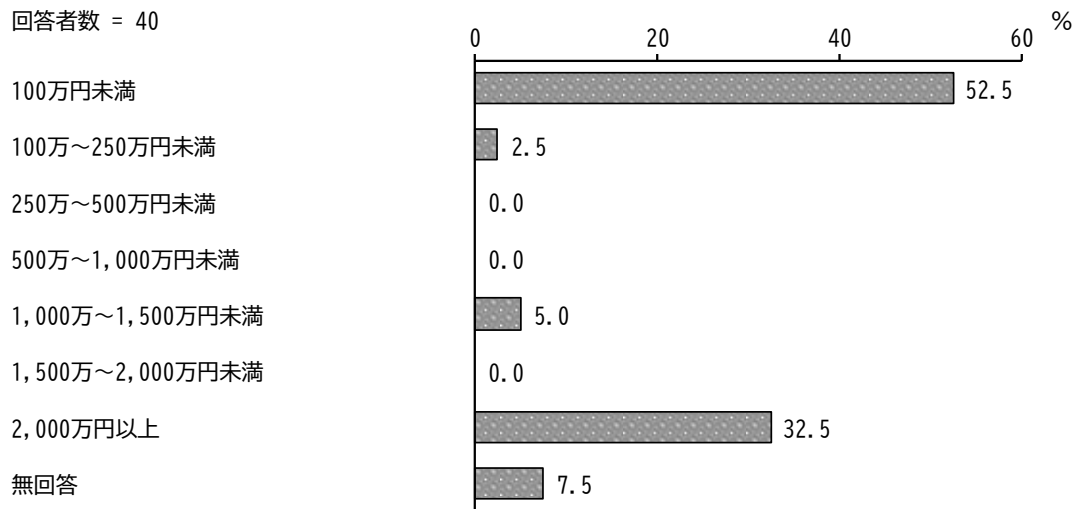
団体種別にみると、他に比べ、NPO法人で「10人未満」「職員、スタッフ以外が参加する活動は行っていない」の割合が、任意団体（法人格なし）で「10人～29人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	10人未満	10人～29人	30人～49人	50人～99人	100人～499人	500人以上	職員、スタッフ以外が参加する活動は行っていない	無回答
全体	40	32.5	35.0	5.0	7.5	—	—	15.0	5.0
NPO法人	14	50.0	21.4	7.1	—	—	—	21.4	—
任意団体(法人格なし)	15	20.0	46.7	6.7	6.7	—	—	13.3	6.7
その他	11	27.3	36.4	—	18.2	—	—	9.1	9.1

問3 貴団体の令和3年度の事業費（活動費）の合計はどのくらいですか。（1つに○）

「100万円未満」の割合が52.5%と最も高く、次いで「2,000万円以上」の割合が32.5%となっています。



【団体種別】

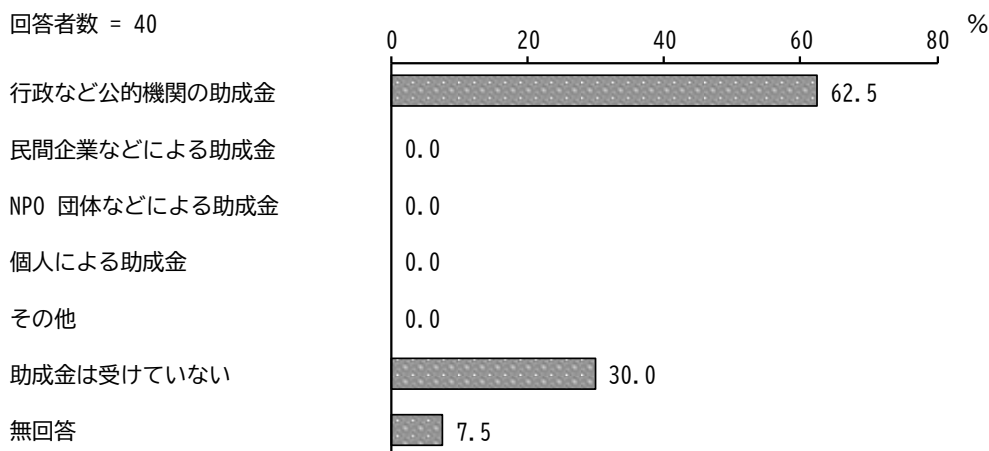
団体種別にみると、他に比べ、任意団体（法人格なし）で「100万円未満」の割合が、NPO法人で「2,000万円以上」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	100万円未満	100万～250万円未満	250万～500万円未満	500万～1,000万円未満	1,000万～1,500万円未満	1,500万～2,000万円未満	2,000万円以上	無回答
全体	40	52.5	2.5	—	—	5.0	—	32.5	7.5
NPO法人	14	21.4	—	—	—	14.3	—	64.3	—
任意団体 (法人格なし)	15	86.7	—	—	—	—	—	—	13.3
その他	11	45.5	9.1	—	—	—	—	36.4	9.1

問4 貴団体は、令和3年度に助成金を受けましたか。(1つに○)

「行政など公的機関の助成金」の割合が62.5%と最も高く、次いで「助成金は受けていない」の割合が30.0%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、大きな差はみられません。

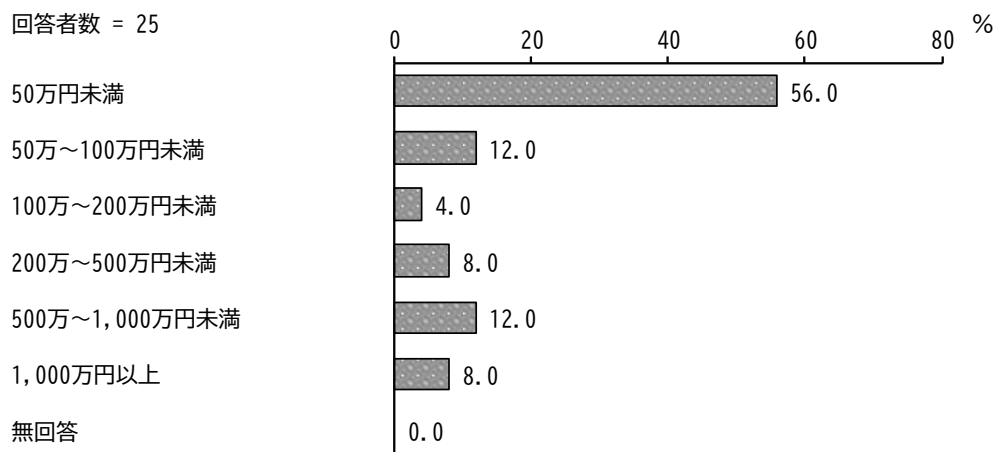
単位：%

区分	回答者数(件)	行政など公的機関の助成金	民間企業などによる助成金	NPO 団体などによる助成金	個人による助成金	その他	助成金は受けていない	無回答
全体	40	62.5	-	-	-	-	30.0	7.5
NPO 法人	14	64.3	-	-	-	-	21.4	14.3
任意団体(法人格なし)	15	66.7	-	-	-	-	33.3	-
その他	11	54.5	-	-	-	-	36.4	9.1

問4で「行政など公的機関の助成金」「民間企業などによる助成金」「NPO 団体などによる助成金」「個人による助成金」「その他」を選んだ方におたずねします。

問4-1 令和3年度に受けた助成金の合計額はいくらでしたか。(1つに○)

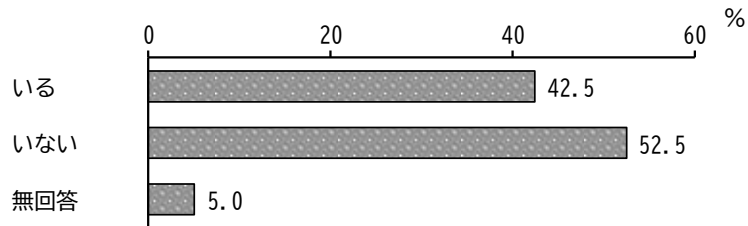
「50万円未満」の割合が56.0%と最も高く、次いで「50万～100万円未満」、「500万～1,000万円未満」の割合が12.0%となっています。



問5 貴団体では、活動や事務作業で報酬を受け取る人がいますか。(1つに○)

「いる」の割合が42.5%、「いない」の割合が52.5%となっています。

回答者数 = 40



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「いる」の割合が、任意団体（法人格なし）で「いない」の割合が高くなっています。

単位：%

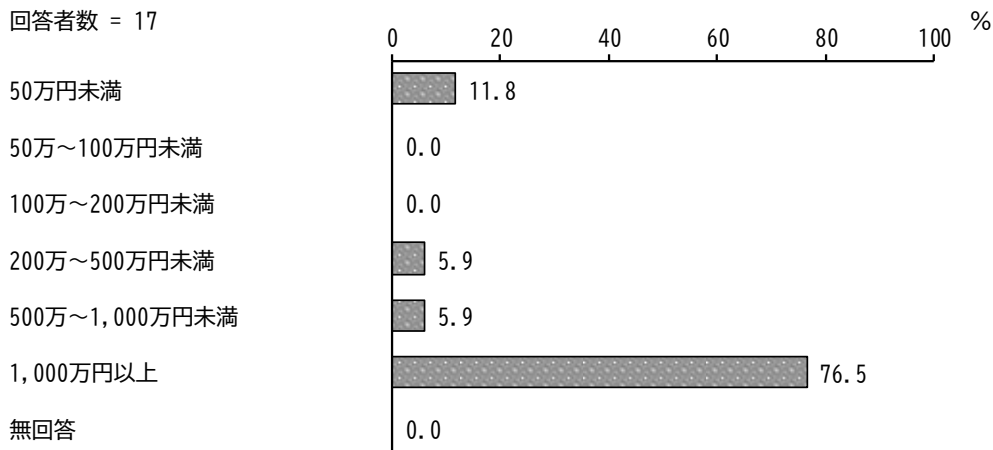
区分	回答者数 (件)	いる	いない	無回答
全体	40	42.5	52.5	5.0
NPO 法人	14	85.7	14.3	—
任意団体 (法人格なし)	15	—	93.3	6.7
その他	11	45.5	45.5	9.1

問5で「いる」を選んだ方におたずねします。

問5-1 令和3年度の人件費総額はいくらでしたか。(1つに○)

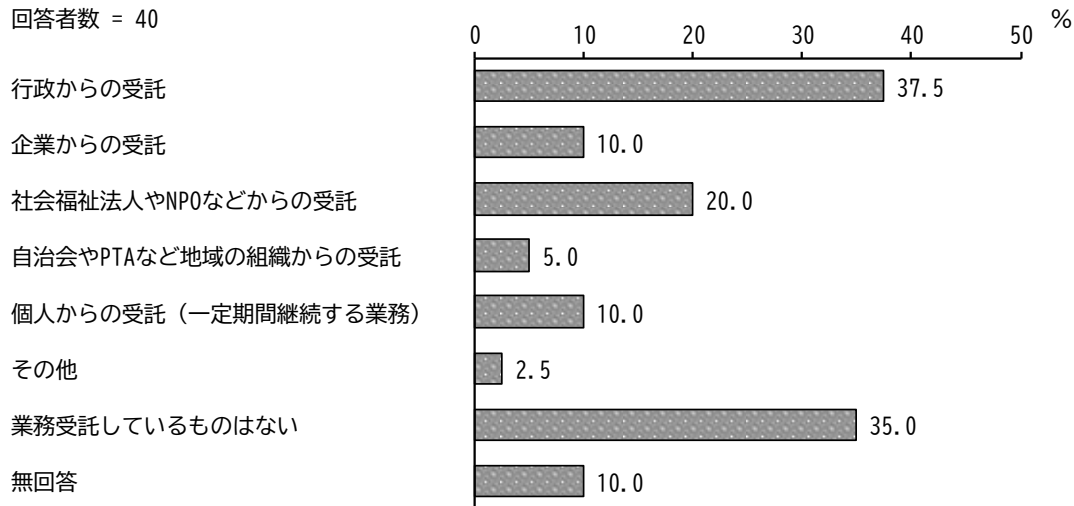
「1,000万円以上」の割合が76.5%と最も高く、次いで「50万円未満」の割合が11.8%となっています。

回答者数 = 17



問6 活動や事業で公的機関や他団体から業務受託しているものはありますか。
(いくつでも○)

「行政からの受託」の割合が37.5%と最も高く、次いで「業務受託しているものはない」の割合が35.0%、「社会福祉法人やNPOなどからの受託」の割合が20.0%となっています。



【団体種別】

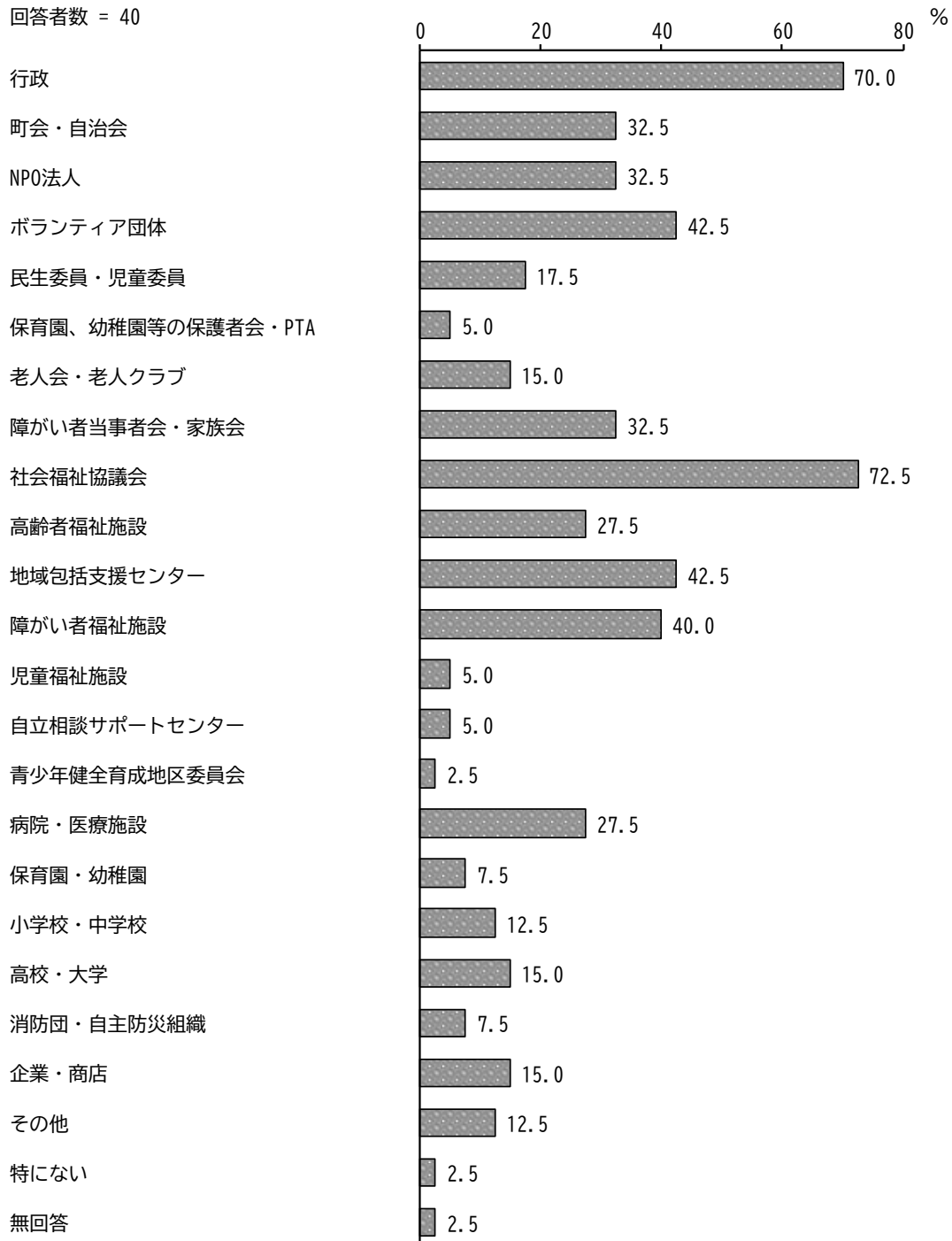
団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「行政からの受託」の割合が、任意団体（法人格なし）で「業務受託しているものはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	行政からの受託	企業からの受託	社会福祉法人やNPOなどからの受託	自治会やPTAなど地域の組織からの受託	個人からの受託(一定期間継続する業務)	その他	業務受託しているものはない	無回答
全体	40	37.5	10.0	20.0	5.0	10.0	2.5	35.0	10.0
NPO 法人	14	64.3	14.3	14.3	—	14.3	—	21.4	7.1
任意団体(法人格なし)	15	20.0	—	20.0	6.7	6.7	6.7	53.3	13.3
その他	11	27.3	18.2	27.3	9.1	9.1	—	27.3	9.1

問7 活動を行う上で、どのような団体、グループと交流や協力関係がありますか。
(いくつでも○)

「社会福祉協議会」の割合が72.5%と最も高く、次いで「行政」の割合が70.0%、「ボランティア団体」、「地域包括支援センター」の割合が42.5%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「NPO 法人」「障がい者福祉施設」「地域包括支援センター」の割合が高くなっています。

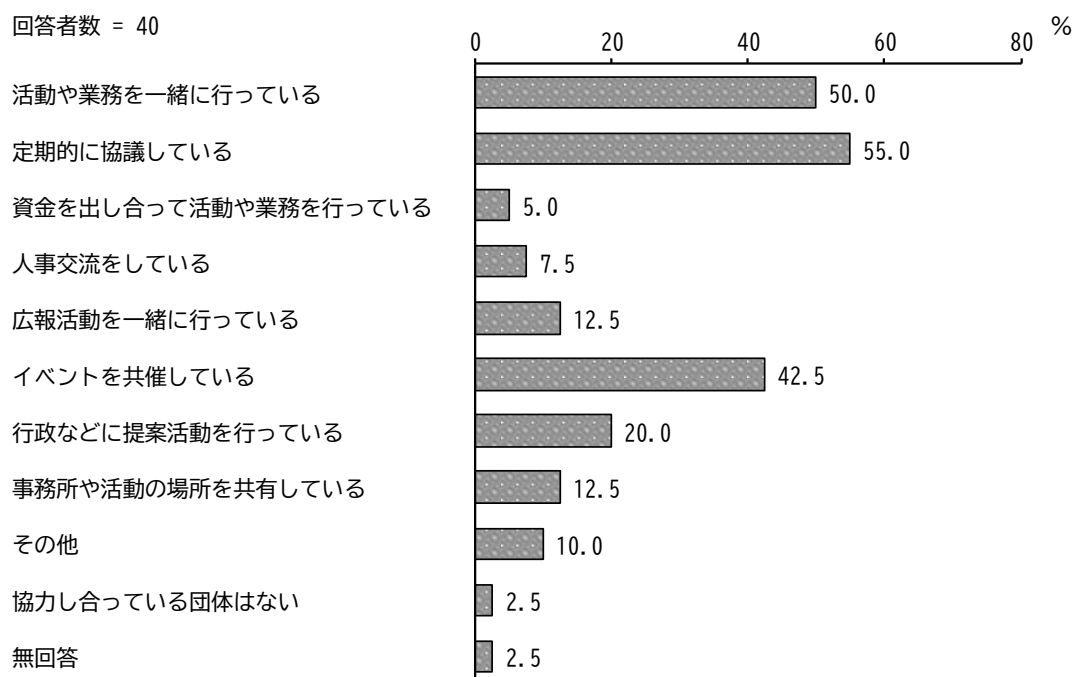
単位：％

区分	回答者数(件)	行政	町会・自治会	NPO法人	ボランティア団体	民生委員・児童委員	保育園、幼稚園等の保護者会・PTA	老人会・老人クラブ	障がい者当事者会・家族会	社会福祉協議会	高齢者福祉施設	地域包括支援センター	障がい者福祉施設
全体	40	70.0	32.5	32.5	42.5	17.5	5.0	15.0	32.5	72.5	27.5	42.5	40.0
NPO法人	14	85.7	42.9	64.3	42.9	28.6	7.1	14.3	21.4	78.6	28.6	64.3	71.4
任意団体(法人格なし)	15	60.0	13.3	6.7	46.7	6.7	6.7	—	53.3	66.7	20.0	20.0	26.7
その他	11	63.6	45.5	27.3	36.4	18.2	—	36.4	18.2	72.7	36.4	45.5	18.2

区分	児童福祉施設	自立相談サポートセンター	区青少年健全育成地区委員会	病院・医療施設	保育園・幼稚園	小学校・中学校	高校・大学	消防団・自主防災組織	企業・商店	その他	特になし	無回答
全体	5.0	5.0	2.5	27.5	7.5	12.5	15.0	7.5	15.0	12.5	2.5	2.5
NPO法人	7.1	7.1	7.1	35.7	7.1	14.3	14.3	7.1	28.6	14.3	7.1	—
任意団体(法人格なし)	6.7	—	—	20.0	—	6.7	20.0	—	—	20.0	—	—
その他	—	9.1	—	27.3	18.2	18.2	9.1	18.2	18.2	—	—	9.1

問8 他団体との交流や協力関係は、どのような状況ですか。(いくつでも○)

「定期的に協議している」の割合が55.0%と最も高く、次いで「活動や業務を一緒に行っている」の割合が50.0%、「イベントを共催している」の割合が42.5%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO法人で「定期的に協議している」「イベントを共催している」の割合が、任意団体（法人格なし）で「活動や業務を一緒に行っている」「広報活動を一緒に行っている」「事務所や活動の場所を共有している」の割合が高くなっています。

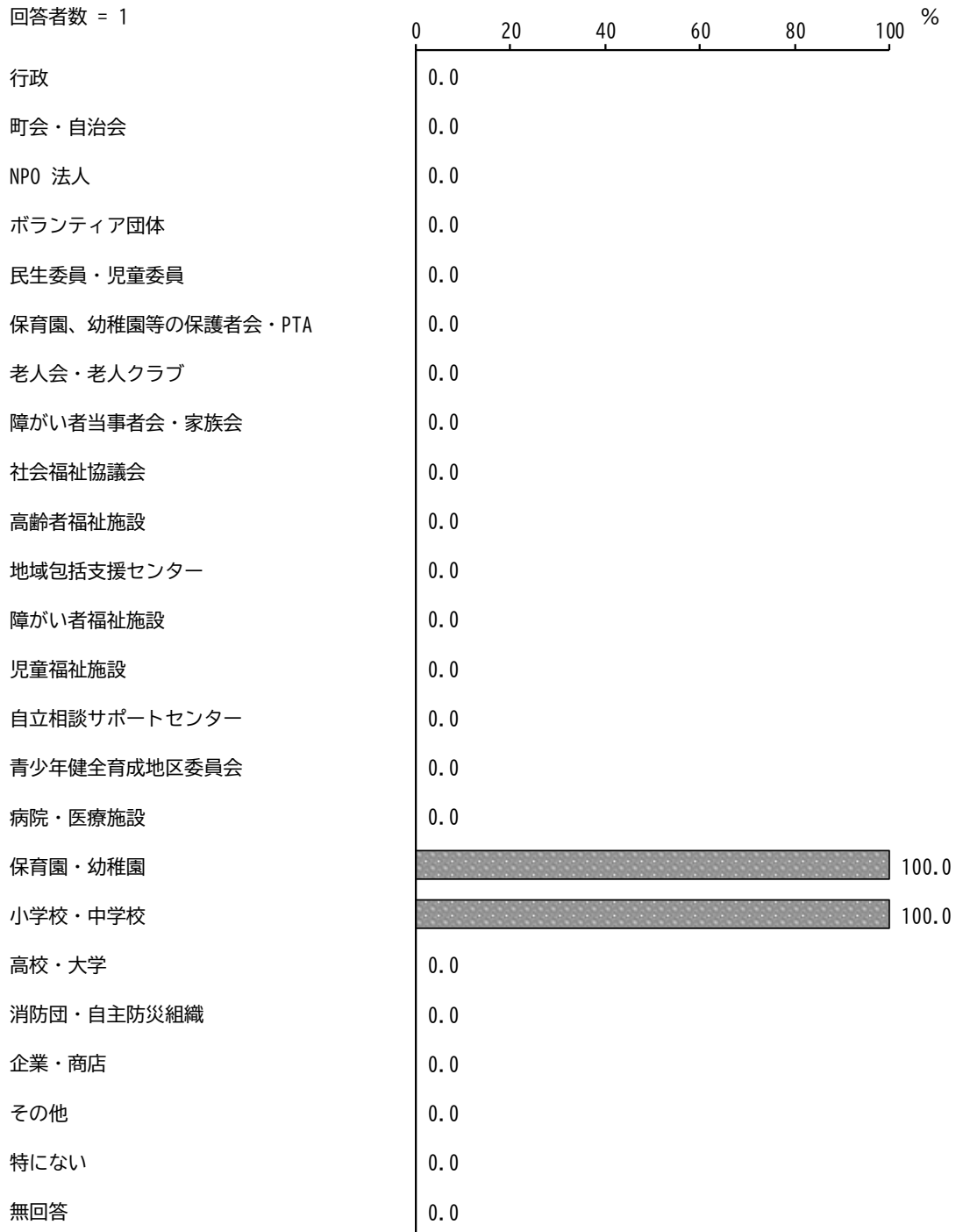
単位：%

区分	回答者数(件)	活動や業務を一緒に行っている	定期的に協議している	資金を出し合って活動や業務を行っている	人事交流をしている	広報活動を一緒に行っている	イベントを共催している	行政などに提案活動を行っている	事務所や活動の場所を共有している	その他	協力し合っている団体はない	無回答
全体	40	50.0	55.0	5.0	7.5	12.5	42.5	20.0	12.5	10.0	2.5	2.5
NPO法人	14	42.9	71.4	7.1	14.3	14.3	50.0	21.4	—	7.1	7.1	—
任意団体(法人格なし)	15	60.0	33.3	6.7	6.7	20.0	46.7	26.7	20.0	13.3	—	—
その他	11	45.5	63.6	—	—	—	27.3	9.1	18.2	9.1	—	9.1

問8で「協力し合っている団体はない」と回答した団体にお聞きします。

問8-1 今後、交流や協力関係を持ちたいグループはありますか。(いくつでも○)

「保育園・幼稚園」、「小学校・中学校」が1件となっています。



問9 貴団体の事業（活動）で、最も力を入れている事業（活動）について、内容をご記入ください。

- ・当事者が自宅復帰した時からどのように生きるか、家族と当事者への相談。医療、就労支援、訓練所への同行支援。当事者主導の交流会開催、介護者の悩み相談（茶話会）開催。会報の発行（ハンドメイド）
- ・介護保険（居宅・訪問）。障害福祉サービス。地域の皆様が安心して安全な生活を過ごして頂けるよう、サポートしています。
- ・聴覚障がい者、手話に対する理解を広げる啓発活動。
- ・目の不自由な方や知的障がいのある方への余暇活動や外出を同行援護や移動支援でお手伝いする活動をしています。
- ・肢体不自由児をもつ親の会「のびよう会」の行事（お花見やクリスマス会等）の支援をしてきましたが、「のびよう会」の高齢化により行事を中止しているため、ぼぼんたも休止中。クリスマスカード（手作り）を届けることは継続しています。
- ・本人達の活動（個別指導、言語指導、動作法訓練など）。家族（親）のため（父母会、見学会、講演会、広報誌作成など）。家族（本人・きょうだい・親）のため（お楽しみ会、旅行、お泊り会、お出かけなど）。
- ・老人ホーム（2件）にて朗読。
- ・高齢者福祉、児童福祉、地域福祉。
- ・運転ボランティアによる移送サービス。
- ・重症化した患者の支援・自身が肝臓病であることに気がついていない市民への啓蒙活動。
- ・情報収集と共有、意見交換。
- ・当事者の皆さんとの余暇活動。春：イチゴがり 夏：海での合宿 秋：ミカン or ブドウ狩り 冬：市民の皆さんへも呼びかけるコンサート・日常的にはジョギング、学習支援、相談活動。
- ・障害福祉サービス。障害者（メインは精神、知的、難病、身体も）に対する就労支援、セルフケアの強化、地域住民との交流の場の創出。
- ・図書点訳、小学校点字体験、個人依頼点訳、自治会だより点訳。
- ・市報、議会だよりの音声版作成。対面朗読、録音図書作成。最新の新聞記事等を編集した声の雑誌の作成など、音訳による情報・文化の提供活動。
- ・高齢者の自立支援、孤立を防ぐ見守り、ともに支えあう気持ち。
- ・定期練習に参加して頂き、メンバーと交流を深めてレギュラーになって頂く。ボッチャの技量（ゲームのルールや審判）を高めて、東京大会や市区町村の大会に参加していただけたら嬉しいです。先ず小金井市の大会へ楽しみながら参加して頂くべく話をしています。コロナでなかなか実現しないのですが、子供達とパラリンピックの正式種目のボッチャを楽しみたい、又、障がいをお持ちの方へのアプローチも心積りをしております。
- ・地域活動支援センター I 型。指定特定相談支援事業（計画相談）。指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）。住宅入居等支援事業。
- ・遺言、死後事務、相続、後見など。高齢者の法的手続の総合的支援。
- ・①清掃やせんたくものたたみなどの周辺サポート②利用者さんと音楽や書道活動のボランティア。
- ・健康維持のための健康講座。
- ・高齢者中心の交流、情報交換

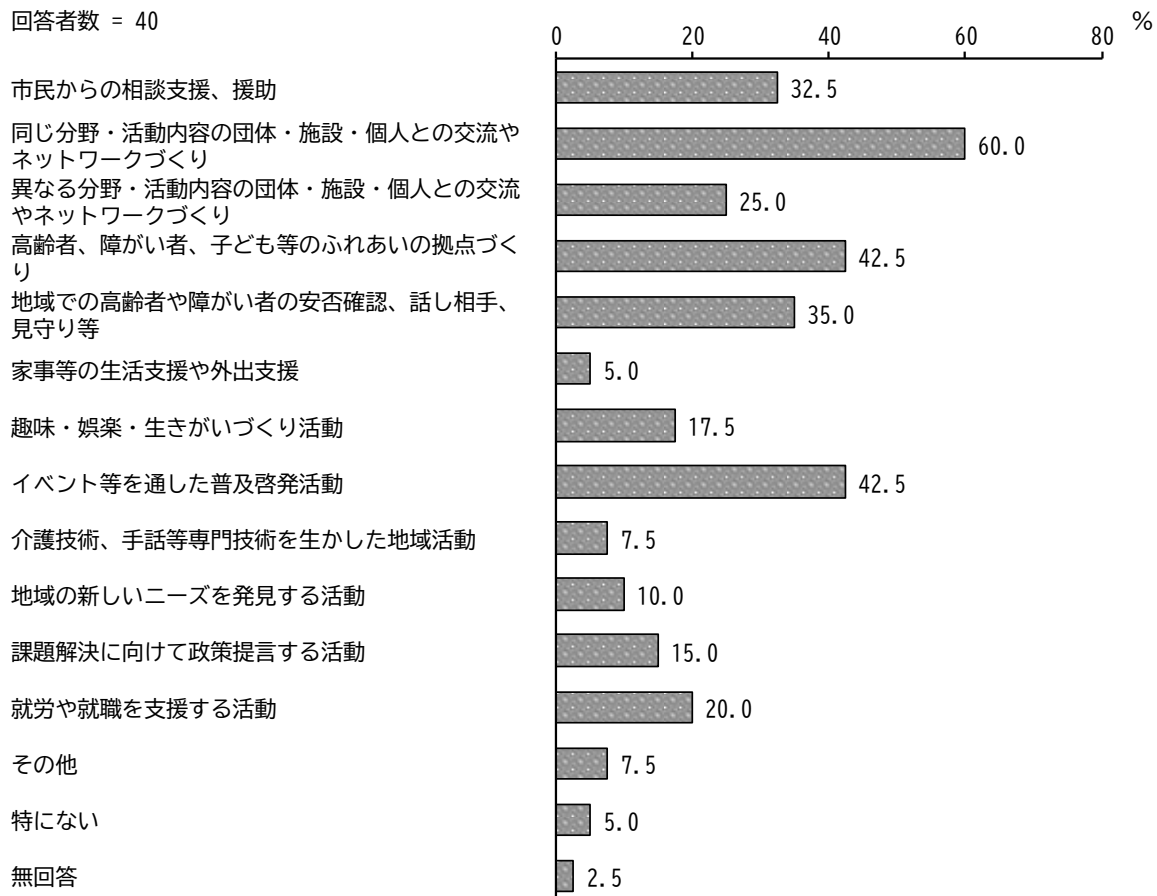
Ⅱ 地域福祉計画策定に関する調査

- ・障害者福祉サービス事業。生活支援事業。就労継続支援B型事業。共同生活援助。相談支援事業。
- ・介護保険サービスを行っている。（施設、在宅サービス）
- ・1. 定例会では同じ悩みを持つ家族同士が気がねなく話すことで、お互いに支え合う場を目指しています。2. 勉強会や懇談会、精神障害者のための施設の見学なども行っています。3. 精神障害者が住みやすい社会の実現に取り組んでいます。
- ・食品製造事業（弁当、パン、菓子）高齢者デイサービス
- ・老健施設での合唱、習字、生花などの支援 独居老人を中心として傾聴 ちょっとした困りごとの支援
- ・精神障害者の生活支援、就労やフリースペース等の日中支援、また一人暮らしを目指す方のステップアップとして利用していただくグループホームの運営。一般相談、特定相談支援事業を通して連携を強めた精神障害者支援
- ・成年後見制度の説明、普及・成年後見（法定、任意）の受任。
- ・ひきこもり支援の最新の知見を学ぶ学習会 家族の居場所づくり 当事者の居場所づくり。
- ・ひとり暮らし高齢者の会食会。
- ・心身の健康維持のためリハビリ事業、リハビリ研修旅行、リハビリ音楽カラオケ、リハビリ吹矢、リハビリおしゃべり会。

問 10 これから力を入れていきたい活動はどのようなことですか。(いくつでも○)

「同じ分野・活動内容の団体・施設・個人との交流やネットワークづくり」の割合が60.0%と最も高く、次いで「高齢者、障がい者、子ども等のふれあいの拠点づくり」、「イベント等を通じた普及啓発活動」の割合が42.5%となっています。

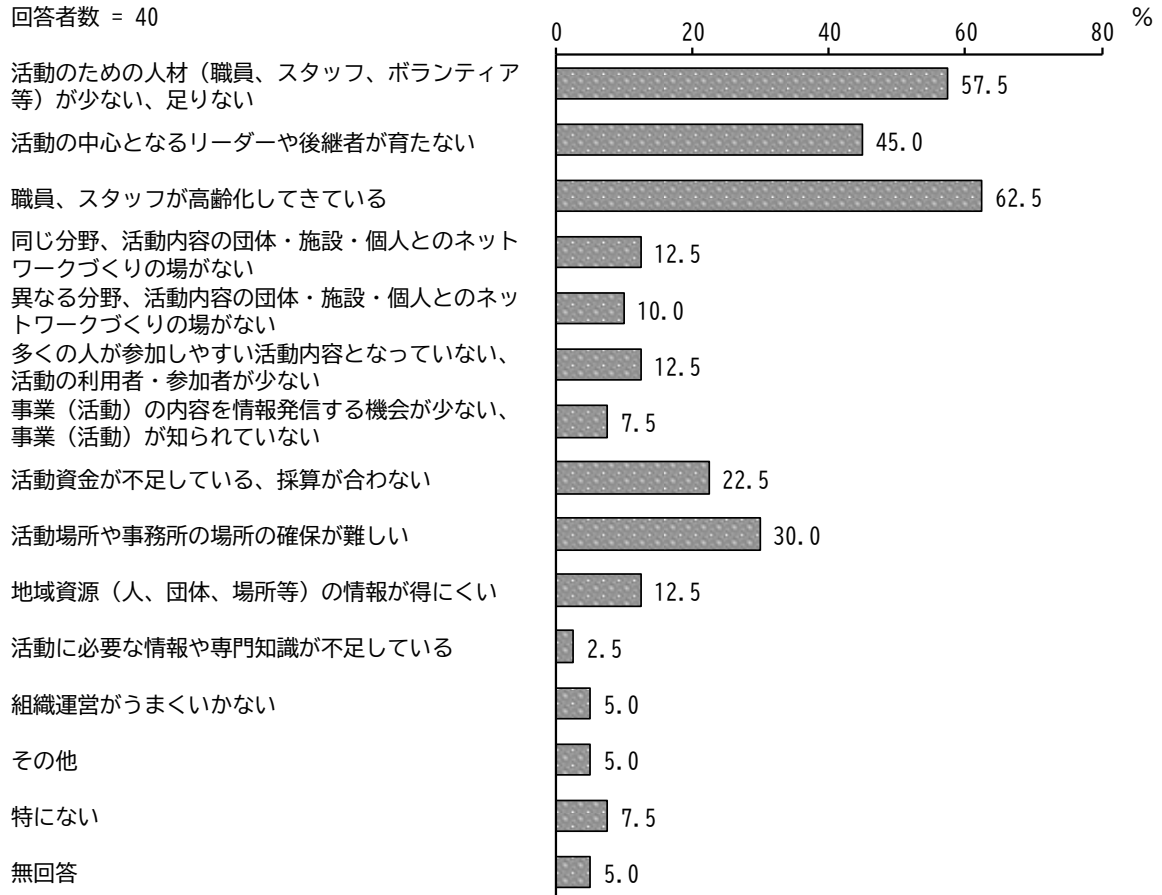
回答者数 = 40



問 11 貴団体が活動する上での課題はどのようなことですか。(いくつでも○)

「職員、スタッフが高齢化してきている」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「活動のための人材（職員、スタッフ、ボランティア等）が少ない、足りない」の割合が 57.5%、「活動の中心となるリーダーや後継者が育たない」の割合が 45.0%となっています。

回答者数 = 40



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、任意団体（法人格なし）で「活動場所や事務所の場所の確保が難しい」「多くの人が参加しやすい活動内容となっていない、活動の利用者・参加者が少ない」の割合が、NPO 法人で「活動のための人材（職員、スタッフ、ボランティア等）が少ない、足りない」の割合が高くなっています。

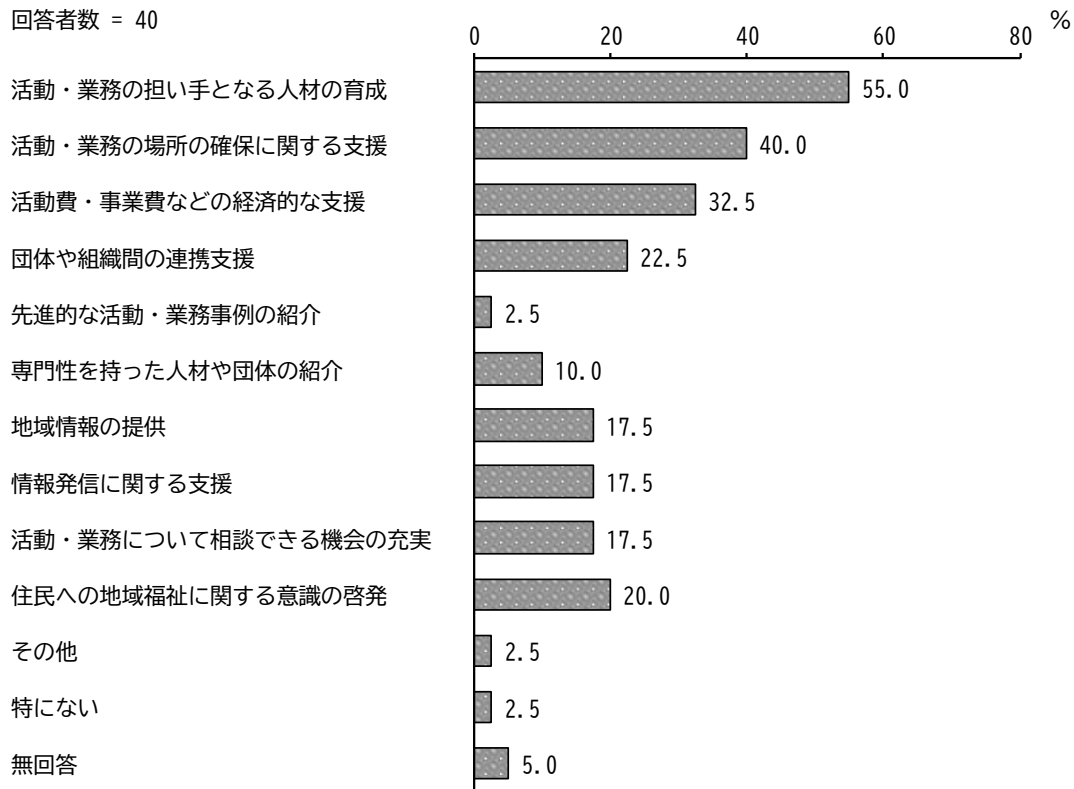
単位：%

区分	回答者数（件）	活動のための人材（職員、スタッフ、ボランティア等）が少ない、足りない	活動の中心となるリーダーや後継者が育たない	職員、スタッフが高齢化している	同じ分野、活動内容の団体・施設・個人とのネットワークづくりの場がない	異なる分野、活動内容の団体・施設・個人とのネットワークづくりの場がない	多くの人が参加しやすい活動内容となっていない、活動の利用者・参加者が少ない	事業（活動）の内容を情報発信する機会が少ない、事業（活動）が知られていない
全体	40	57.5	45.0	62.5	12.5	10.0	12.5	7.5
NPO 法人	14	78.6	50.0	71.4	14.3	—	7.1	14.3
任意団体（法人格なし）	15	40.0	40.0	60.0	6.7	6.7	26.7	6.7
その他	11	54.5	45.5	54.5	18.2	27.3	—	—

区分	活動資金が不足している、採算が合わない	活動場所や事務所の場所の確保が難しい	地域資源（人、団体、場所等）の情報が得にくい	活動に必要な情報や専門知識が不足している	組織運営がうまくいかない	その他	特にない	無回答
全体	22.5	30.0	12.5	2.5	5.0	5.0	7.5	5.0
NPO 法人	21.4	21.4	—	—	7.1	—	7.1	—
任意団体（法人格なし）	13.3	53.3	20.0	6.7	6.7	13.3	13.3	6.7
その他	36.4	9.1	18.2	—	—	—	—	9.1

問 12 貴団体の活動上の課題を解決するためにどのような支援が必要ですか。
(いくつでも○)

「活動・業務の担い手となる人材の育成」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「活動・業務の場所の確保に関する支援」の割合が 40.0%、「活動費・事業費などの経済的な支援」の割合が 32.5%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「活動費・事業費などの経済的な支援」「活動・業務の担い手となる人材の育成」の割合が、任意団体（法人格なし）で「住民への地域福祉に関する意識の啓発」の割合が高くなっています。

単位：%

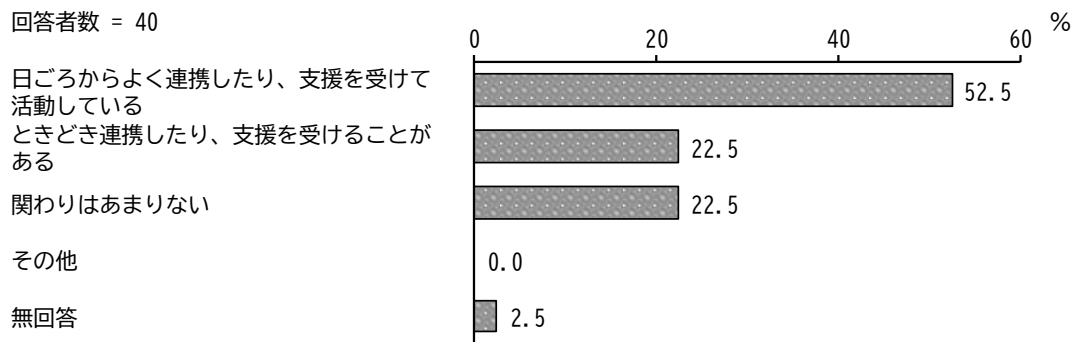
区分	回答者数 (件)	活動・業務の担い手 となる人材の育成	活動・業務の場所の 確保に関する支援	活動費・事業費など の経済的な支援	団体や組織間の連 携支援	先進的な活動・業務 事例の紹介	専門性を持った人 材や団体の紹介
全 体	40	55.0	40.0	32.5	22.5	2.5	10.0
NPO 法人	14	71.4	35.7	57.1	21.4	—	14.3
任意団体（法人格なし）	15	40.0	46.7	13.3	13.3	6.7	6.7
その他	11	54.5	36.4	27.3	36.4	—	9.1

区分	地域情報の提供	情報発信に関する 支援	活動・業務について 相談できる機会の 充実	住民への地域福祉 に関する意識の啓 発	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	17.5	17.5	17.5	20.0	2.5	2.5	5.0
NPO 法人	14.3	14.3	14.3	14.3	—	—	—
任意団体（法人格なし）	13.3	26.7	13.3	33.3	—	6.7	6.7
その他	27.3	9.1	27.3	9.1	9.1	—	9.1

C. 小金井市や小金井市社会福祉協議会との関係についておたずねします。

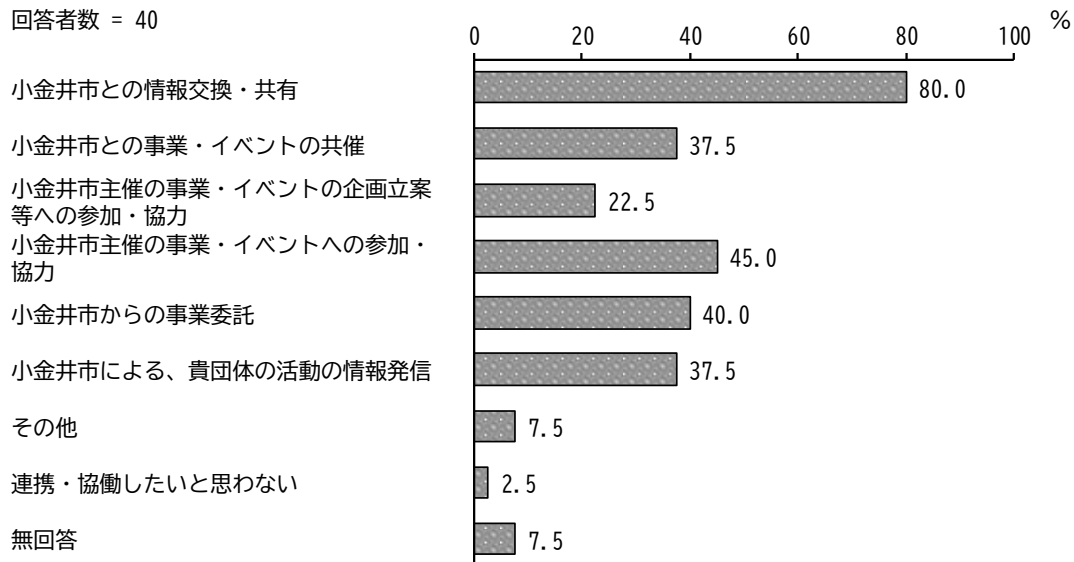
問13 日ごろの活動の中で、小金井市（行政）と関わりを持っていますか。
（1つに○）

「日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動している」の割合が52.5%と最も高く、次いで「ときどき連携したり、支援を受けることがある」、「関わりはあまりない」の割合が22.5%となっています。



問 14 今後、どのように小金井市（行政）と連携・協働していきたいですか。
（いくつでも○）

「小金井市との情報交換・共有」の割合が 80.0%と最も高く、次いで「小金井市主催の事業・イベントへの参加・協力」の割合が 45.0%、「小金井市からの事業委託」の割合が 40.0%となっています。



【小金井市との関わりの程度別】

小金井市との関わりの程度別にみると、他に比べ、日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動しているで「小金井市からの事業委託」「小金井市との情報交換・共有」「小金井市との事業・イベントの共催」の割合が高くなっています。

単位：%

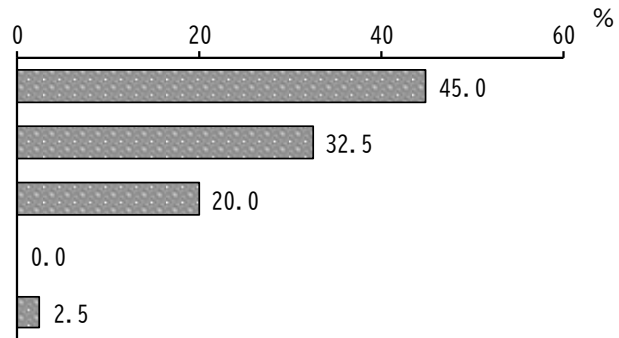
区分	回答者数（件）	小金井市との情報交換・共有	小金井市との事業・イベントの共催	小金井市主催の事業・イベントの企画立案等への参加・協力	小金井市主催の事業・イベントへの参加・協力	小金井市からの事業委託	小金井市による、貴団体の活動の情報発信	その他	連携・協働したいと思わない	無回答
全体	40	80.0	37.5	22.5	45.0	40.0	37.5	7.5	2.5	7.5
日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動している	21	95.2	52.4	23.8	52.4	57.1	47.6	4.8	—	—
ときどき連携したり、支援を受けることがある	9	88.9	44.4	33.3	55.6	44.4	44.4	—	—	—
関わりはあまりない	9	44.4	—	11.1	22.2	—	11.1	22.2	11.1	22.2
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 15 日ごろの活動の中で、小金井市社会福祉協議会と関わりを持っていますか。
(1つに○)

「日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動している」の割合が45.0%と最も高く、次いで「ときどき連携したり、支援を受けることがある」の割合が32.5%、「関わりはあまりない」の割合が20.0%となっています。

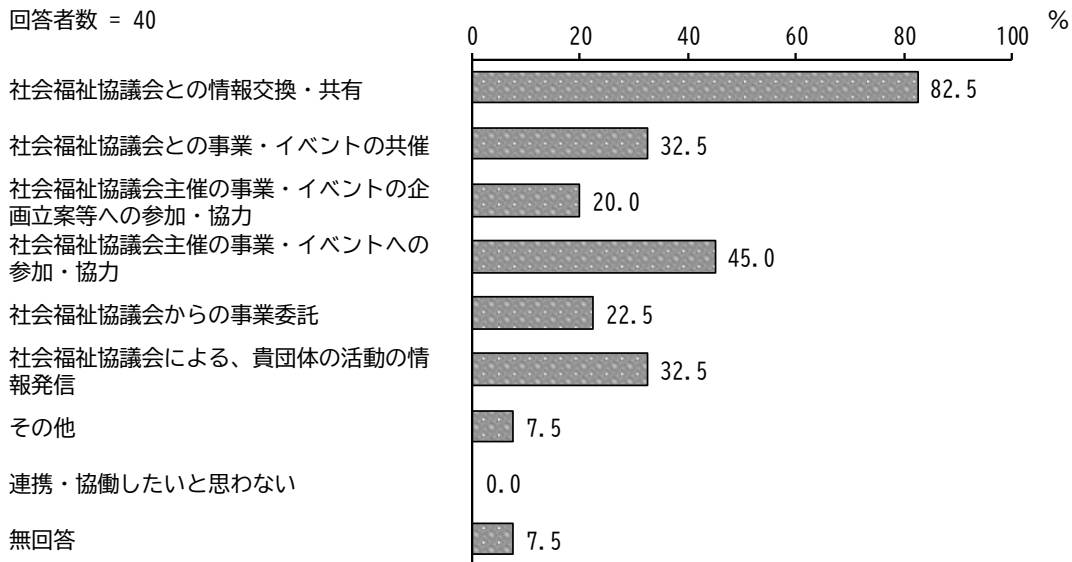
回答者数 = 40

日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動している
 ときどき連携したり、支援を受けることがある
 関わりはあまりない
 その他
 無回答



問 16 今後、どのように小金井市社会福祉協議会と連携・協働していきたいですか。
(いくつでも○)

「社会福祉協議会との情報交換・共有」の割合が 82.5%と最も高く、次いで「社会福祉協議会主催の事業・イベントへの参加・協力」の割合が 45.0%、「社会福祉協議会との事業・イベントの共催」、「社会福祉協議会による、貴団体の活動の情報発信」の割合が 32.5%となっています。



【小金井市社会福祉協議会との関わりの程度別】

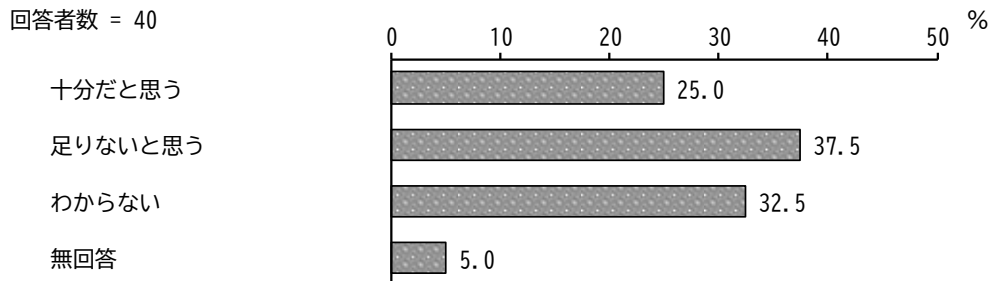
小金井市社会福祉協議会との関わりの程度別にみると、他に比べ、日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動しているで「社会福祉協議会主催の事業・イベントの企画立案等への参加・協力」「社会福祉協議会との情報交換・共有」「社会福祉協議会による、貴団体の活動の情報発信」「社会福祉協議会からの事業委託」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	社会福祉協議会との情報交換・共有	社会福祉協議会との事業・イベントの共催	社会福祉協議会主催の事業・イベントの企画立案等への参加・協力	社会福祉協議会主催の事業・イベントへの参加・協力	社会福祉協議会からの事業委託	社会福祉協議会による、貴団体の活動の情報発信	その他	連携・協働したいと思わない	無回答
全体	40	82.5	32.5	20.0	45.0	22.5	32.5	7.5	—	7.5
日ごろからよく連携したり、支援を受けて活動している	18	100.0	44.4	38.9	61.1	38.9	50.0	5.6	—	—
ときどき連携したり、支援を受けることがある	13	76.9	23.1	7.7	38.5	15.4	15.4	7.7	—	7.7
関わりはあまりない	8	62.5	25.0	—	25.0	—	25.0	12.5	—	12.5
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 17 小金井市では、社会福祉協議会の相談窓口や、地域の民生委員・児童委員、地域包括支援センター等において福祉相談に対応しています。貴団体では、現在の相談支援体制は十分だと思いますか。(○は1つだけ)

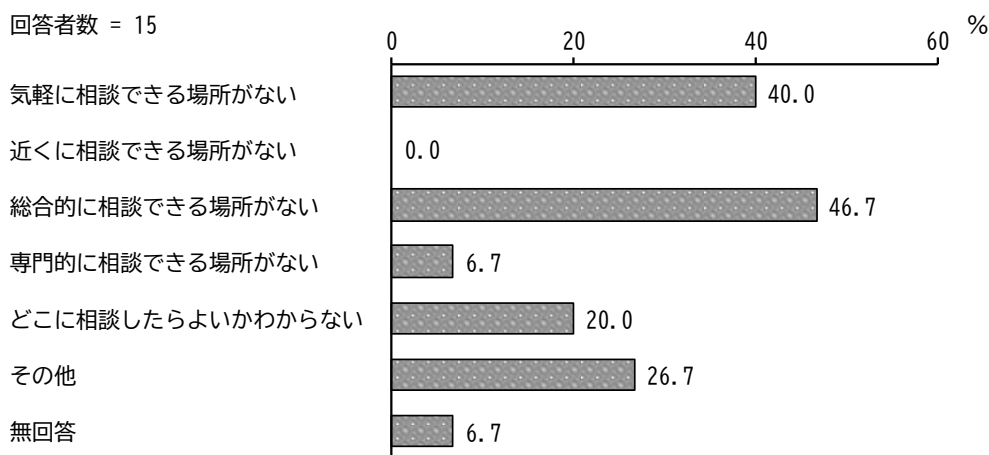
「足りないと思う」の割合が37.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が32.5%、「十分だと思う」の割合が25.0%となっています。



問 17 で「足りないと思う」に○をつけた方にお伺いします。

問 17-1 どのようなことが足りないと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

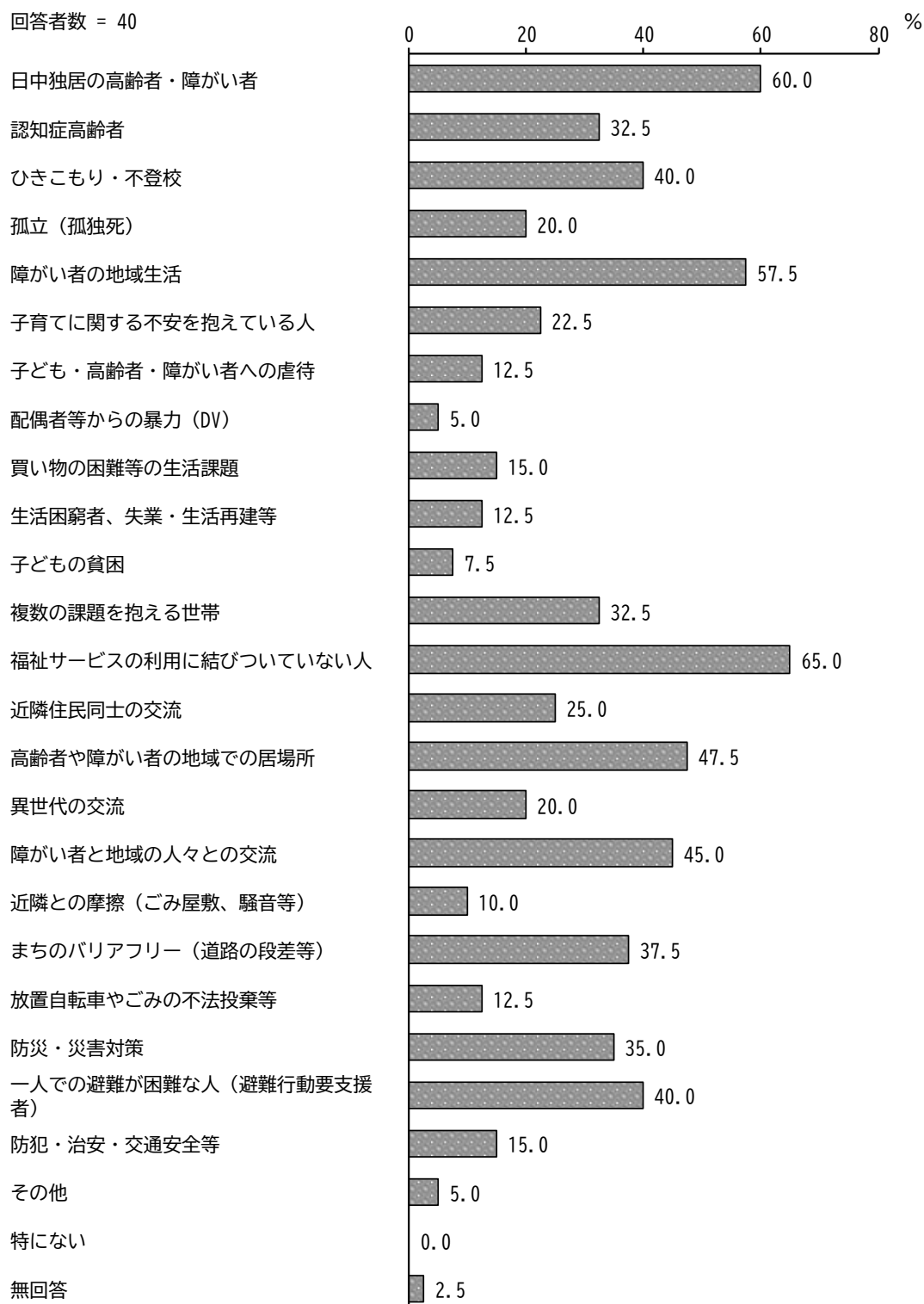
「総合的に相談できる場所がない」の割合が46.7%と最も高く、次いで「気軽に相談できる場所がない」の割合が40.0%、「どこに相談したらよいかわからない」の割合が20.0%となっています。



D. 地域の課題についておたずねします。

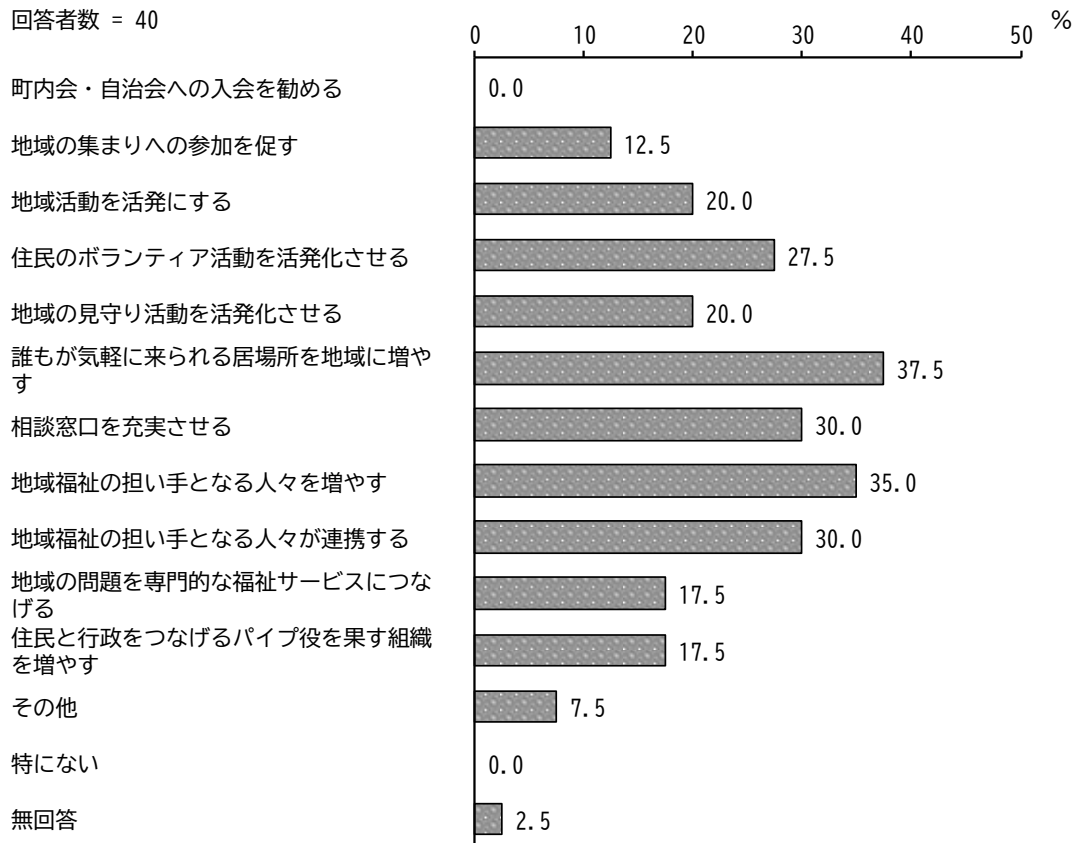
問 18 活動の中で気づく地域の課題はどのようなことですか。(いくつでも○)

「福祉サービスの利用に結びついていない人」の割合が 65.0%と最も高く、次いで「日中独居の高齢者・障がい者」の割合が 60.0%、「障がい者の地域生活」の割合が 57.5%となっています。



問 19 地域の課題を解決するために、どのような方策が必要だと思いますか。
(3つまで○)

「誰もが気軽に来られる居場所を地域に増やす」の割合が37.5%と最も高く、次いで「地域福祉の担い手となる人々を増やす」の割合が35.0%、「相談窓口を充実させる」、「地域福祉の担い手となる人々が連携する」の割合が30.0%となっています。



問 20 地域の課題を解決するために、貴団体ではどのようなことに取り組んでいますか。また、今後どのようなことに取り組んでいきたいですか。ご自由にご記入ください。

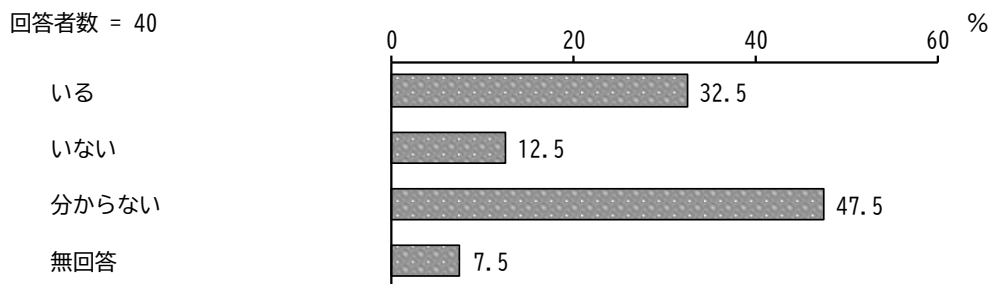
- ・当事者、家族で抱え込まない。お互いに助け合う。当事者同士のピアカウンセリング（交流会、カフェ、茶話会など）で楽しみながらおしゃべりする。
- ・地域包括支援センター又は居宅（ケアマネジャー）より、介護保険の依頼があり、障がい福祉については、市役所、社会福祉法人などから依頼されている。この利用者からアンケートを取った結果、「人と話がしたい」「集まって楽しいことをしたい」など多くあり、出来ることなら実現に向けていきたいと思っている。しかし、人と場所の確保が厳しい。
- ・今後も地域の中で障がいがあってもその人らしく興味のある事、好きな場所へ出かけ、楽しい余暇が過せるよう取り組んでいきたいと思います。
- ・常に施設に立ち寄れるよう、どの世代に対しても開放している。
- ・肝臓病は本人が気がつかないうちに悪化する怖い病気なので、あらゆる方法で市民に告知していきたい。

- ・ 自立支援協議会、地域福祉推進委員会での意見発表、要望活動。はば広い世代と懇談したり事業所と懇談し、地域内の困り希望を聞きとっている。コロナのために休止していた活動を再会し、人との交流をふやしたいです。
- ・ 障害のある人々が安心して生活できる地域づくりをすることが、誰もが暮らしやすい地域になること。地域の笑顔を増やしたい。
- ・ 現在は障害福祉サービスに特化しているが、利用者の高齢化により地域包括と連携が必要になったり、地域内での雇用を生み出すために、企業との情報交換を積極的に進めていきたい。
- ・ 住民と行政をつなげるパイプ役の組織が必要だと思う。
- ・ 隔年で「小金井市視力障がい者の会」との交流会を開催し、福祉サービス利用者からの声を直接聞く機会としている。その中で、当事者が気づき感じている課題等を受けとめている。
- ・ おしゃべりを通して、困り事を言いあえる関係、地域の情報交換。
- ・ コロナのため、集まってゲームをすることに慎重です。これからの状況をよくみて、多くの世代の方々へ、又、障がいをお持ちの方々へポッチャへの参加を呼びかけていきたいと思います。
- ・ 新福祉会館の建設計画が白紙となり、市内で活動している団体が困っている。当法人としては、重層的体制整備支援事業において、国は地域活動支援センター事業に対して地域づくりに向けた支援を求めている。その為、精神障害者に関係する4団体に対して、来年4月にはコミュニティハウスの開設をして、会議、研修等で活用してもらえるような施設を市内で提供予定である。
- ・ 当法人が提供するサービスに対し、ニーズのある高齢者は多数いると思うので、情報が届くよう広報していく。
- ・ 各種連絡協議会への参加。大学との連携。
- ・ 高齢化が進む中、少しでも健康寿命を長く保っていける人を増やし、又、その活動ができる人を増やしていきたいと思っています。又、これからの社会を担う子供を育てるお母さんの健康維持を目指したい。
- ・ この3年、拠点を閉めてしまい、活動を縮小しているが、コロナの感染症がもっと治まってくれば、それ以前のように常設とまでいなくても、週何回か開けると良い。楽しい外出先の確保、必要な情報の交換、リユース品の入手などは、高齢者の健康で安全な生活に必要なと思う。
- ・ 自治会をはじめとした地域の方との情報交換。居場所の提供（コロナにより現在休止中）。関係機関との定期的な協議。法人ができる範囲での協力を行っていきたいと考えています。
- ・ あじさい会独自の活動の他に、市内の精神障害関連 NPO 法人の役員として、また、市地域自立支援協議会、市障害福祉センターの委員として、会員を派遣しています。精神障害者（含、発達障害、ひきこもり）が住みやすい社会の実現のため、行政と社会福祉法人、NPO 法人等と連携を強めていきたいと思っています。
- ・ 傾聴を中心として孤独老人の支援をしていきたい。
- ・ 赤字運営となる相談支援事業だが、小金井地域には必要と考え運営している。サービスにつながっていない方が自立生活支援課で相談後サービスや専門家の継続的な支援につながっていくよう支援をすすめている。また、現在受けている委託事業において居場所づくりについてニーズを検討している。
- ・ 他団体と連携を図り、見守りが必要な方に寄り添える活動を考えている。制度の硬直化を廃止、柔軟に対応できるようにしている。

- ・ひきこもり、未治療の精神障害の方が、治療を受けながら家から外に出て日中活動に参加し、地域での自立が可能になる様な支援に取り組んでおります。場合により、一般就労も可能となります。以上の活動を継続しつつ、その上で生活する上での生活能力の向上への支援も必要と考えております。

問 21 支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスの利用に結びついていない人が、貴団体が活動している地域にいますか。(1つに○)

「分からない」の割合が47.5%と最も高く、次いで「いる」の割合が32.5%、「いない」の割合が12.5%となっています。



問 21 で「1. いる」を選んだ方におたずねします。

問 21-1 福祉サービスの利用に結びついていない人は、どのような人ですか。また、どのようなことでお困りですか。具体的にご記入ください。

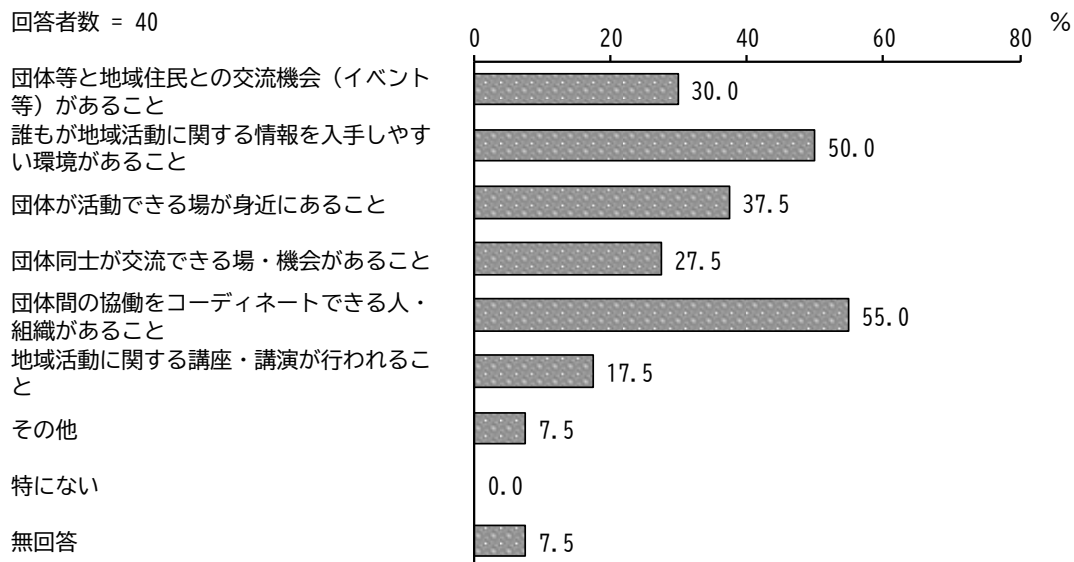
- ・潜在的な、又は軽度の高次脳機能障害は多いと推測します。医療機関での正しい診断を受けられず（医師さえも高次脳障害を理解していない、診断書を書けない事もあり労災認定を受けられなかった。二次障害へ移動、犯罪へ巻き込まれるなども）、就労の機会損失者も多いです。高次脳機能障害者への介護は家族が担っている。家族への支援が大切。
- ・子どものひきこもり。
- ・成人のひきこもりの方、外の人たちはほぼ気づいていない様子。ご家族はひきこもりの解決のために、何か着手したり、相談している様子はない。現在元気なご両親がご病気になったり、お亡くなりになった時、ひきこもりのご本人がどのような行動をするようになるのか、近所なので心配です。
- ・精神症状によって、周辺住民と度々トラブルになっている方のご相談を不動産業者から受けることがある。道端で「見張られているので助けてください」と声をかけられ、兄へ電話をかけてほしいと TEL するも、精神疾患を理由に縁を切っていると聞かされるなど（名刺、施設パンフレットはお渡ししていたため後日本人から礼状あり）
- ・視覚障がい者の中に、若年層や当事者会に属さない人で、当会の音訳サービスを知らず、利用に結びついていない人がいる。
- ・自宅にひきこもってしまい、福祉サービスの支援に対して拒否的であり、また親の高齢化が進む中で、必要な支援が行き届かない方々は一定数存在すると考える。

- ・自ら相談に来れない人、来ようとしていない人。
- ・独居状態にあり、認知症が軽度でも始まっていて、生活がスムーズに運ばなくなっているが、問題があることも、どういうサービスが利用できるかも把握できていない。(包括や病院など行きやすい所への相談、受診を勧めるが、なかなかつながらない)
- ・触法障害者。地域に受け入れが可能な社会資源がないこと。
- ・当方への電話相談で分かるのですが、適切な相談先が分からないため医療機関や福祉サービスに結びつかない精神疾患(含、発達障害、ひきこもり)の方がおられます。また、精神疾患の知識がない方も、医療機関や福祉サービスに結びつきにくいと思います。
- ・ひきこもっているが福祉サービスの利用を拒否している人 医療に結び付けず隠している人。
- ・高齢のご家族と同居されている精神障害の方 ご本人はご家族の支援(衣食住)があり、お困りではなさそうで、ご家族さまが親亡き後を大変心配され、お困りの事例有。

E. 今後の小金井市の地域福祉についておたずねします。

問 22 今後、小金井市民の地域活動が活性化するには、何が必要であると思いますか。
(3つまで○)

「団体間の協働をコーディネートできる人・組織があること」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「誰もが地域活動に関する情報を入手しやすい環境があること」の割合が 50.0%、「団体が活動できる場が身近にあること」の割合が 37.5%となっています。



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「団体間の協働をコーディネートできる人・組織があること」「団体同士が交流できる場・機会があること」の割合が、任意団体（法人格なし）で「団体等と地域住民との交流機会（イベント等）があること」の割合が高くなっています。

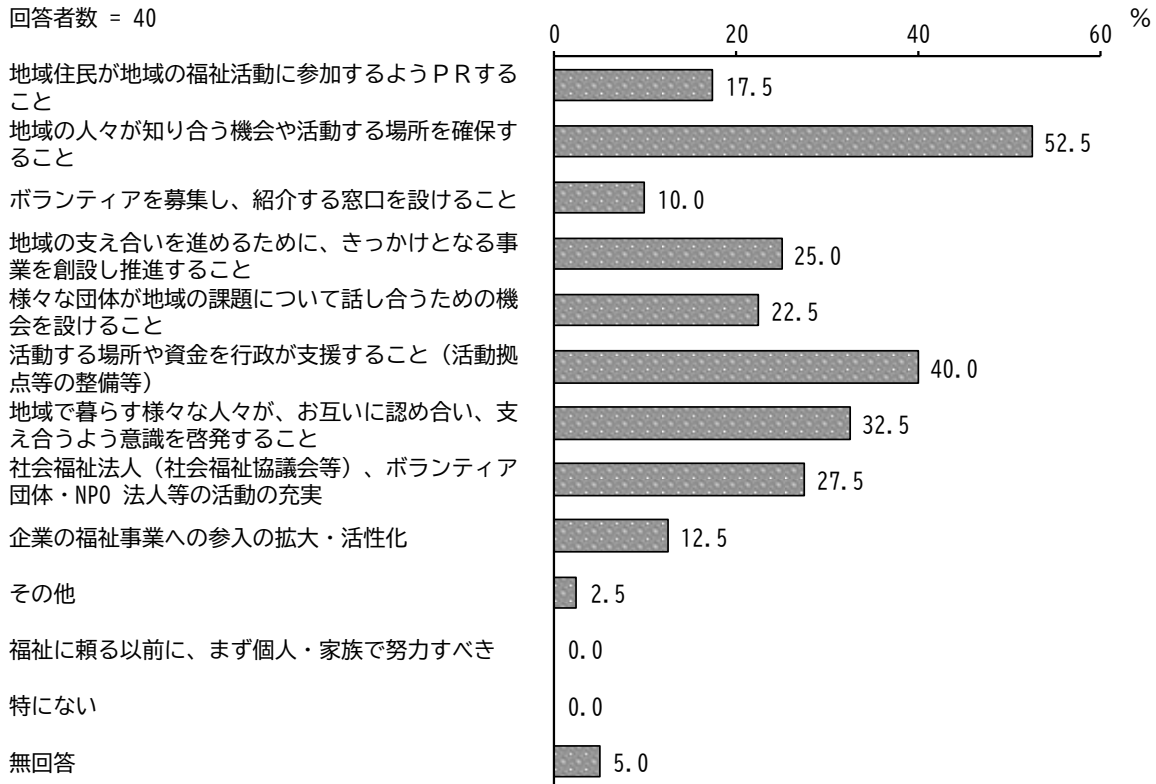
単位：%

区分	回答者数（件）	団体等と地域住民との交流機会（イベント等）があること	誰もが地域活動に関する情報を入手しやすい環境があること	団体が活動できる場が身近にあること	団体同士が交流できる場・機会があること	団体間の協働をコーディネートできる人・組織があること	地域活動に関する講座・講演が行われること	その他	特にない	無回答
全 体	40	30.0	50.0	37.5	27.5	55.0	17.5	7.5	—	7.5
NPO 法人	14	21.4	50.0	35.7	42.9	78.6	—	7.1	—	14.3
任意団体（法人格なし）	15	46.7	40.0	46.7	26.7	20.0	26.7	6.7	—	6.7
その他	11	18.2	63.6	27.3	9.1	72.7	27.3	9.1	—	—

問 23 地域の支え合いの仕組みづくりで、貴団体が特に必要であると思うことは何ですか。（3つまで○）

「地域の人々が知り合う機会や活動する場所を確保すること」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「活動する場所や資金を行政が支援すること（活動拠点等の整備等）」の割合が 40.0%、「地域で暮らす様々な人々が、お互いに認め合い、支え合うよう意識を啓発すること」の割合が 32.5%となっています。

回答者数 = 40



【団体種別】

団体種別にみると、他に比べ、NPO 法人で「地域の人々が知り合う機会や活動する場所を確保すること」の割合が、任意団体（法人格なし）で「様々な団体が地域の課題について話し合うための機会を設けること」「企業の福祉事業への参入の拡大・活性化」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	地域住民が地域の福祉活動に参加するようPRすること	地域の人々が知り合う機会や活動する場所を確保すること	ボランティアを募集し、紹介する窓口を設けること	地域の支え合いを進めるために、きっかけとなる事業を創設し推進すること	様々な団体が地域の課題について話し合うための機会を設けること	活動する場所や資金を行政が支援すること（活動拠点等の整備等）
全 体	40	17.5	52.5	10.0	25.0	22.5	40.0
NPO 法人	14	14.3	64.3	14.3	21.4	14.3	42.9
任意団体（法人格なし）	15	13.3	46.7	—	20.0	33.3	46.7
その他	11	27.3	45.5	18.2	36.4	18.2	27.3

区分	地域で暮らす様々な人々が、お互いに認め合い、支え合うよう意識を啓発すること	社会福祉法人（社会福祉協議会等）、ボランティア団体・NPO法人等の活動の充実	企業の福祉事業への参入の拡大・活性化	その他	福祉に頼る以前に、まず個人・家族で努力すべき	特になし	無回答
全 体	32.5	27.5	12.5	2.5	—	—	5.0
NPO 法人	21.4	14.3	14.3	—	—	—	14.3
任意団体（法人格なし）	26.7	33.3	20.0	—	—	—	—
その他	54.5	36.4	—	9.1	—	—	—

問 24 みんなで助け合い・支え合える地域をつくるために、貴団体ができることや、地域や行政と協働で取り組むべきことなど、何かご意見などがあれば教えてください。

- ・市内には毛細血管のような小さなボランティア活動している人がいます。自宅を開放、一人で長期に活動している団体が多いです。地域福祉ファシリテーター養成講座に参加して知りました。地元に基づいている社会資源を、一代で消滅させないで行政と協働して継承させて欲しい。かくれた行政支援者です。
- ・地域福祉を推進する為のコーディネーターと組織をまず確保、市役所より発進していただきたい。介護保険、障がいの仕事の合間に活動の参加をしていきたい。
- ・障がいがあっても、人として大切にされ、その人らしい暮らしを実現する為にできるだけきめ細かく対応していきたいと思っています。
- ・障害をもつ方やその保護者もかつては地域で手をつなぎ、会を作って情報交換しよりよい施策などを求めて活動してきました。今、障害のある子をもったとしても身近な経験者に相談することより、ネットで検索して問題を解決できるので、地域での会に参加・所属しません。私たちのサークルは地域で手をつないでをかがけて活動してきましたが、今年度をもって終了しようと考えています。
- ・まずは、社協職員、行政職員の協働への理解、必要性、問題意識を高める。
- ・人手不足、資金不足が活動の足かせになってしまうので、人が資金を呼びこむ方策を考えられたらよいと思う
- ・相談事業所や相談員というとハードルを高く感じます。ハードルを下げたグチ聞き役をできたらいいと思っています。
- ・障害者のための「ふれあいコンサート」。障害者にもコンサートに出かけてほしいです。企画、演奏者の手配ができるので実現したいと思っています。
- ・誰もが、気軽に声をかけ合える地域をつくること。個々人が尊重される地域になること。明るい社会づくりを目指したい。
- ・まずは、地域課題や地域資源を学ぶことから始め、少しずつ精神疾患や各種障害についての知識を広められるよう、専門家を招いた講習会や住民と交流を深められるイベントを開催していきたい。
- ・私達が今できることを精一杯やるのみです。
- ・当会のボランティア活動は、会設立以来 45 年を経て定着し、活動の担い手であるボランティア会員も途切れることなく入会し、音訳機能の向上・継承に努めている。市、図書館、社協との連携により、市の福祉サービスの一翼を担うという自負を持って会員一同活動に取り組んでいる。今後もこの協働関係を一層充実させたい。
- ・知りあいになった人と人との思いやりを大切にする。
- ・パラリンピックの正式種目のボッチャは障がいを持っている人はもちろん、成人・子どもそして高齢者のフレイル予防にもなる楽しくルールが易しいスポーツです。多世代の交流が盛んになるよう PR をしていきます。小学校から大学生まで体験をして欲しい。地域交流、多世代交流を叶えるよう進めて参ります。用具が是非必要です。新しいグループが出来ましたら、ご支援を。
- ・先程も述べたようにコミュニティハウスを新規で開設することで、地域課題の解決の一助になればと考えている。また将来的には市が主導するであろう重層的支援体制整備事業に協働し、重層

的支援会議への参画も含めて、多機関協働事業が推進するように協力はしたい。

- ・支える側のモチベーションの維持が大変ですね。
- ・1人1人の体質に合った健康法や、そのための知識や学ぶ機会の提供
- ・ボランティア団体が高齢化して、先細りになっていく印象が強いが、場所があり、各ボランティアの負担が短時間で軽ければ担い手は得られるのではないかと思う。薄く広く分担できると良い。
- ・高齢化や社会保障費の増加を背景にした地域のあり方について、国では地域包括という仕組みの構築について推進しているところですが、現実的に支え合う取り組みが障害者の生活支援に関してとても効果的な結果を残していることが多々あります。可能な範ちゅうで協働できる内容に協力したいと思います。
- ・福祉に関する市政情報を行政及び各団体が協働して、あらゆる機会に、更に機会を創出して市民各層に伝えること及び市民の意見が反映されることが、現在最も必要と考えます。
- ・本当はこれらお互いに困っていることなどを見たり、聞いたりしたら自然と体が動けば一番良いのでは→そのような小金井市が望まれる。資源は限られており、音が出なく、特定の年会、その中の重点施策を明確化して、小金井市の新たな理念の策定と施策の推進をすべき（誰のためにとどのくらい）
- ・精神障害者の専門的支援をとおして地域貢献や行政との協働を実施していく
- ・ひきこもり当事者や家族が気軽に集える場所の提供。40歳未満の当事者も健康診断を受けて外出のきっかけとなるようにしてほしい。伴走型支援を検討してほしい。
- ・地域一町会に加入し、回覧板をまわしたり、イベント（美化清掃、防災訓練）になるべく参加し、地域交流を行っている。行政一居住サポート事業は通過型グループホームにとっては2～3年毎に地域のアパート探しで苦勞しており、大変興味深い事業です。他、過去（20年前）は北多摩南部医療圏の会議があり、地域の課題を共有していましたが、今はそのような会議に地域の作業所、GHの参加はない為、実情がわかりにくくなっています。
- ・地域の障害のある方に団体の存在を知ってもらい、紹介させてもらい、心身の健康の一助になるよう、障害者同志が理解を深め、福祉の向上につなげていけたら良いと思う。

